
4. 健康・福祉

4. 健康・福祉

4-1 家族の健康状態

(問16) 現在のあなたや家族の健康状態はいかがですか。【あてはまるものすべてに○】

過去の調査と比較しても依然として「家族全員が健康である」(56.4%)が過半数を占めています。前回調査までは減少傾向でしたが、今回調査では増加しました。

それに対して、「あまり健康でない家族がいる」が減少、「病気やけがで通院している家族がいる」は増加しています。

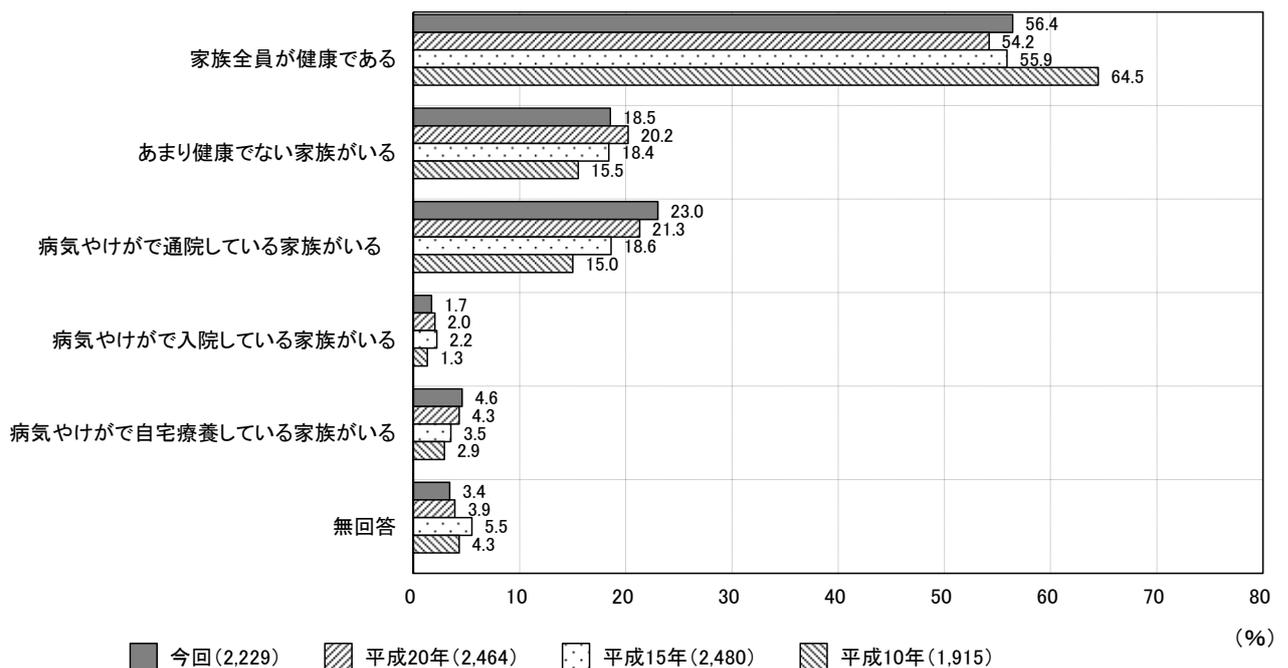
【全体】(図4-1-1)

- ◆「家族全員が健康である」が56.4%と圧倒的に多くなっています。
- ◆しかしながら、「病気やけがで通院している家族がいる」が23.0%、「あまり健康でない家族がいる」が18.5%と本人や家族が健康上の問題を抱えている市民はかなり多くいます。

【過去調査との比較】(図4-1-1)

- ◆「家族全員が健康である」については、過去減少傾向でしたが、今回調査では増加しました。
- ◆「病気やけがで通院している家族がいる」については、一貫して増加傾向となっています。
- ◆「あまり健康でない家族がいる」は、前回調査までは増加傾向でしたが、今回調査では減少しています。
- ◆「病気やけがで自宅療養している家族がいる」については、割合は低いですが一貫して増加傾向となっています。

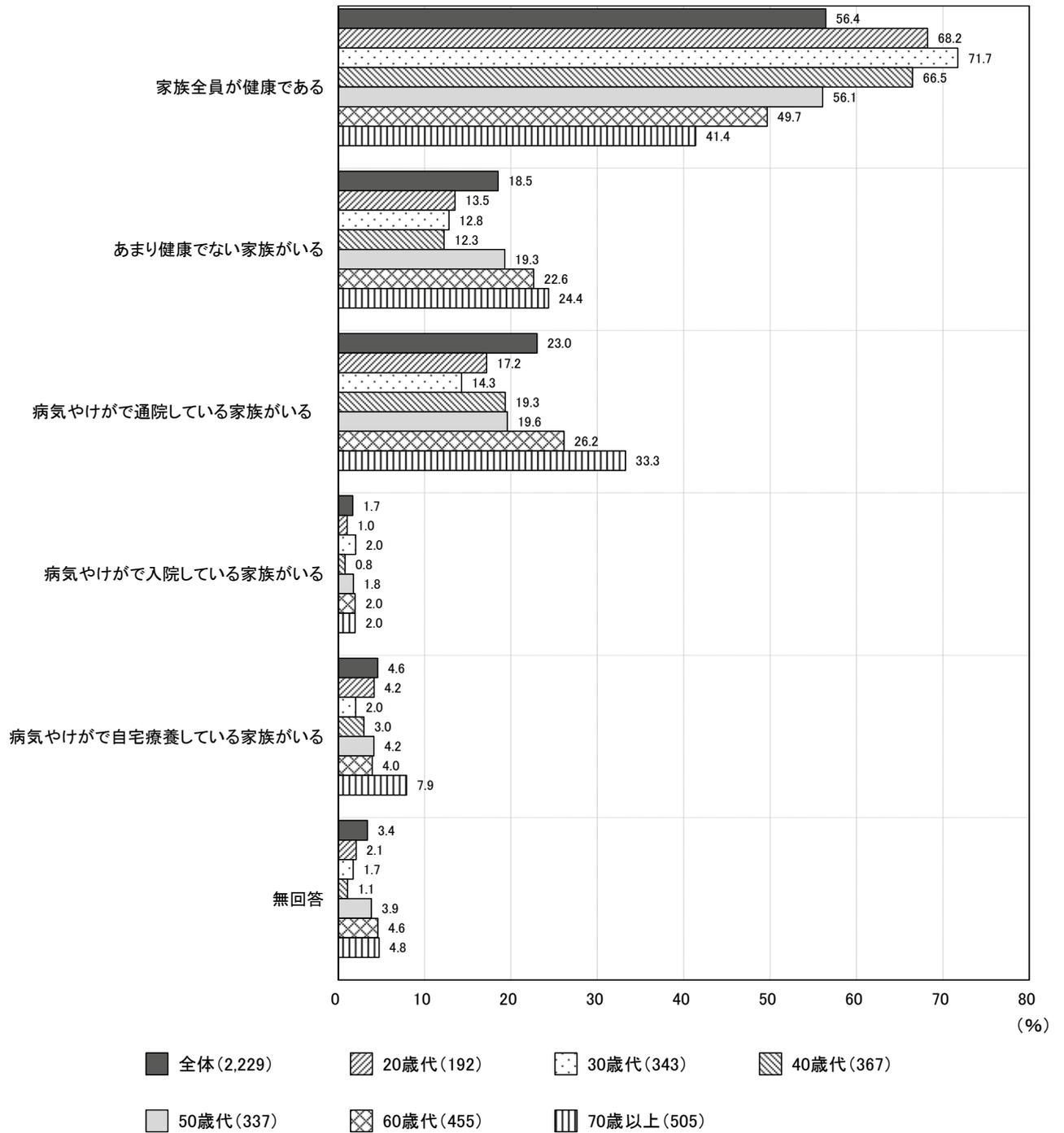
図4-1-1 「家族の健康状態」(過去調査との比較)



【年齢別】(図 4-1-2)

◆「家族全員が健康である」という割合は、年齢が高くなるにしたがって少なくなる傾向がみられます。逆に、「あまり健康でない家族がいる」や「病気やけがで通院している家族がいる」の割合については、年齢が高くなるにしたがって多くなる傾向がみられます。

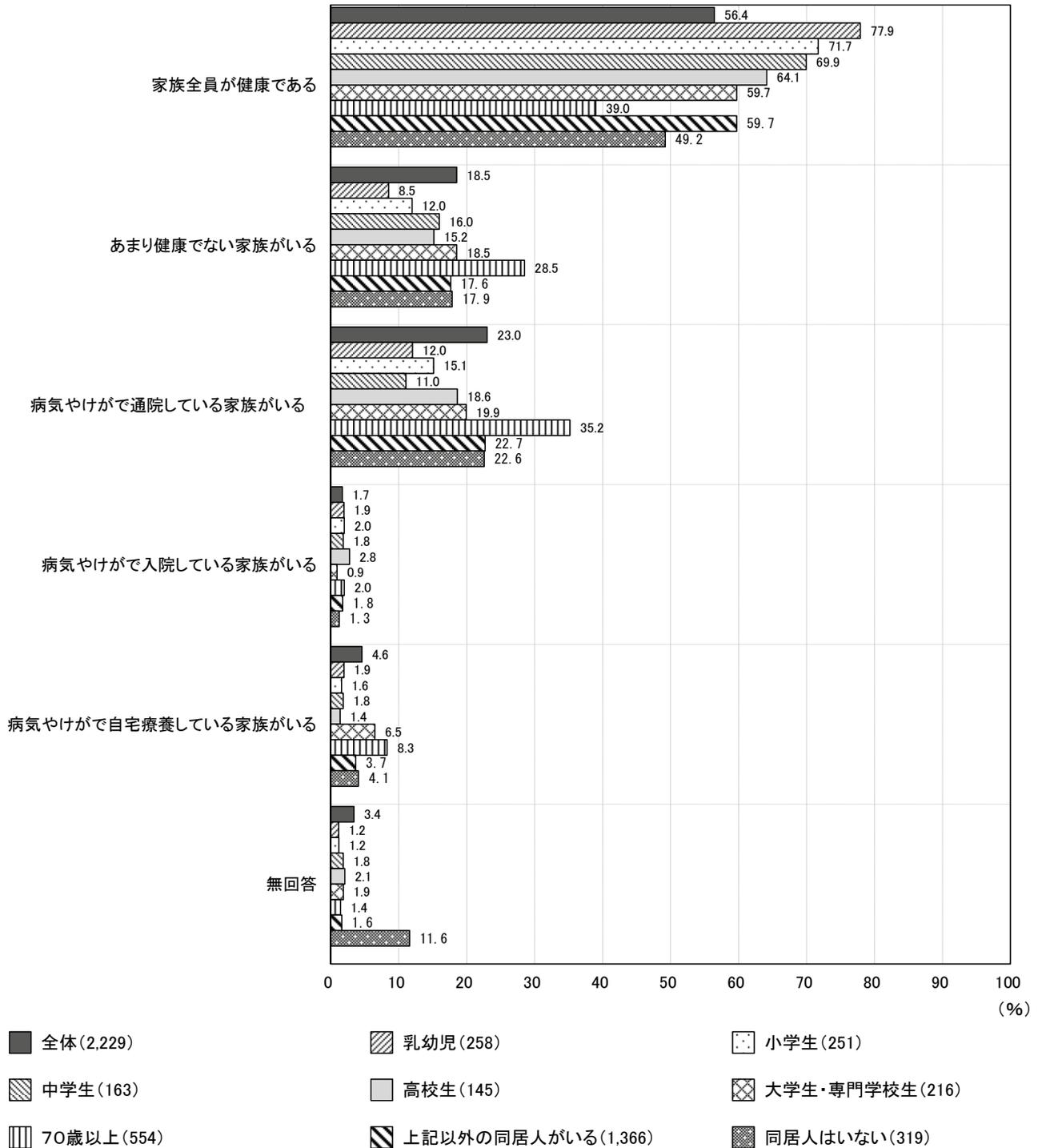
図 4-1-2 年齢別「家族の健康状態」



【世帯の構成者別】(図 4-1-3)

- ◆同居する子どもの年齢層が若いほど、「家族全員が健康である」の割合が多くなっています。
- ◆70歳以上の同居人がいる市民では、「家族全員が健康である」が39.0%と目立って少なくなっています。その分、「あまり健康でない家族がいる」が28.5%と「病気やけがで通院している家族がいる」が35.2%と多くなっています。

図 4-1-3 世帯の構成者別「家族の健康状態」



4-2 健康維持・増進のための行動

(問17) 健康維持・増進のために普段どのようなことを行っていますか。

【あてはまるものすべてに○】

「食生活に注意している」(65.4%)が最も多くなっています。次いで、「定期的に健康診断を受けている」「適度な休息をとり、規則正しい日常生活を送っている」「添加物の少ない食品や低農薬野菜などを取るよう、食物に気を使っている」が多くなっています。

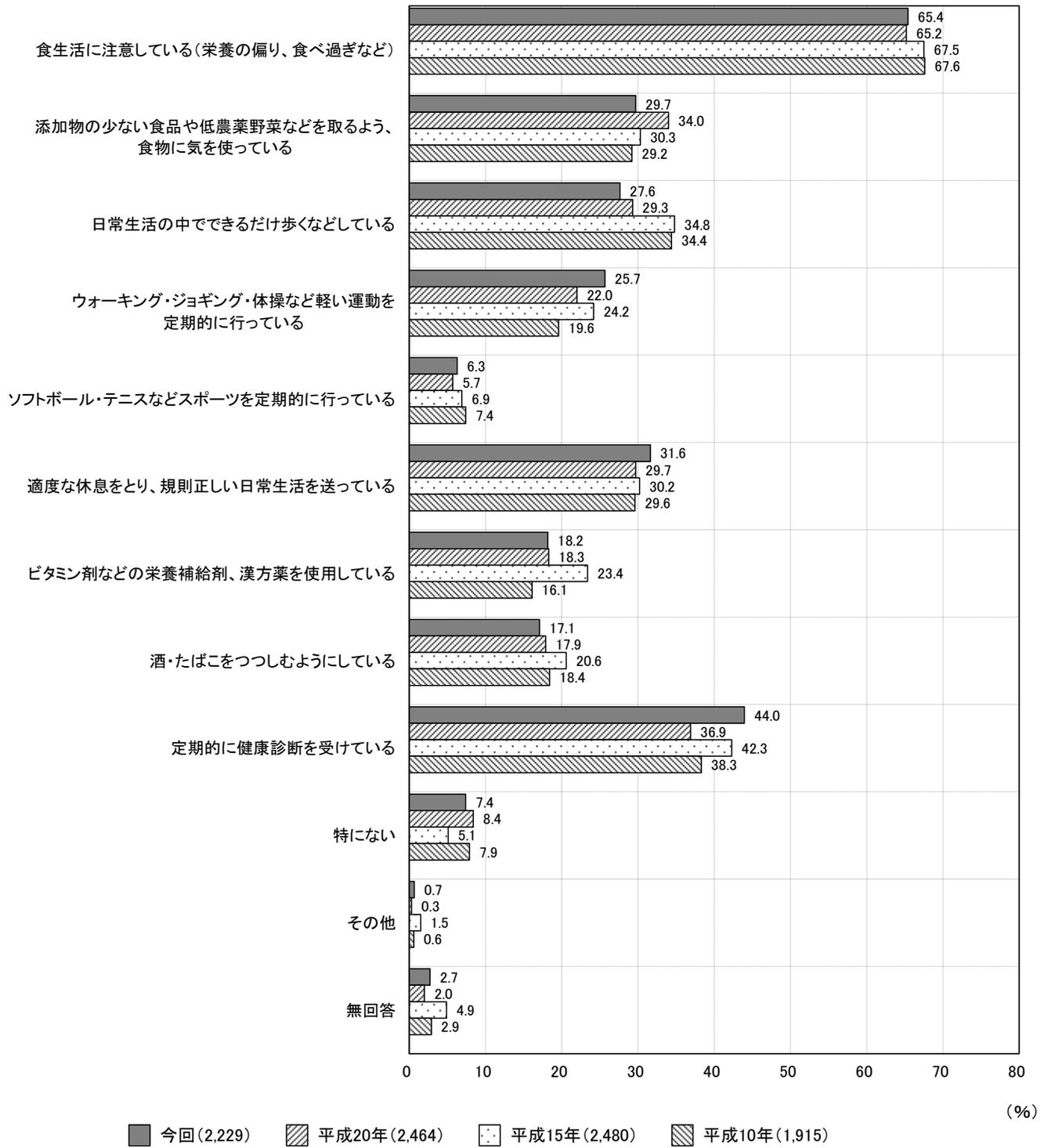
【全体】(図4-2-1)

- ◆「食生活に注意している」が65.4%と最も多くなっています。次いで、「定期的に健康診断を受けている」が44.0%、「適度な休息をとり、規則正しい日常生活を送っている」が31.6%、「添加物の少ない食品や低農薬野菜などを取るよう、食物に気を使っている」が29.7%となっています。
- ◆また、「日常生活の中でできるだけ歩くなどしている」(27.6%)や「ウォーキング・ジョギング・体操など軽い運動を定期的に行っている」(25.7%)、「ビタミン剤などの栄養補給剤、漢方薬を使用している」(18.2%)、「酒・たばこをつつしむようにしている」(17.1%)など、多くの市民は比較的多様な健康維持・増進を行っています。

【過去調査との比較】(図4-2-1)

- ◆前回調査と比較すると、「定期的に健康診断を受けている」(7.1ポイント)、「ウォーキング・ジョギング・体操など軽い運動を定期的に行っている」(3.7ポイント)、「適度な休息をとり、規則正しい日常生活を送っている」(1.9ポイント)など6項目が増加しています。
- ◆一方、「添加物の少ない食品や低農薬野菜などを取るよう、食物に気を使っている」(4.3ポイント)、「日常生活の中でできるだけ歩くなどしている」(1.7ポイント)など5項目が減少しています。

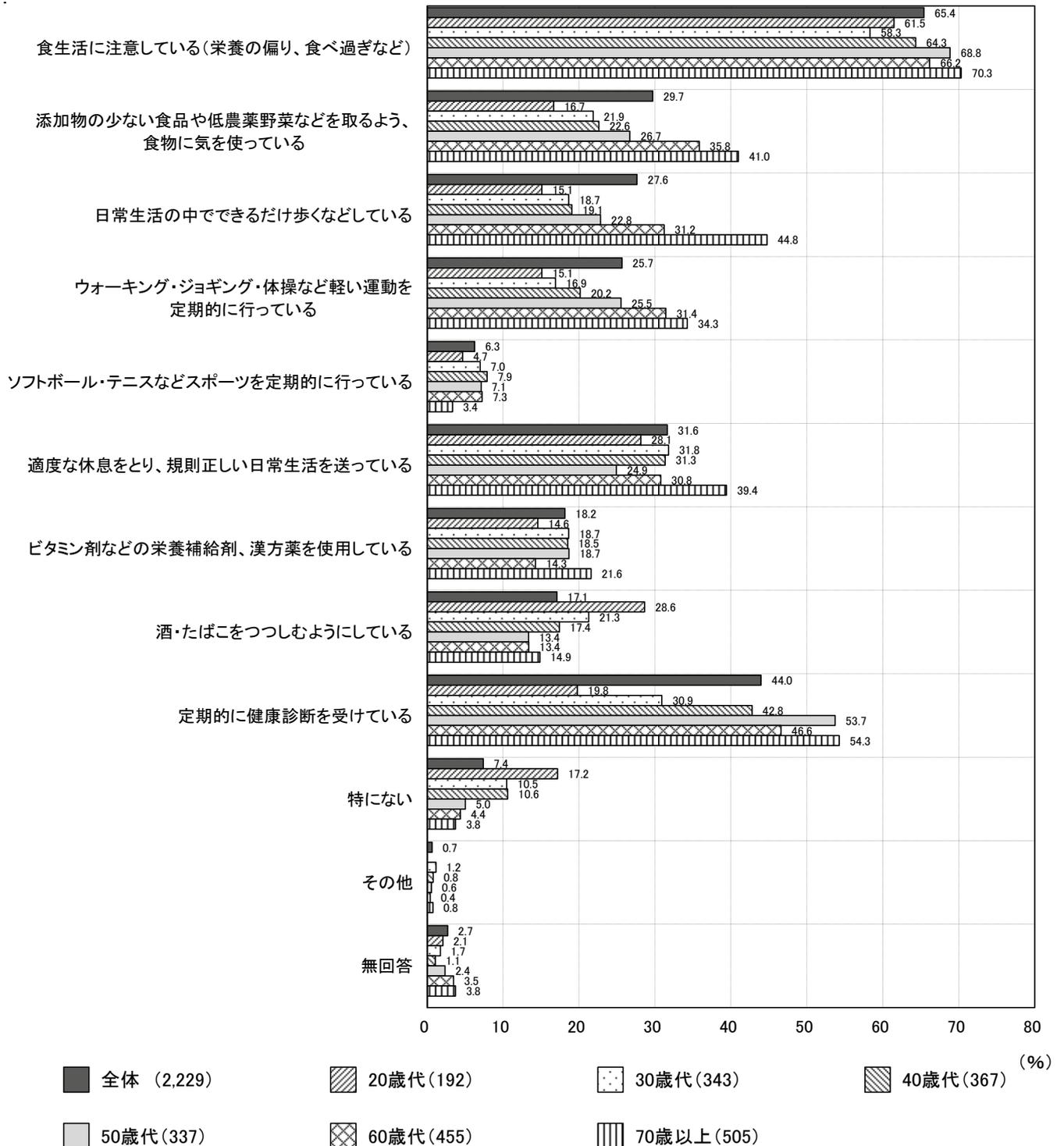
図 4-2-1 「健康維持・増進のための行動」(過去調査との比較)



【年齢別】(図 4-2-2)

- ◆「食生活に注意している」については、全年齢で最も割合が多く、いずれの年齢でも半数以上となっています。
- ◆次いで、20歳代では「酒・たばこをつつしむようにしている」(28.6%)、30歳代では「適度な休息をとり、規則正しい日常生活を送っている」(31.8%)、40歳以上では「定期的に健康診断を受けている」(42.8%)が多くなっています。
- ◆70歳以上においては、健康維持・増進のための行動をする割合が、他の年齢に比べて高い傾向にあります。

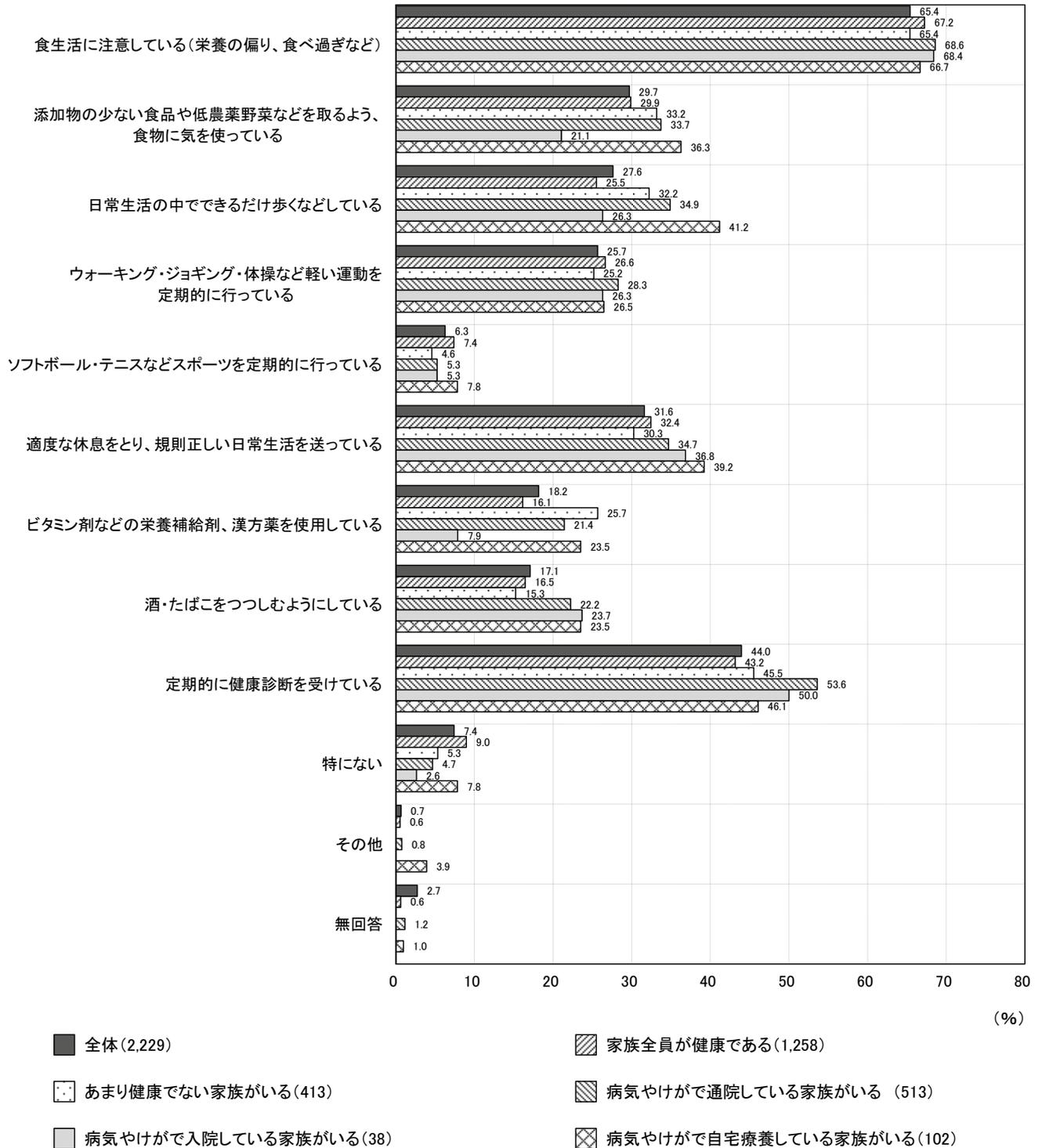
図 4-2-2 年齢別「健康維持・増進のための行動」



【家族の健康状態別】(図 4-2-3)

- ◆家族の健康状態と健康維持・増進のための行動とは、あまり相関がみられません。
- ◆差の最も大きな項目は、「ビタミン剤などの栄養補給剤、漢方薬を使用している」で、「あまり健康でない家族がいる」が 25.7%で最も高く、「病気やけがで入院している家族がいる」が 7.9%で最も低く、17.8 ポイントの差があります。

図 4-2-3 家族の健康状態別「健康維持・増進のための行動」



4-3 健康づくり施策に対する要望

(問18) 岩倉市では、次のような健康づくりの施策を実施しています。今後どの施策によりいっそう力をいれるべきだと思いますか。【〇は3つまで】

「健康診断やがん検診の充実」(60.8%)が最も多くの市民から望まれており、その割合は年々増加していましたが、今回は減少しました。「健康に関する知識を得るための機会の充実」や「気軽にできる健康体操教室の充実」なども比較的多くの市民から望まれています。

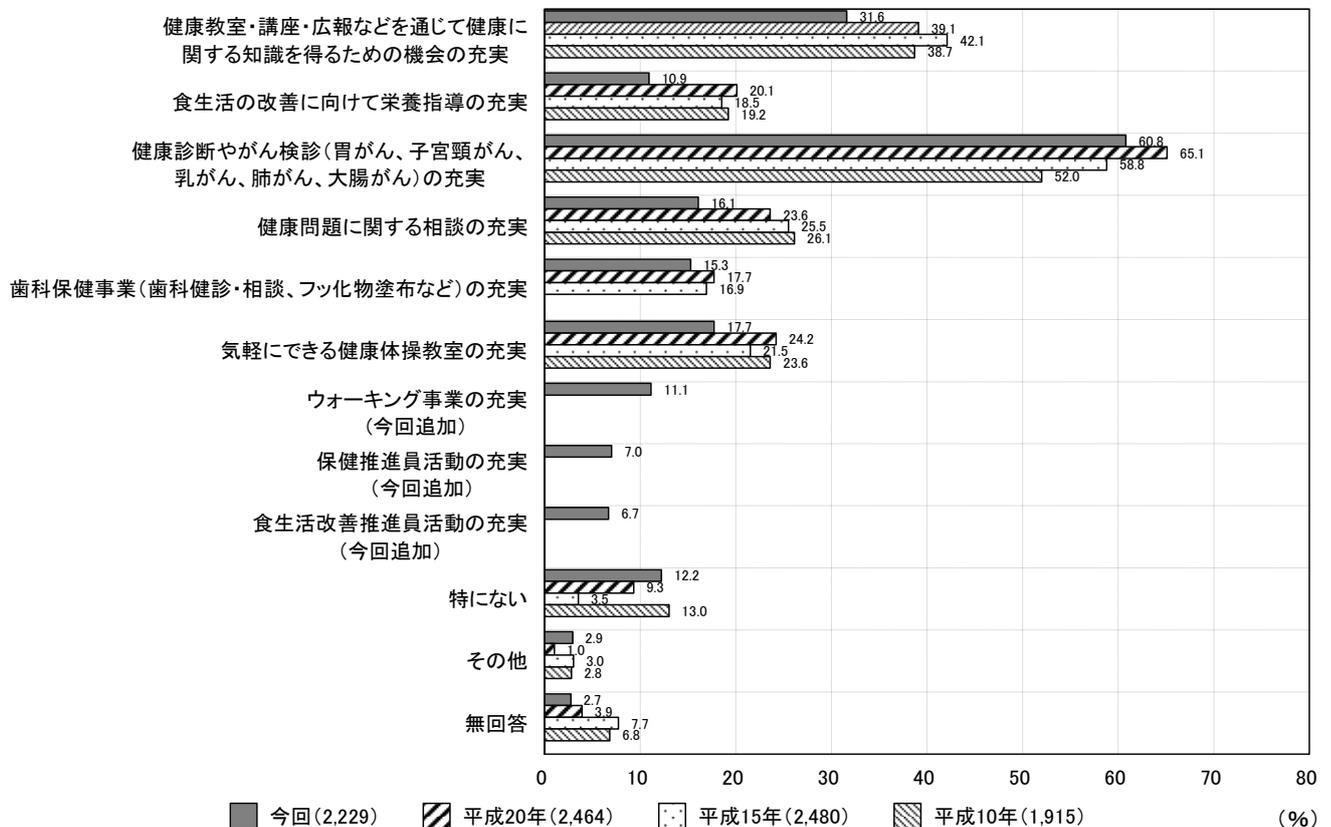
【全体】(図4-3-1)

- ◆「健康診断やがん検診の充実」が最も多く60.8%となっています。次いで、「健康に関する知識を得るための機会の充実」が31.6%となっています。
- ◆「気軽にできる健康体操教室の充実」は17.7%、「健康問題に関する相談の充実」は16.1%、「歯科保健事業の充実」は15.3%となっています。

【過去調査との比較】(図4-3-1)

- ◆今回「ウォーキング事業の充実」(11.1%)、「保健推進員活動の充実」(7.0%)、「食生活改善推進員活動の充実」(6.7%)を追加したこともあり、前回調査と比較すると「特にない」、「その他」を除き、減少しています。「食生活の改善に向けて栄養指導の充実」は9.2ポイント、「健康に関する知識を得るための機会の充実」及び「健康問題に関する相談の充実」は7.5ポイント減少しています。

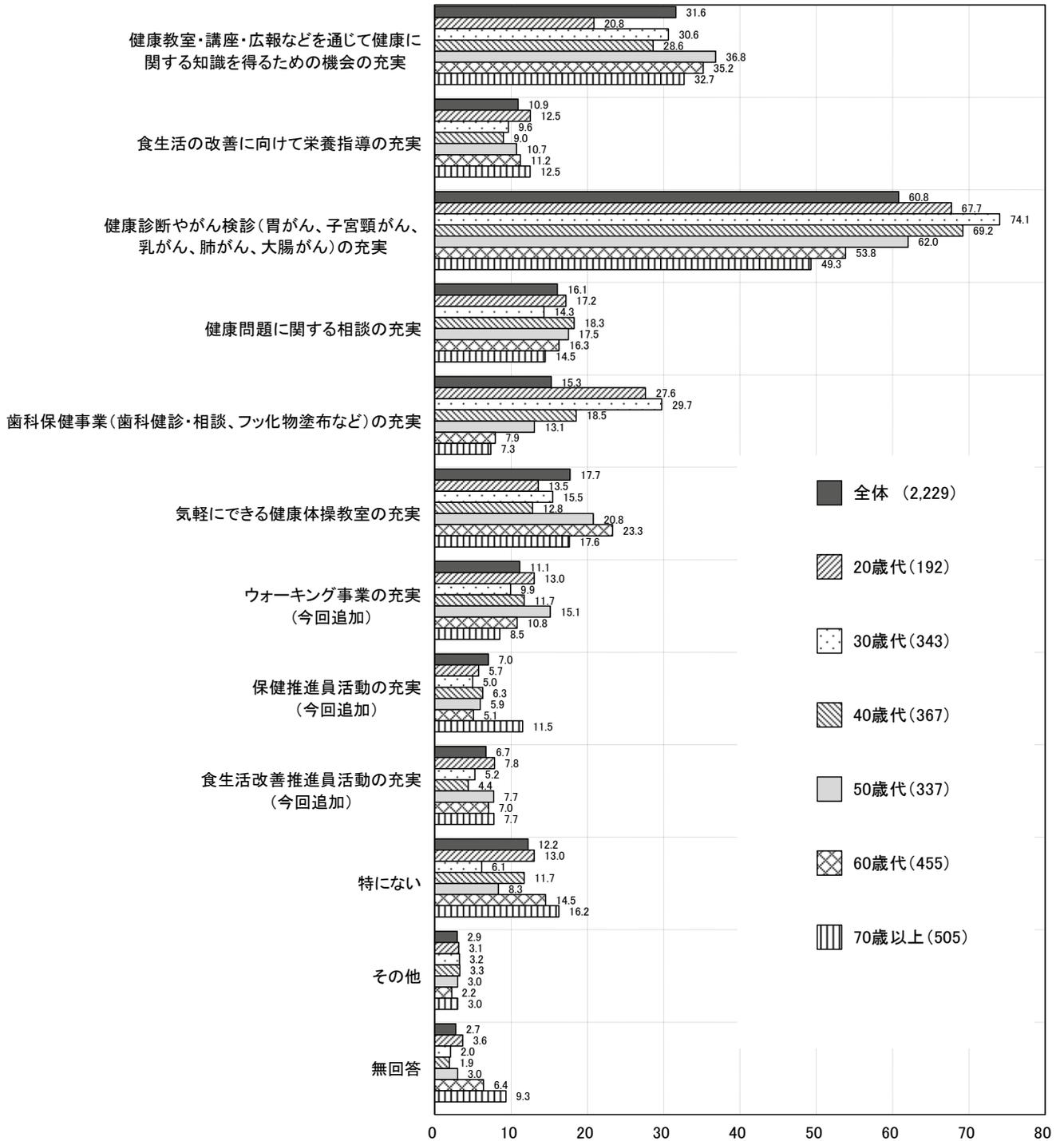
図4-3-1 「健康づくり施策に対する要望」(過去調査との比較)



【年齢別】(図 4-3-2)

- ◆すべての年齢で「健康診断やがん検診の充実」が最も多く要望されています。
- ◆年齢別で最も差の大きな項目は、「健康診断やがん検診の充実」で30歳代が74.1%に対し70歳以上が49.3%で、差は24.8ポイントとなっています。
- ◆次いで差の大きな項目は、「歯科保健事業の充実」で30歳代が29.7%に対し70歳以上が7.3%で、差は22.4ポイントとなっています。

図 4-3-2 年齢別「健康づくり施策に対する要望」

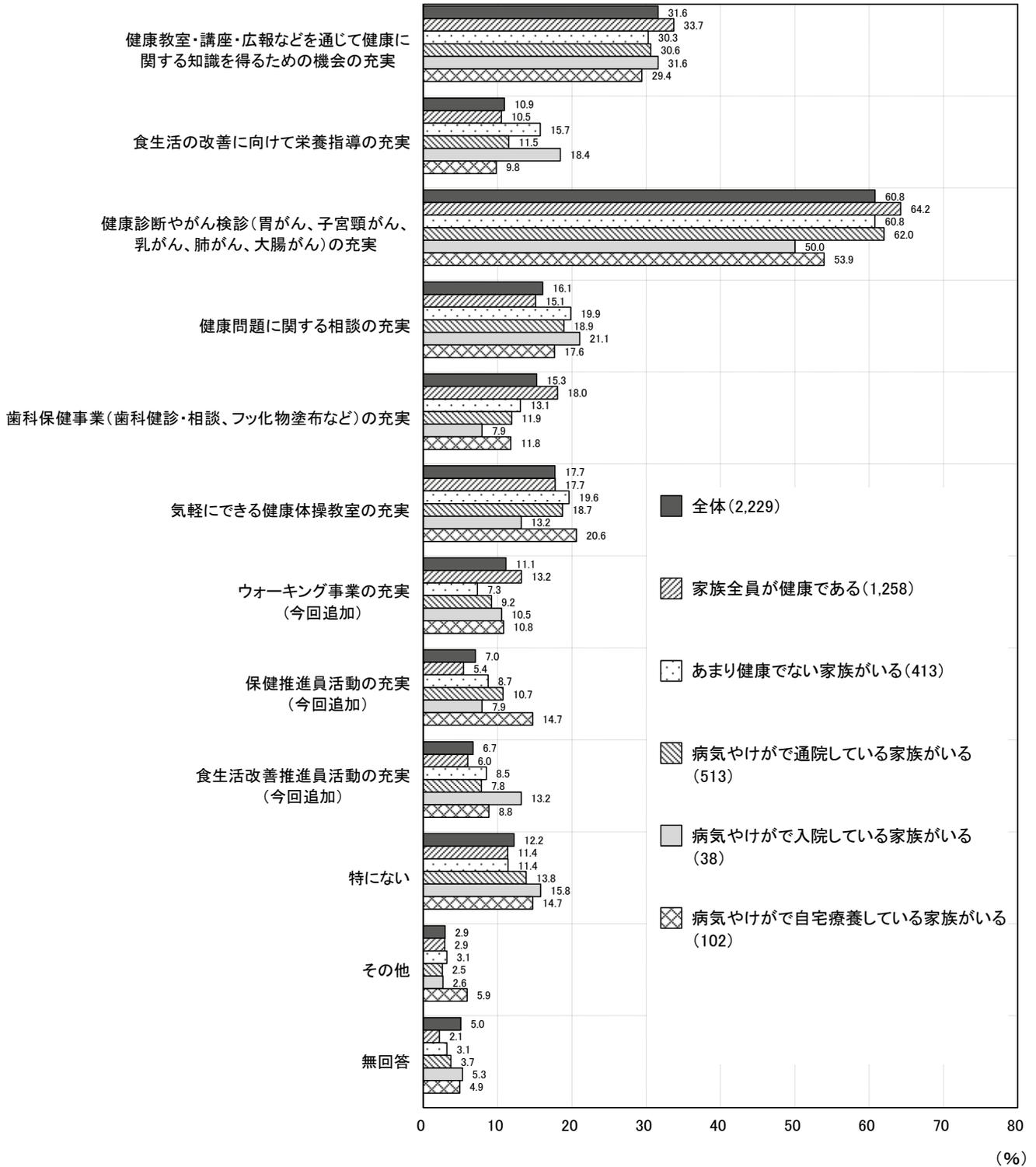


(%)

【家族の健康状態別】(図 4-3-3)

- ◆家族の健康状態と健康づくり施策に対する要望とは、あまり相関がみられません。
- ◆家族の健康状態別においても、「健康診断やがん検診の充実」が最も多く、「家族全員が健康である」が64.2%、「病気やけがで通院している家族がいる」が62.0%、「あまり健康でない家族がいる」が60.8%となっています。

図 4-3-3 家族の健康状態別「健康づくり施策に対する要望」



4-4 子育てや青少年の健全育成の問題点

(問19) 子育てや青少年の健全育成の現状について、根本的に何が問題であると思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

「家庭でのしつけが不十分である」(60.4%)や「家庭でのふれあいが不十分である」(41.1%)といった子育てや青少年の健全育成の問題点は家庭にあるとする回答が多くなっています。社会からの影響や地域社会等に関する指摘も決して少なくはありません。

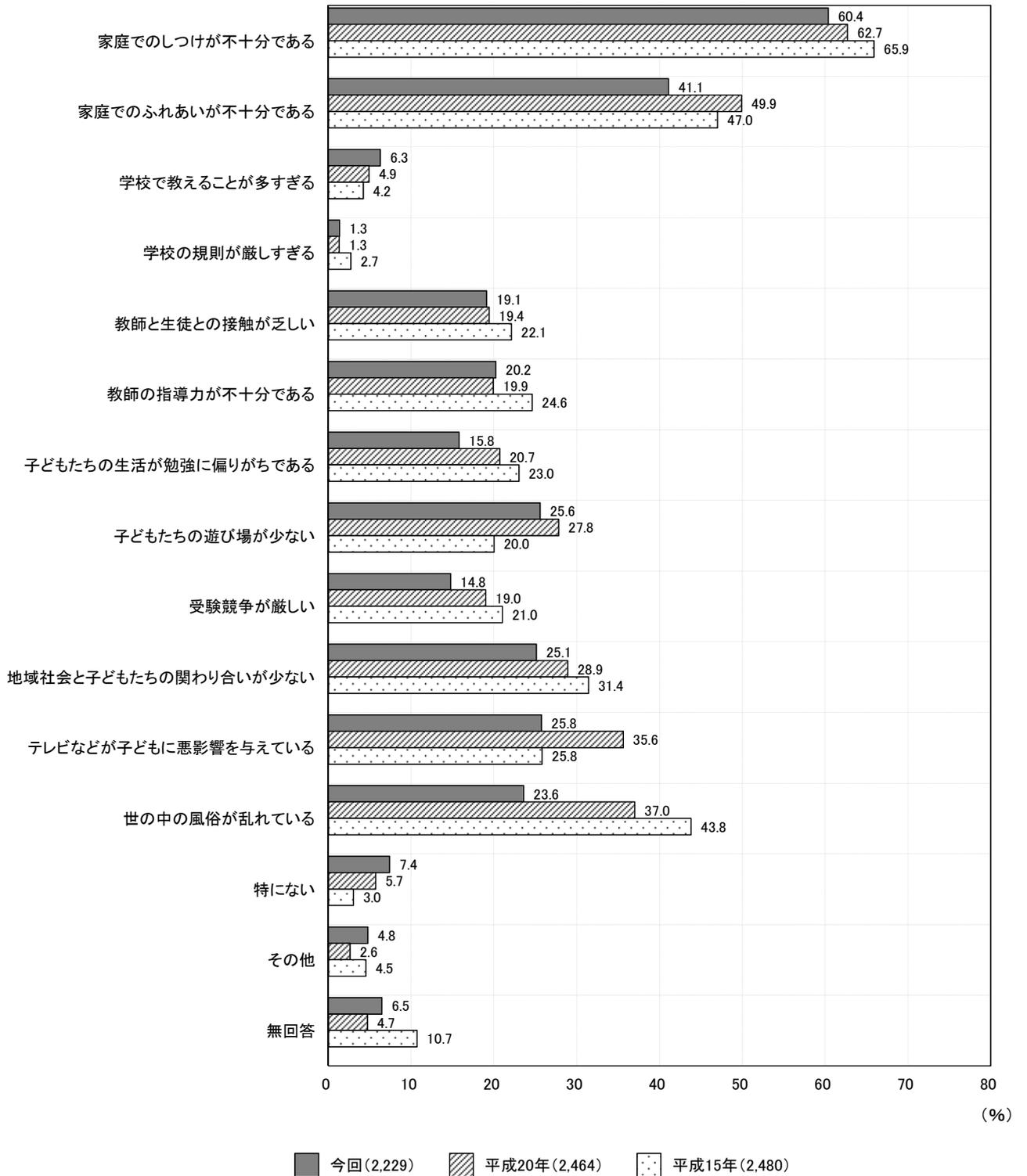
【全体】(図4-4-1)

- ◆「家庭でのしつけが不十分である」が60.4%と最も多く、次いで「家庭でのふれあいが不十分である」が41.1%となっており、子育てや青少年の健全育成の問題点は家庭にあるとする回答が多くなっています。
- ◆「テレビなどが子どもに悪影響を与えている」が25.8%、「世の中の風俗が乱れている」が23.6%となっており、社会からの影響が子どもに悪影響を与えていることを問題点とする指摘も比較的多くなっています。
- ◆また、「子どもたちの遊び場が少ない」(25.6%)や「地域社会と子どもたちとの関わりが少ない」(25.1%)といった地域社会や地域環境に対する問題点の指摘も比較的多くなっています。

【過去調査との比較】(図4-4-1)

- ◆前回調査と比較して増加している項目は「学校で教えることが多すぎる」(1.4ポイント)、「教師の指導力が不十分である」(0.3ポイント)となっています。
- ◆前回調査と比較して減少している項目は「世の中の風俗が乱れている」(13.4ポイント)、「テレビなどが子どもに悪影響を与えている」(9.8ポイント)、「家庭でのふれあいが不十分である」(8.8ポイント)となっています。

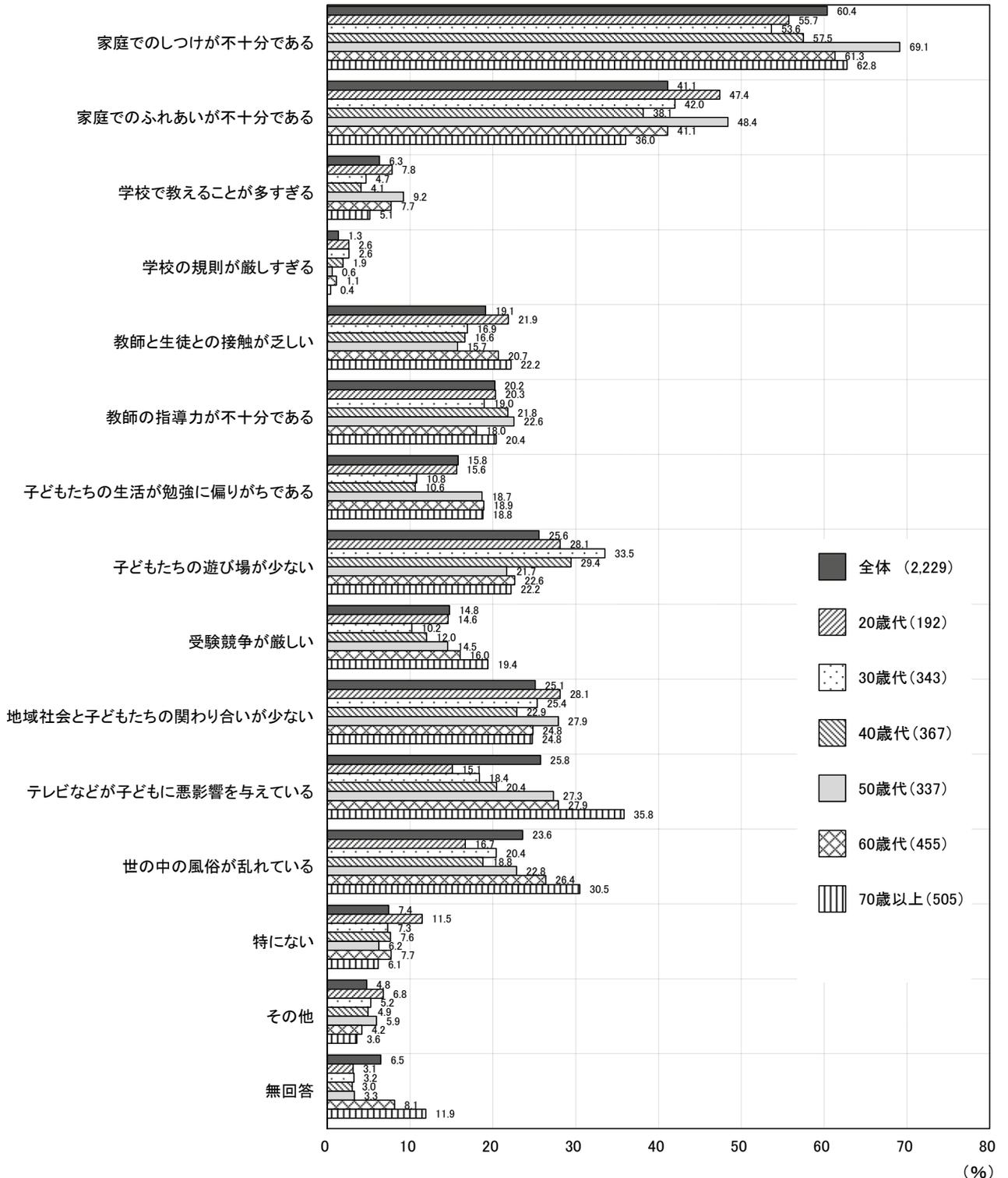
図 4-4-1 「子育てや青少年の健全育成の問題点」(過去調査との比較)



【年齢別】(図 4-4-2)

- ◆すべての年齢で「家庭でのしつけが不十分である」については、最も多くなっています。次いで、「家庭でのふれあいが不十分である」となっています。
- ◆年齢別での差の最も大きな項目は、「テレビなどが子どもに悪影響を与えている」で70歳以上が35.8%で最も多く、20歳代が15.1%で最も少なく、その差は20.7ポイントとなっています。この項目は、年齢が高くなるにつれて割合が増加しています。
- ◆年齢別での差の次に大きな項目は、「家庭でのしつけが不十分である」で50歳代が69.1%で最も多く、30歳代が53.6%で最も少なく、その差は15.5ポイントとなっています。

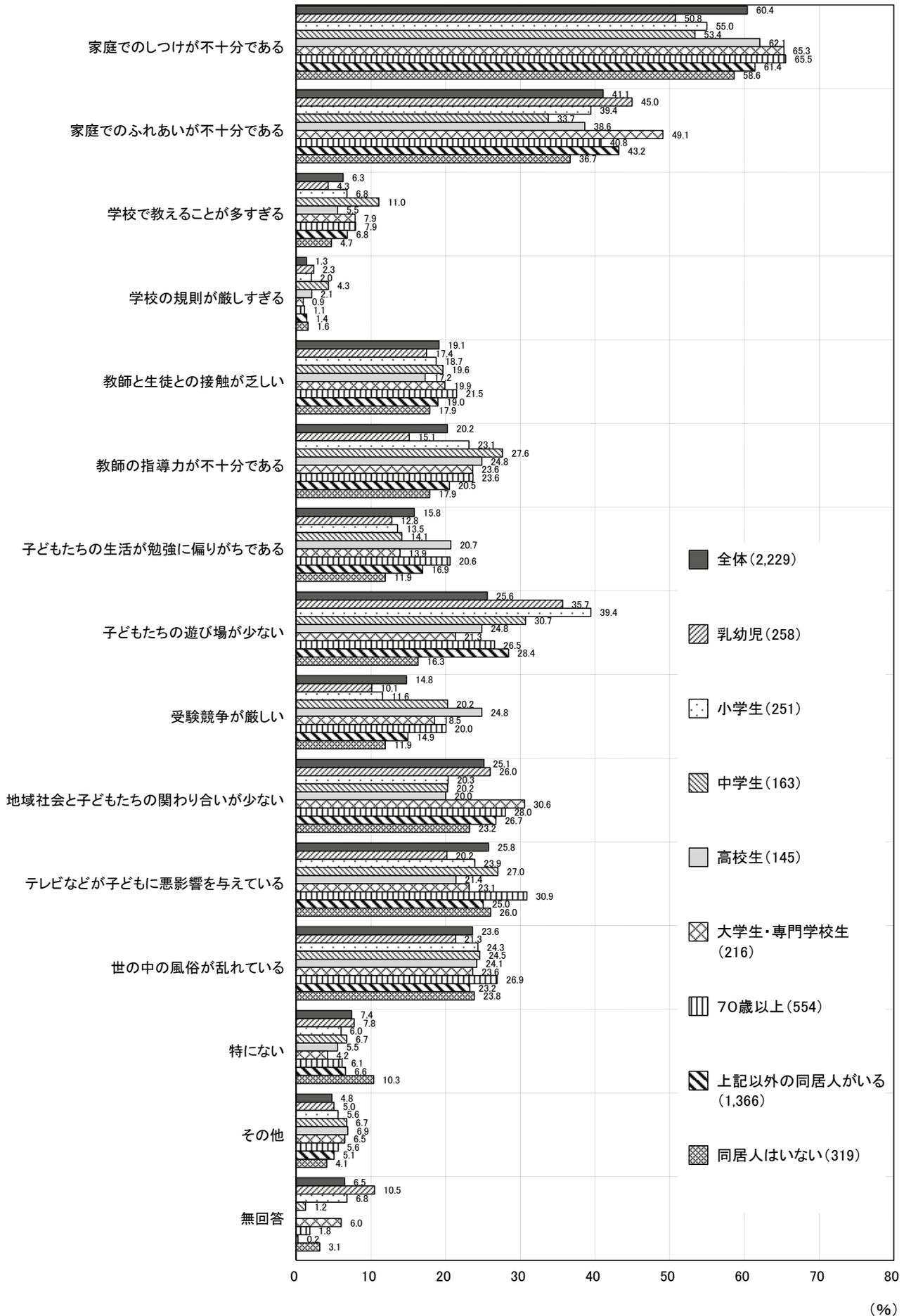
図4-4-2 年齢別「子育てや青少年の健全育成の問題点」



【世帯の構成者別】(図 4-4-3)

- ◆すべての世帯の構成者別で「家庭でのしつけが不十分である」が最も多く、次いで「家庭でのふれあいが不十分である」となっています。
- ◆「家庭でのしつけが不十分である」で最も多いのは70歳以上がいるが65.5%で、最も低いのは乳幼児がいる(50.8%)と、その差は14.7ポイントとなっています。
- ◆世帯の構成者別で最も差のある項目は「子どもたちの遊び場が少ない」で小学生がいるが39.4%で最も多く、同居人はいないが16.3%で最も少なく、その差は23.1ポイントとなっています。
- ◆次に差の大きな項目は「家庭でのふれあいが不十分である」で学生・専門学校生がいるが49.1%で最も多く、中学生がいるが33.7%で最も少なく、その差は15.4ポイントとなっています。

図 4-4-3 世帯の構成者別「子育てや青少年の健全育成の問題点」



4-5 子育てに関する施策への要望

(問20) 子育てしやすい環境を整えるために、岩倉市ではどのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。【〇は3つまで】

「安心して子どもを遊ばせることができる広場・公園などの整備」(27.9%)が最も多くなっています。次いで、「育児休業や労働時間短縮など子育てしながら働き続ける環境の整備」、「子どもが犯罪、交通事故などから守られる地域環境の整備」が多くなっています。

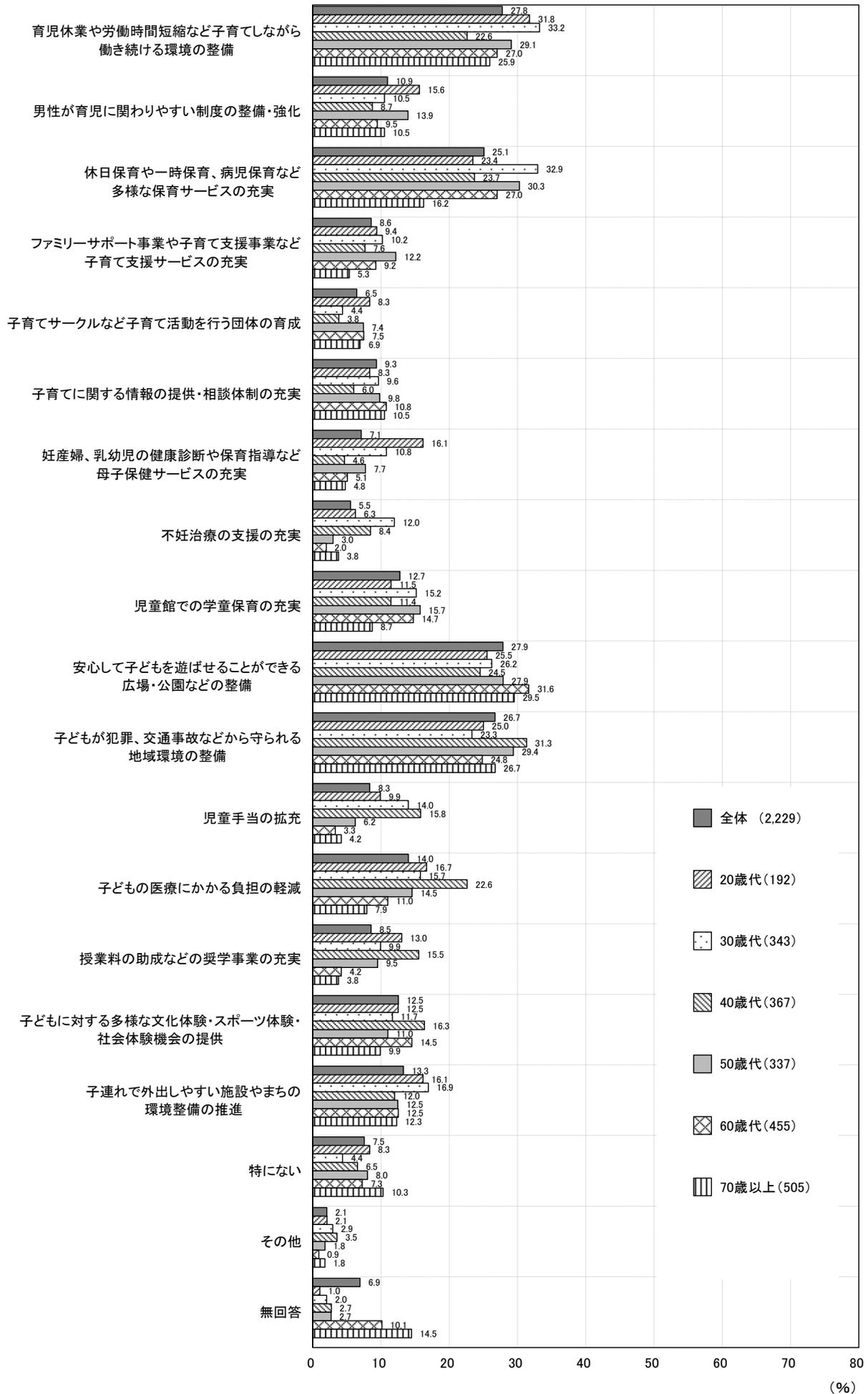
【全体】(図4-5-1)

- ◆「安心して子どもを遊ばせることができる広場・公園などの整備」が27.9%と最も多く、「育児休業や労働時間短縮など子育てしながら働き続ける環境の整備」が27.8%と、ほぼ同程度の割合で続いています。次に要望が多い項目は、「子どもが犯罪、交通事故などから守られる地域環境の整備」で26.7%、「休日保育や一時保育、病児保育など多様な保育サービスの充実」で25.1%となっています。
- ◆上記の項目よりは若干割合が少なくなりますが、「子どもの医療にかかる負担の軽減」(14.0%)や「子連れで外出しやすい施設やまちの環境整備の推進」(13.3%)についても比較的多くの市民から要望が出されています。
- ◆以上のように、いわゆる保育サービスなどといった典型的な子育て支援施策に対する要望とともに多くの市民から子どもの安全に関する項目に対する要望も出されていることが特徴となっています。

【年齢別】(図4-5-1)

- ◆年齢別で差が最も大きな項目は「休日保育や一時保育、病児保育など多様な保育サービスの充実」で30歳代が32.9%で最も多く、70歳以上が16.2%で最も少なく、その差は16.7ポイントとなっています。
- ◆次に差が大きな項目は「子どもの医療にかかる負担の軽減」で40歳代が22.6%で最も多く、70歳以上が7.9%で最も少なく、その差は14.7ポイントとなっています。

図 4-5-1 年齢別「子育てに関する施策への要望」

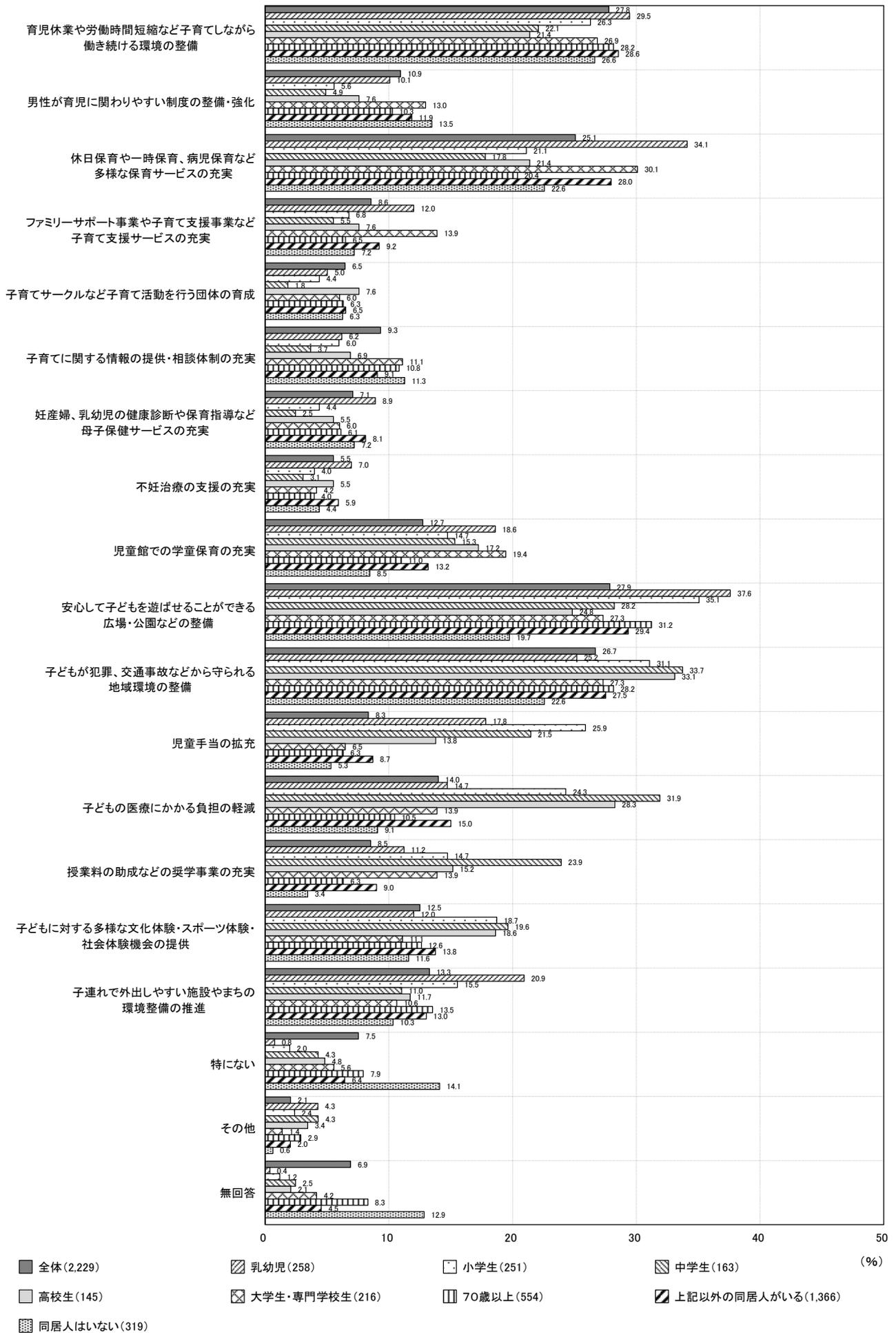


(%)

【世帯の構成者別】(図 4-5-2)

- ◆最も差の大きな項目は「子どもの医療にかかる負担の軽減」で中学生がいるが31.9%で最も多く、同居人はいないが9.1%で最も少なく、その差は22.8ポイントとなっています。
- ◆次に差の大きな項目は「授業料の助成などの奨学事業の充実」で中学生がいるが23.9%で最も多く、同居人はいないが3.4%で最も少なく、その差は20.5ポイントとなっています。
- ◆「安心して子どもを遊ばせることができる広場・公園などの整備」に対する要望は、特に、乳幼児がいるが37.6%と多く、小学生がいるが35.1%と多くなっています。
- ◆「育児休業や労働時間短縮など子育てしながら働き続ける環境の整備」に対する要望は、乳幼児がいるが29.5%で最も多くなっています。
- ◆「子どもが犯罪、交通事故などから守られる地域環境の整備」に対する要望は、中学生がいるが33.7%で最も多くなっており、次いで、高校生がいるが33.1%、小学生がいるが31.1%となっています。
- ◆「休日保育や一時保育、病児保育など多様な保育サービスの充実」については、乳幼児がいるが34.1%と多くなっており、大学生・専門学校生がいる(30.1%)においても多くなっています。

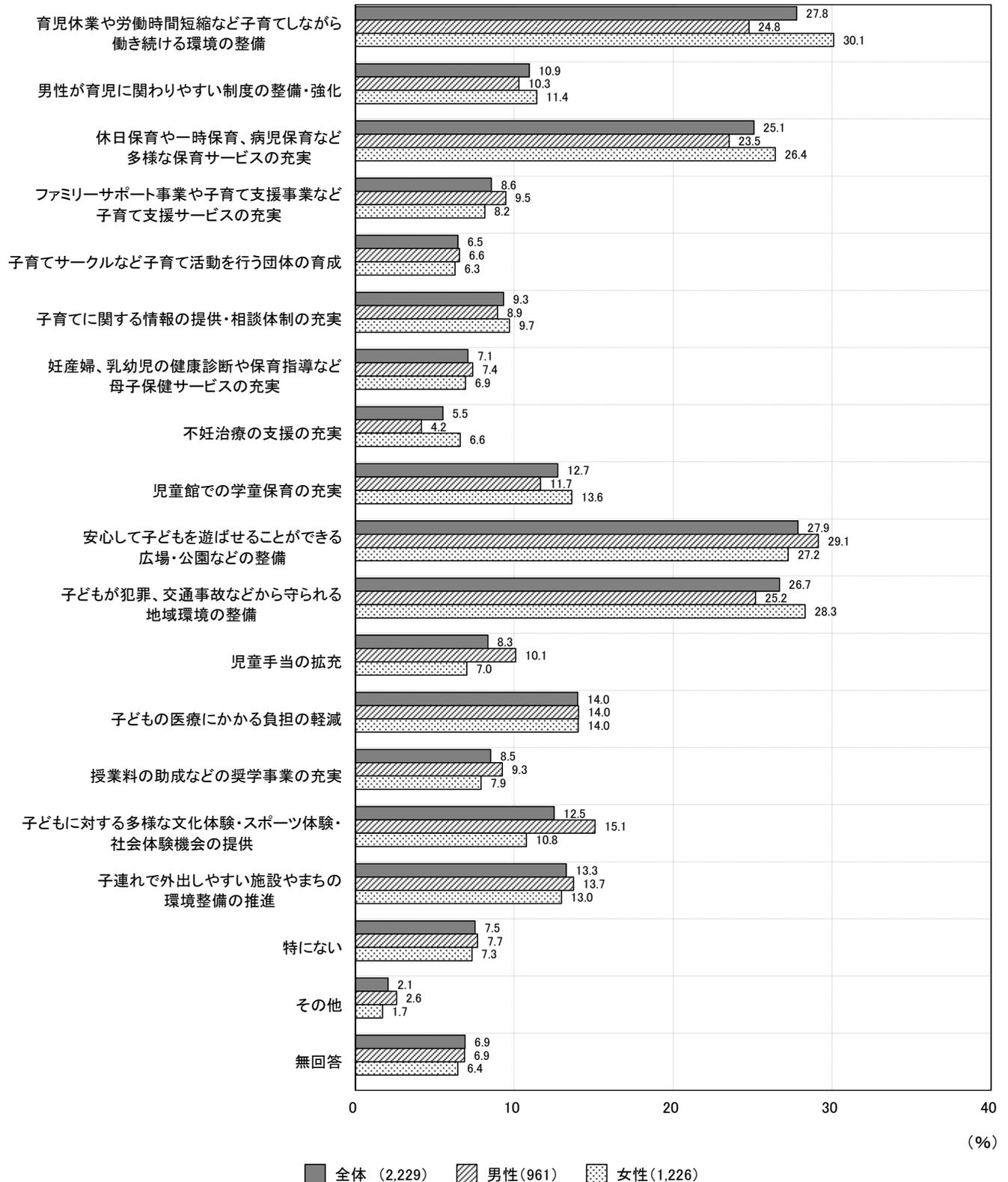
図 4-5-2 世帯の構成者別「子育てに関する施策への要望」



【性別】(図 4-5-3)

◆性別で最も差の大きな項目は「育児休業や労働時間短縮など子育てしながら働き続ける環境の整備」で、女性の方が男性よりも 5.3 ポイント上回っており、次いで「子どもに対する多様な文化体験・スポーツ体験・社会体験機会の提供」で男性の方が女性よりも 4.3 ポイント上回っています。

図 4-5-3 性別「子育てに関する施策への要望」



4-6 食育に対する関心事項

(問21) あなたは食育について、どのようなことに関心がありますか。【〇は3つまで】

* 食育：自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習などの取組

「生活習慣病の予防や健康づくりのための食生活」（52.0%）の割合が最も多く、「食品の安全性に関すること」、「子どもたちの心身の健全な発育のための食生活」が続いています。また、「食べ残しや食品廃棄に関すること」、「地産地消に関すること」も少なくありません。

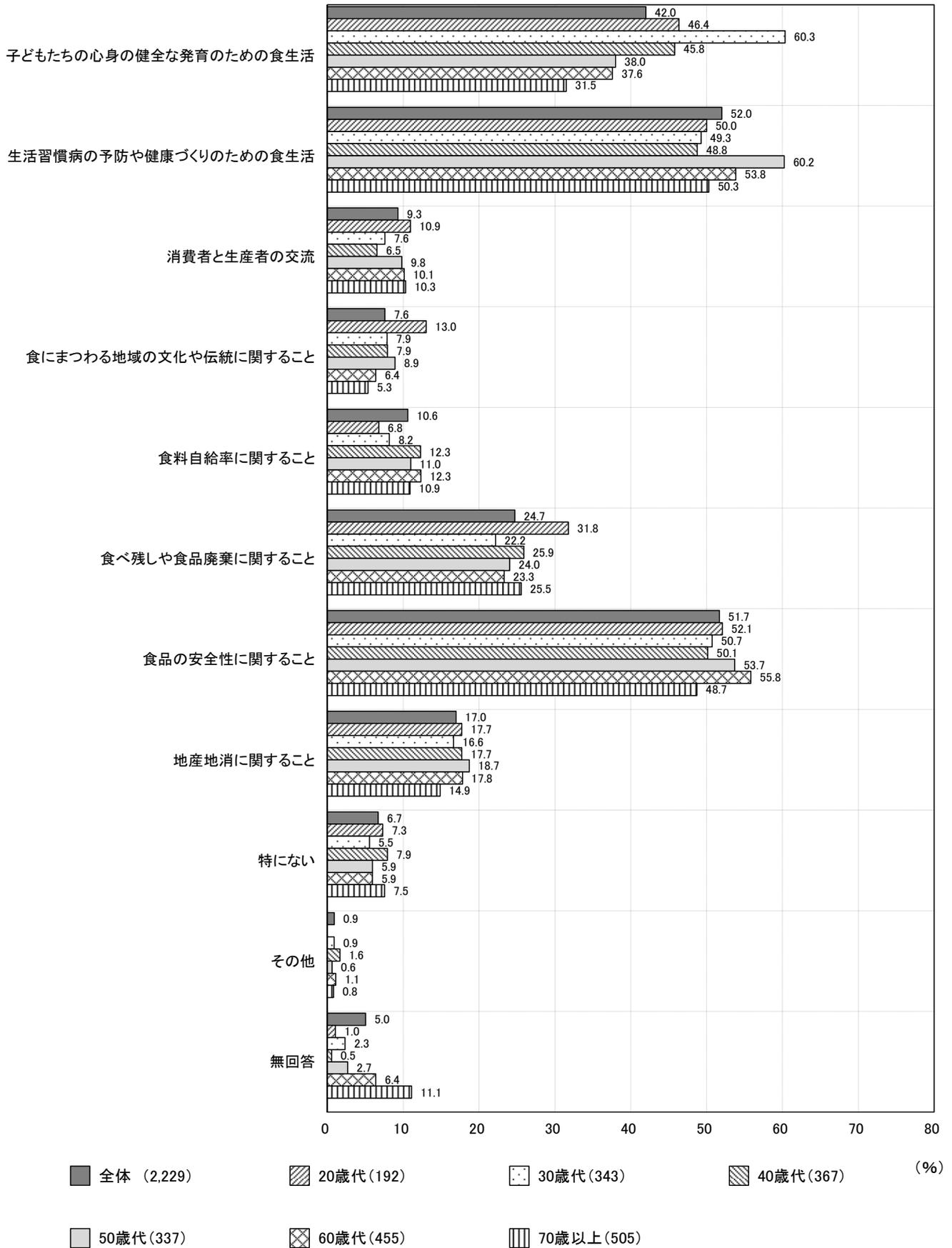
【全体】(図 4-6-1)

- ◆「生活習慣病の予防や健康づくりのための食生活」が52.0%と最も多くなっています。次いで、「食品の安全性に関すること」が51.7%、「子どもたちの心身の健全な発育のための食生活」が42.0%、「食べ残しや食品廃棄に関すること」が24.7%、「地産地消に関すること」が17.0%となっています。

【年齢別】(図 4-6-1)

- ◆年齢別で差が最も大きな項目は「子どもたちの心身の健全な発育のための食生活」で、30歳代が60.3%と最も多く、70歳以上が31.5%で最も少なく、その差は28.8ポイントとなっています。
- ◆次に差が大きな項目は「生活習慣病の予防や健康づくりのための食生活」で、50歳代が60.2%と最も多く、40歳代が48.8%で最も少なく、その差は11.4ポイントとなっています。
- ◆「食品の安全性に関すること」については、60歳代で55.8%と若干多くなっています。
- ◆「食べ残しや食品廃棄に関すること」については、20歳代で31.8%と他の年齢よりも若干多くなっています。
- ◆「地産地消に関すること」については、50歳代で18.7%と他の年齢よりも若干多くなっていますが、70歳以上で14.9%と他の年齢よりも若干少なくなっています。

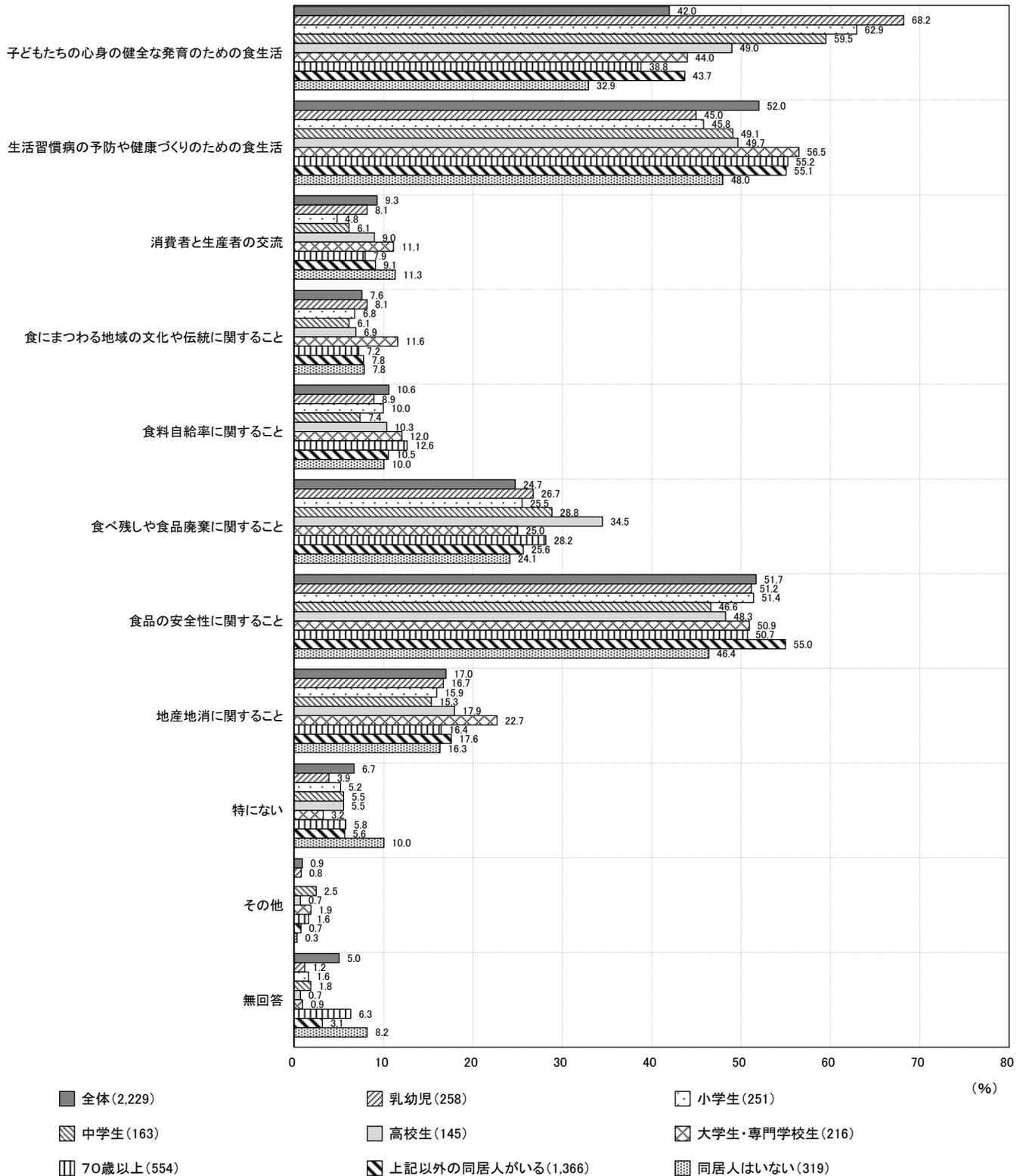
図 4-6-1 年齢別「食育に対する関心事項」



【世帯の構成者別】(図 4-6-2)

- ◆「生活習慣病の予防や健康づくりのための食生活」については、大学生・専門学校生 (56.5%)、70歳以上 (55.2%) で若干多くなっています。
- ◆「食品の安全性に関すること」については、上記以外の同居人がいる (55.0%) で若干多くなっています。
- ◆「子どもたちの心身の健全な発育のための食生活」については、乳幼児がいる (68.2%)、小学生がいる (62.9%) で多くなっています。

図 4-6-2 世帯の構成者別「食育に対する関心事項」



4-7 高齢者福祉に対する要望

問22 高齢者福祉として、岩倉市ではどのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。

【〇は3つまで】

「特別養護老人ホームやデイサービスなどの介護サービスを充実する」（38.4%）が最も多くなっています。次いで、「高齢者の就労機会を充実する」「道路の段差解消やスロープの設置など、高齢者が安心して外出できるまちづくりを進める」が続いています。

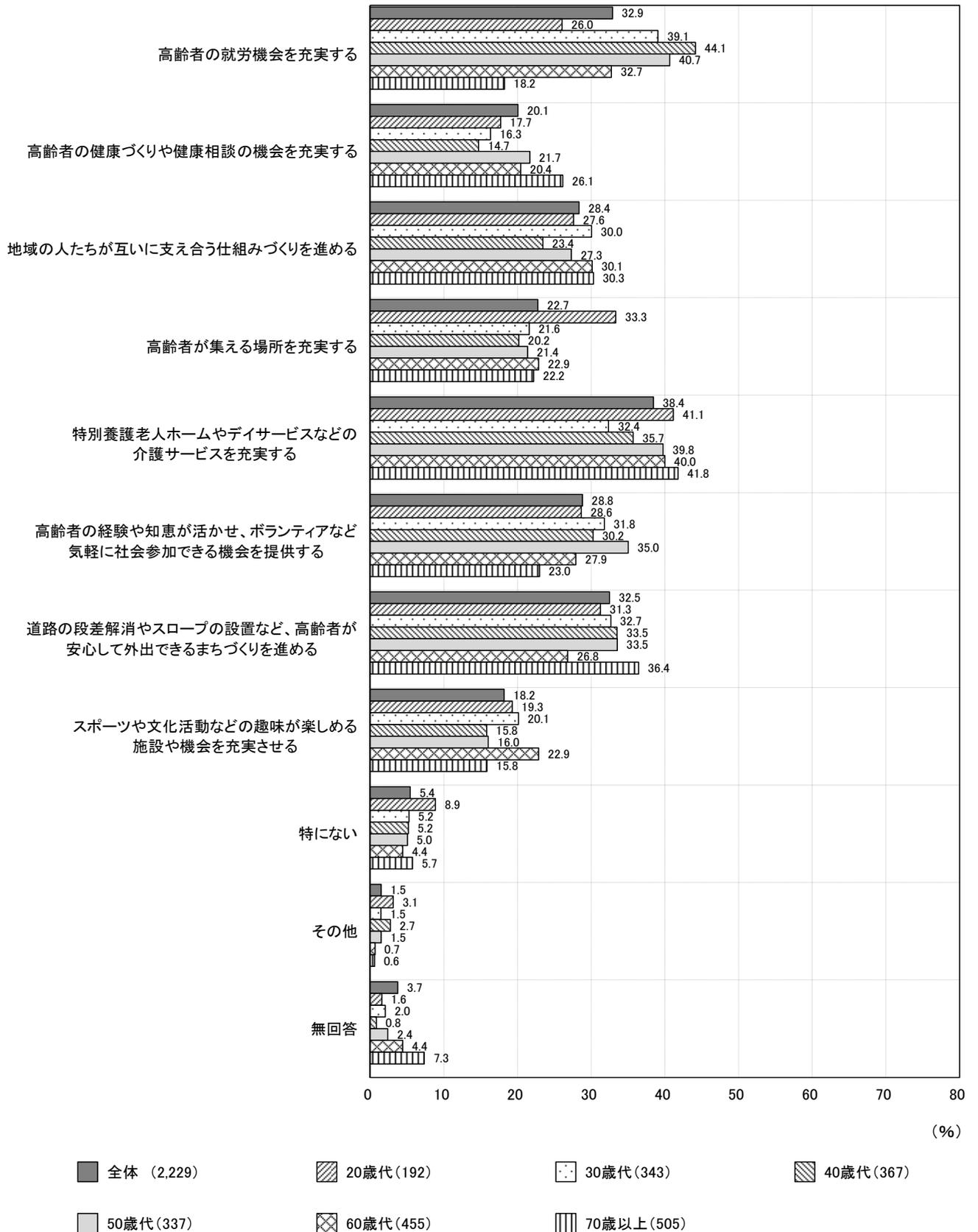
【全体】(図 4-7-1)

- ◆「特別養護老人ホームやデイサービスなどの介護サービスを充実する」が38.4%と最も多くなっています。
- ◆次いで、「高齢者の就労機会を充実する」が32.9%、「道路の段差解消やスロープの設置など、高齢者が安心して外出できるまちづくりを進める」が32.5%、「高齢者の経験や知恵が活かせ、ボランティアなど気軽に社会参加できる機会を提供する」が28.8%、「地域の人たちが互いに支え合う仕組みづくりを進める」が28.4%、「高齢者が集える場所を充実する」が22.7%と続いています。

【年齢別】(図 4-7-1)

- ◆「特別養護老人ホームやデイサービスなどの介護サービスを充実する」については、30歳代以降、年齢が高くなるにしたがって多くなる傾向がみられ、60歳代や70歳以上ではそれぞれ、40.0%、41.8%になっています。
- ◆「高齢者の就労機会を充実する」については、40歳代において44.1%と最も多く、50歳代でも40.7%と他の年齢よりも多くなっています。逆に、70歳以上では18.2%と、際立って少なくなっています。
- ◆「道路の段差解消やスロープの設置など、高齢者が安心して外出できるまちづくりを進める」に対する要望は、70歳以上において36.4%と、他の年齢よりも若干多くなっています。

図 4-7-1 年齢別「高齢者福祉に対する要望」



(%)

■ 全体 (2,229)

▨ 20歳代 (192)

▤ 30歳代 (343)

▧ 40歳代 (367)

▩ 50歳代 (337)

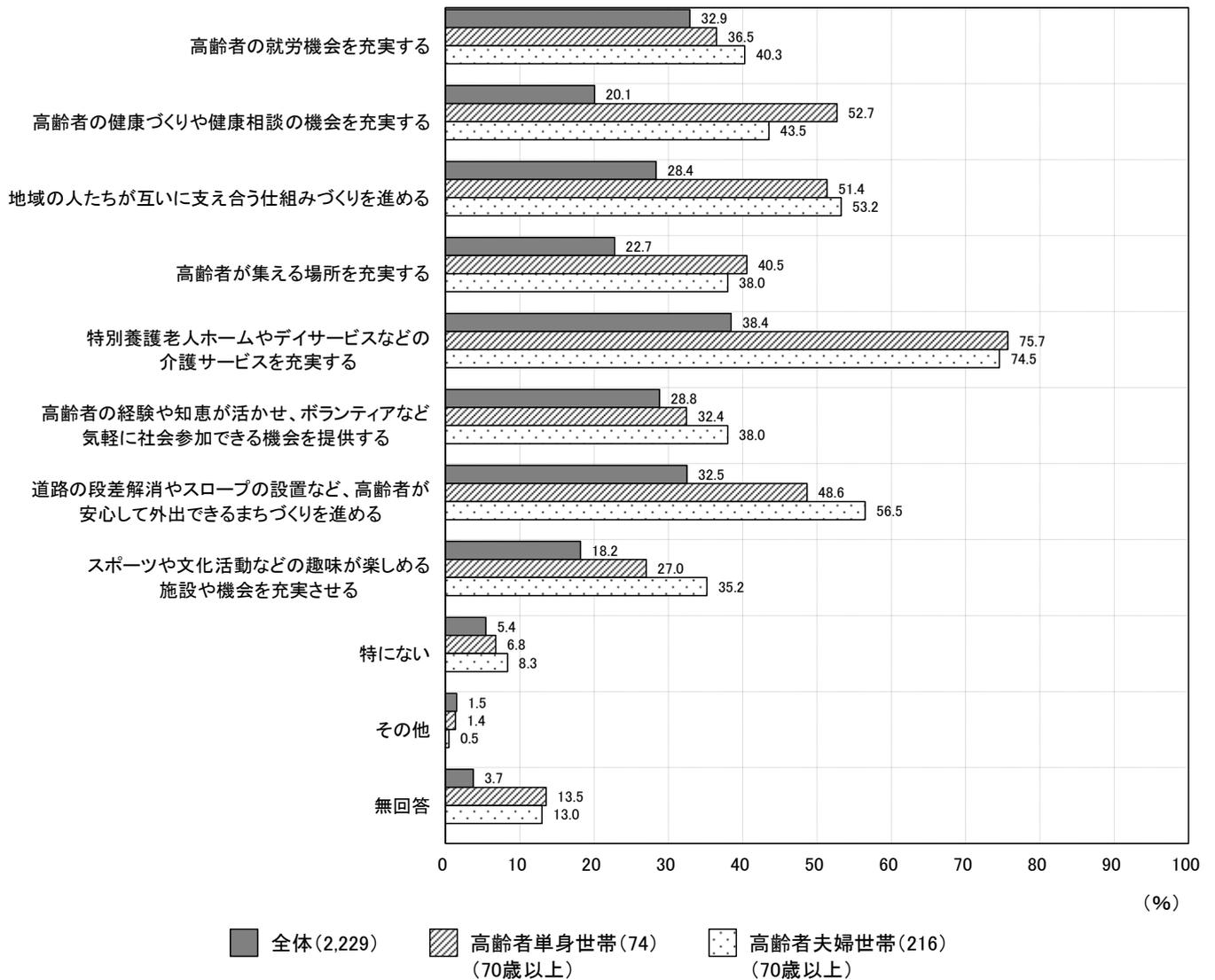
▦ 60歳代 (455)

▧ 70歳以上 (505)

【高齢者を含む世帯別】(図 4-7-2)

- ◆「特別養護老人ホームやデイサービスなどの介護サービスを充実する」に対する要望が、高齢者単身世帯で 75.7%、高齢者夫婦世帯で 74.5%と、全体値 (38.4%) よりも多くなっています。
- ◆「高齢者の健康づくりや健康相談の機会を充実する」に対する要望は、高齢者単身世帯で 52.7%、高齢者夫婦世帯で 43.5%と、全体値 (20.1%) よりも多くなっています。

図 4-7-2 高齢者を含む世帯別「高齢者福祉に対する要望」



4-8 地域福祉に対する要望

(問23) 高齢化が進行する中、身近な地域における市民相互の助け合い活動が、今後ますます重要になってくると考えられます。あなたは、市内の地域福祉活動を活発にするために、どのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】

「思いやりの心、やさしい心を育てるなど、学校や地域で福祉教育を行う」(45.2%)が最も多く、次いで、「障害や認知症などの悩みを持つ人への理解のための地域づくりを行う」、「助け合いの場や活動についての情報を得やすくする」なども比較的多くなっています。

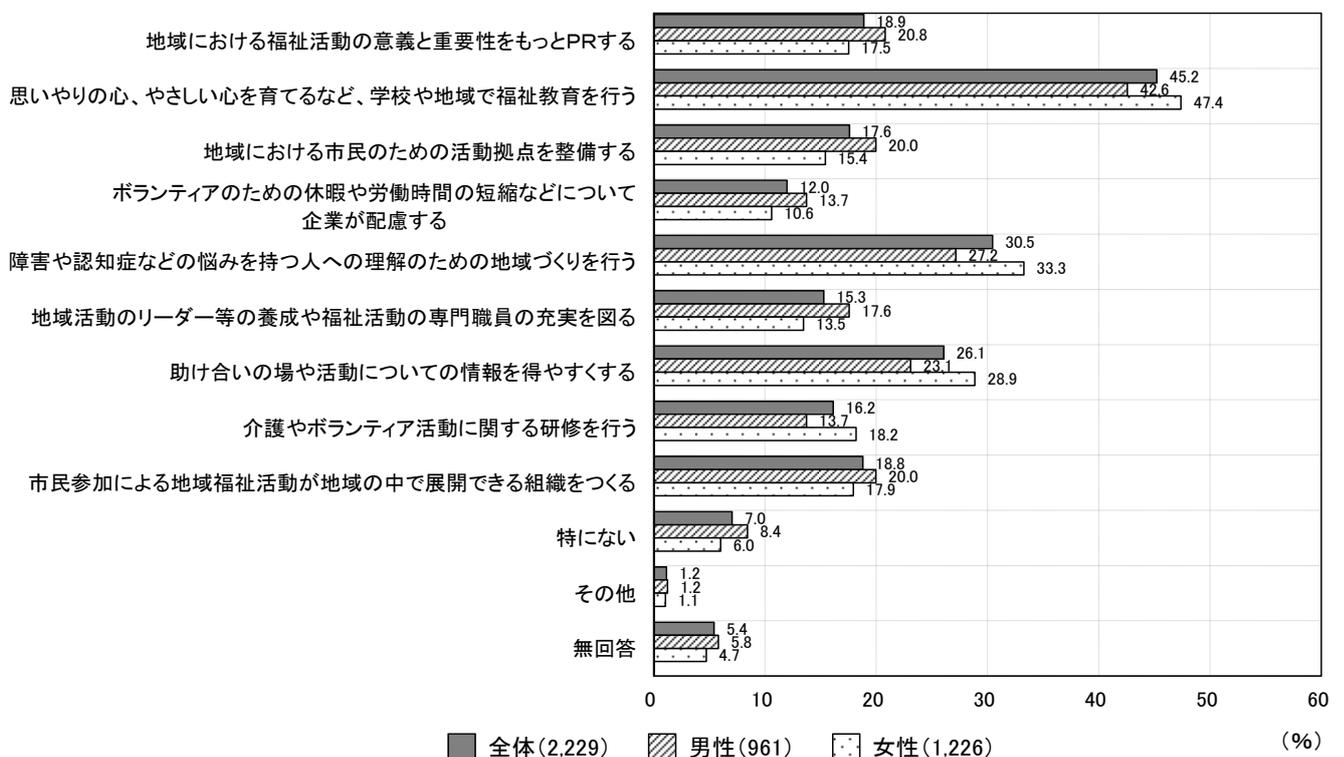
【全体】(図4-8-1)

- ◆「思いやりの心、やさしい心を育てるなど、学校や地域で福祉教育を行う」が45.2%で最も多くなっています。
- ◆次いで、「障害や認知症などの悩みを持つ人への理解のための地域づくりを行う」が30.5%、「助け合いの場や活動についての情報を得やすくする」が26.1%となっています。

【性別】(図4-8-1)

- ◆性別で差が最も大きな項目は「障害や認知症などの悩みを持つ人への理解のための地域づくりを行う」で、男性よりも女性の方が6.1ポイント上回っています。
- ◆次いで、「助け合いの場や活動についての情報を得やすくする」が5.8ポイントとなっています。

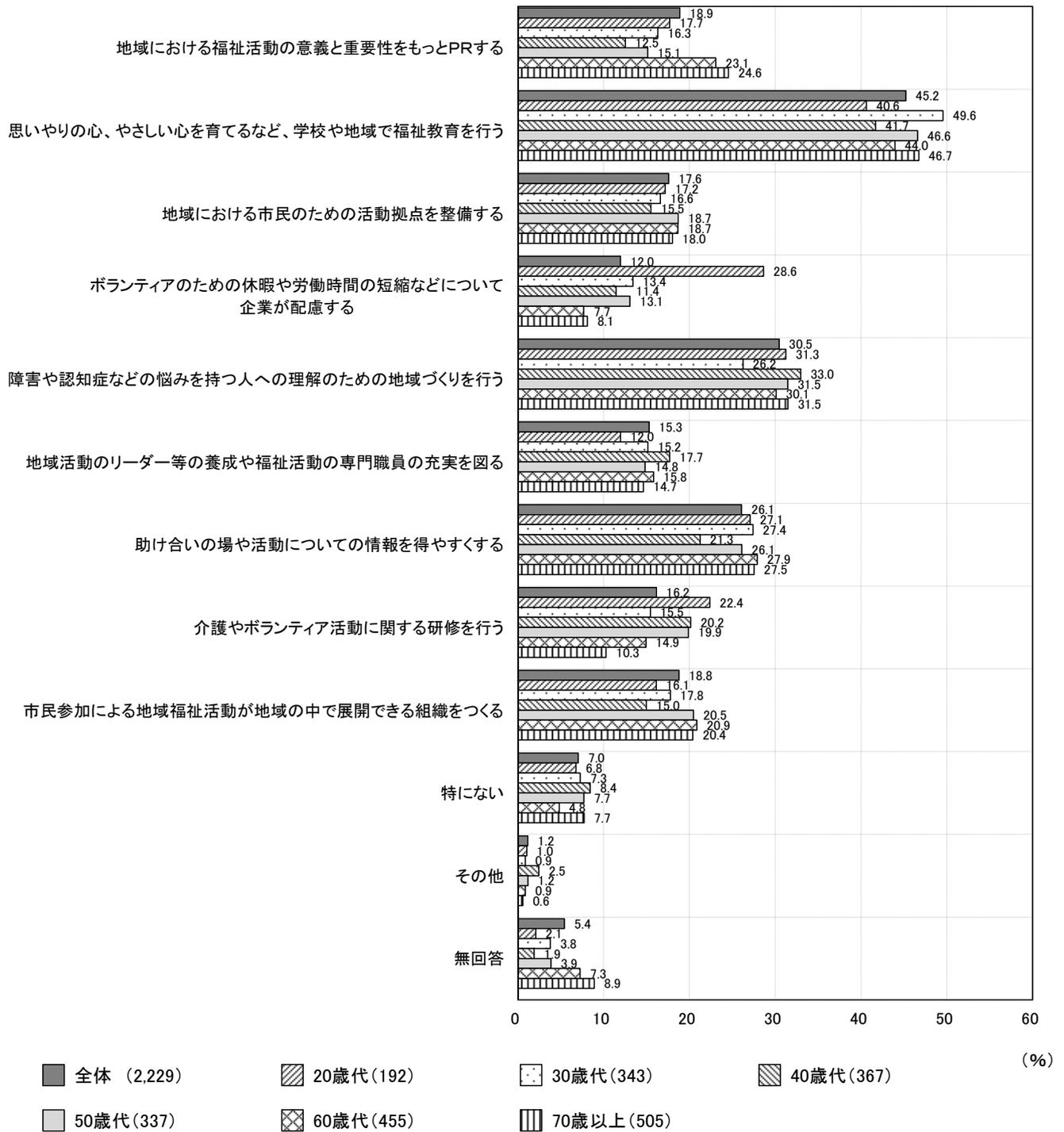
図4-8-1 性別「地域福祉に対する要望」



【年齢別】(図 4-8-2)

- ◆「ボランティアのための休暇や労働時間の短縮などについて企業が配慮する」については、20歳代において28.6%と要望割合が多くなっています。
- ◆これ以外には全般的に有意な差は認められません。

図 4-8-2 年齢別「地域福祉に対する要望」



5. 環境

5. 環境

5-1 環境のための取組の状況

(問24) 毎日の暮らしの中で、環境のためにどのような工夫や努力を行っていますか。

【あてはまるものすべてに○】

ごみの分別、リサイクル、買い物袋の持参、生ごみの減量化などは比較的多くの市民に実践されています。しかし、環境に配慮する企業の商品の購入、リユース、公共交通機関の利用、エコドライブなどに取り組んでいる市民はあまり多くありません。また、全般的に男性よりも女性の方が、環境に対する工夫や努力を積極的に行っています。

【全体】(図 5-1-1)

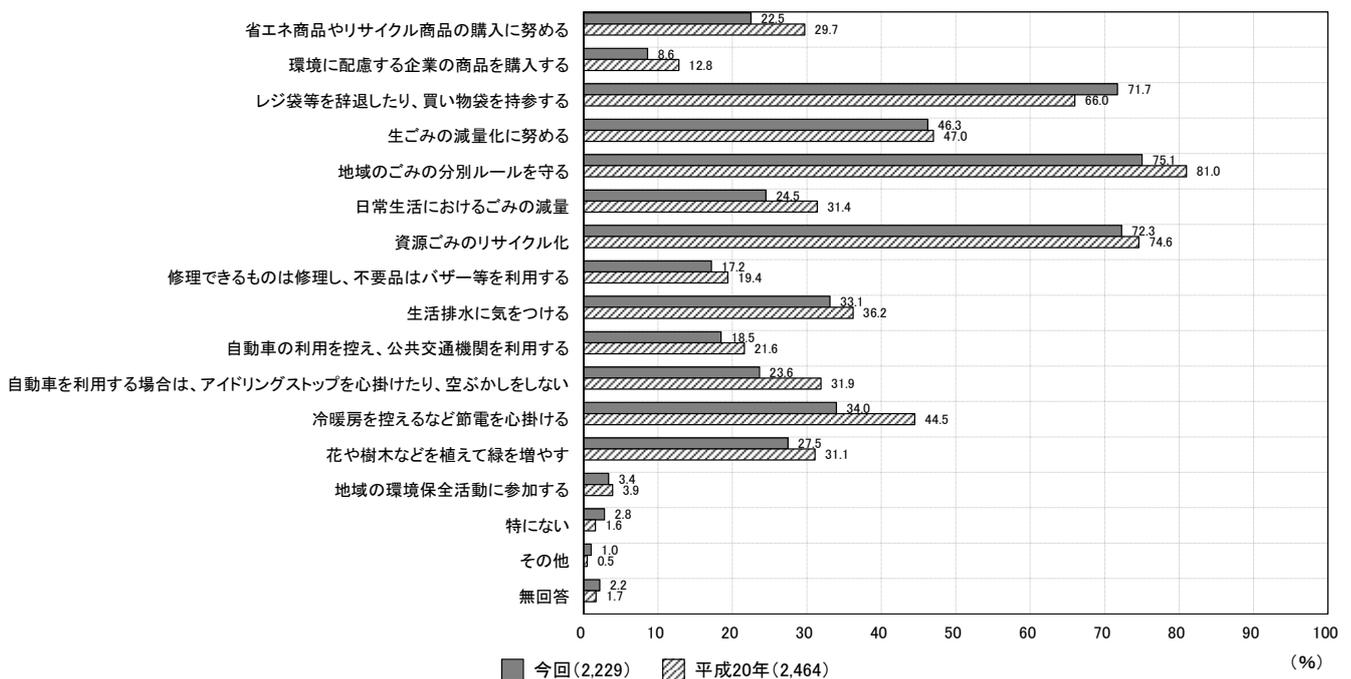
◆「地域のごみの分別ルールを守る」が75.1%と最も多くなっています。次いで、「資源ごみのリサイクル化」が72.3%、「レジ袋等を辞退したり、買い物袋を持参する」が71.7%、「生ごみの減量化に努める」が46.3%、「冷暖房を控えるなど節電を心掛ける」が34.0%の順となっており、これらの取組みについては、比較的多くの市民が工夫や努力をしています。

◆上記に対して、「地域の環境保全活動に参加する」(3.4%)や「環境に配慮する企業の商品を購入する」(8.6%)、「修理できるものは修理し、不要品はバザー等を利用する」(17.2%)、「自動車の利用を控え、公共交通機関を利用する」(18.5%)などの工夫や努力をしている市民はあまり多くありません。

【過去調査との比較】(図 5-1-1)

◆前回調査と比較すると、「レジ袋等を辞退したり、買い物袋を持参する」が5.7ポイント増加しましたが、他の項目は「特にない」、「その他」を除き、減少しています。「冷暖房を控えるなど節電を心掛ける」が10.5ポイント、「自動車を利用する場合は、アイドリングストップを心掛けたり、空ぶかしをしない」が8.3ポイント減少しています。家電機器の省エネ対応、自動車の燃費向上等が要因と考えられます。

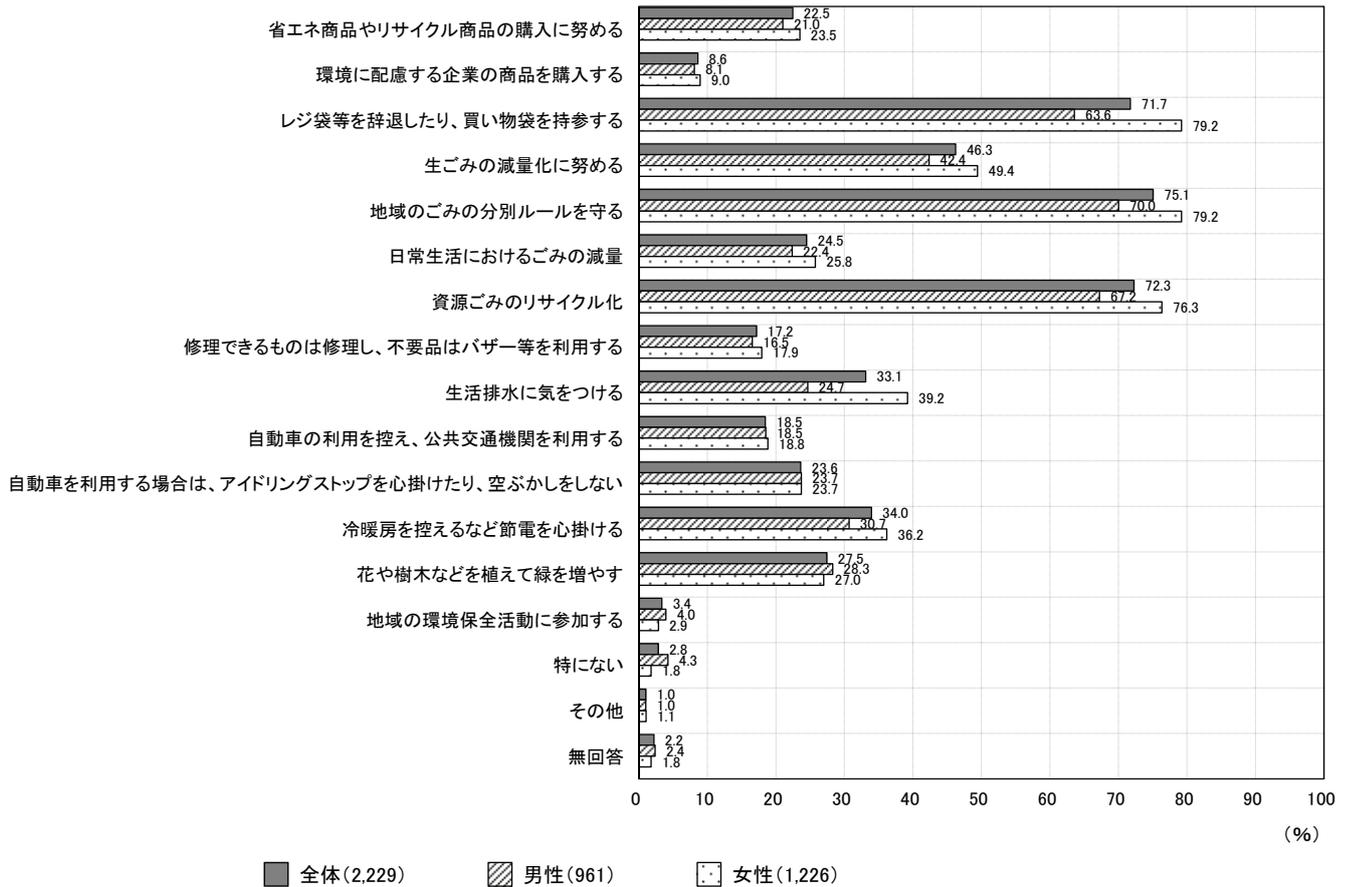
図 5-1-1 「環境のための取組の状況」(過去調査との比較)



【性別】(図 5-1-2)

- ◆「レジ袋等を辞退したり、買い物袋を持参する」(15.6ポイント)や「生活排水に気をつける」(14.5ポイント)、「地域のごみの分別ルールを守る」(9.2ポイント)、「資源ごみのリサイクル化」(9.1ポイント)については、いずれも、女性の方が男性の割合が多くなっています。
- ◆このように、男性よりも女性の方が環境向上のための工夫や努力を行っている割合が多くなっています。

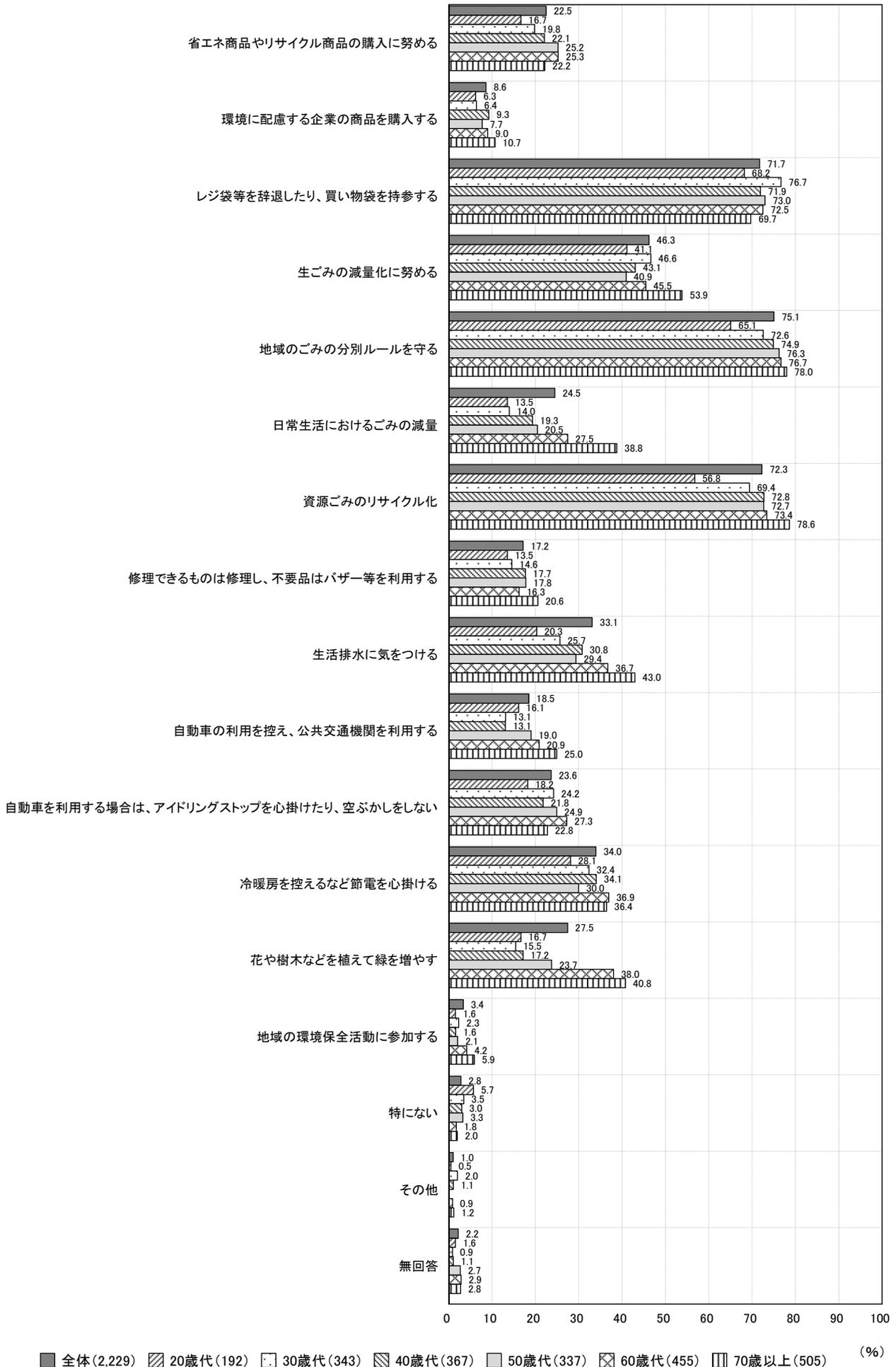
図 5-1-2 性別「環境のための取組の状況」



【年齢別】(図 5-1-3)

- ◆年齢別で差が大きな項目は、「日常生活におけるごみの減量」で70歳以上が38.8%に対し20歳代が13.5%あり、差は25.3ポイントとなっています。また、「花や樹木などを植えて緑を増やす」でも70歳以上が40.8%に対し30歳代が15.5%あり、差は25.3ポイントとなっています。
- ◆次いで差が大きな項目は、「生活排水に気をつける」で70歳以上が43.0%に対し20歳代が20.3%あり、差は22.7ポイントとなっています。

図 5-1-3 年齢別「環境のための取組の状況」



6. 防災

6. 防災

6-1 緊急時の備え

(問25) あなたは、地震や台風などの災害や緊急時の備えについて、現在どのような備えをしていますか。【あてはまるものすべてに○】

「非常食や水の準備」「非常持出品の用意」「家族との連絡方法の確認」「家具の転倒防止」などは比較的多くの市民が実施しています。しかし、「自宅の耐震化や耐震診断の実施」「地域の防災訓練への参加」などに取り組んでいる市民はあまり多くありません。また、全般的に年齢が高いほど実施率が高くなっています。

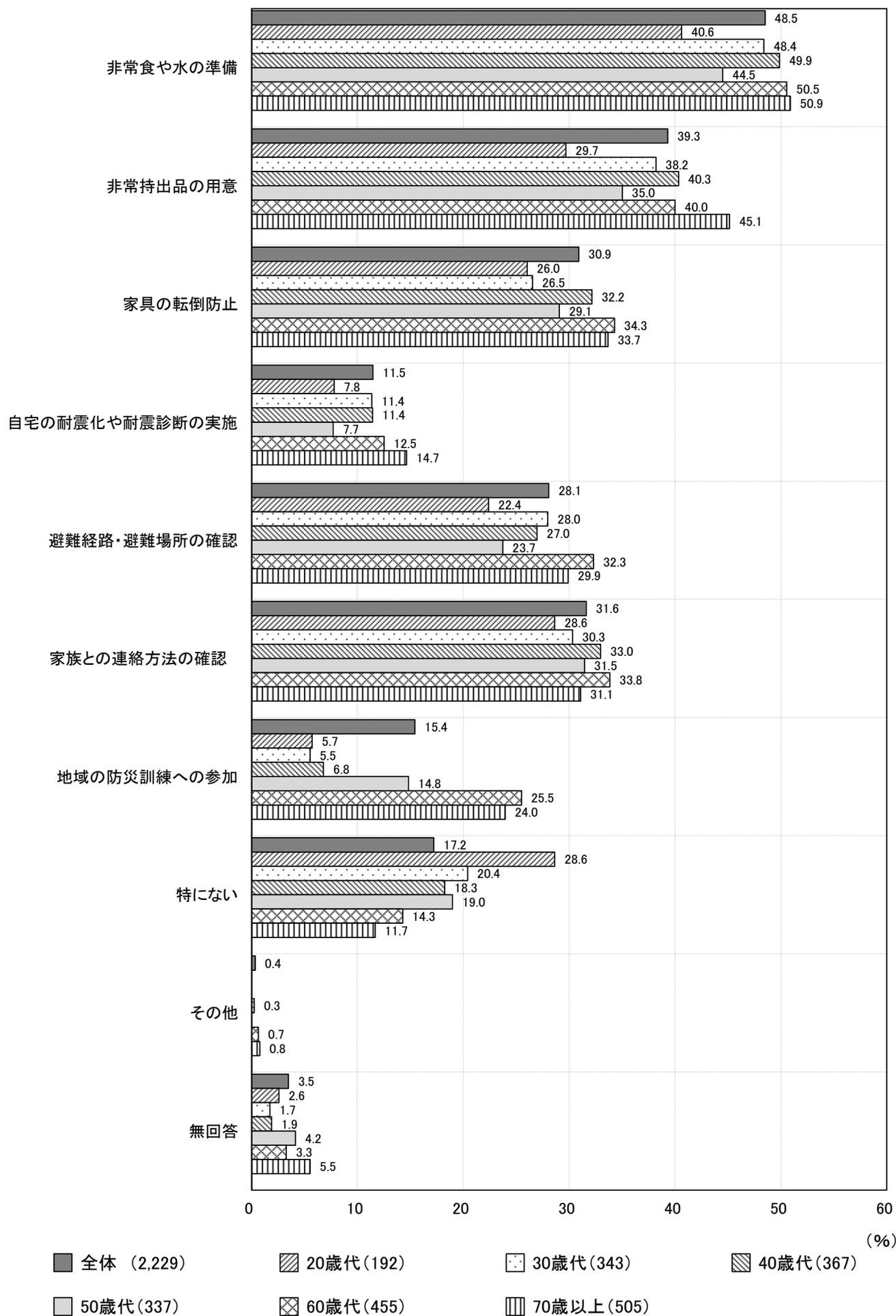
【全体】(図 6-1-1)

- ◆「非常食や水の準備」が48.5%と最も多くなっています。次いで、「非常持出品の用意」が39.3%、「家族との連絡方法の確認」が31.6%、「家具の転倒防止」が30.9%、「避難経路・避難場所の確認」が28.1%の順となっており、比較的多くの市民が災害や緊急時の備えをしています。
- ◆一方で、「自宅の耐震化や耐震診断の実施」(11.5%)、「地域の防災訓練への参加」(15.4%)、「特にない」(17.2%)はあまり多くありません。

【年齢別】(図 6-1-1)

- ◆年齢が高くなると災害や緊急時の備えの割合が高くなっています。
- ◆一方で、「特にない」は20歳代で28.6%、30歳代で20.4%となっており、「地域の防災訓練への参加」も他の年齢に比べ低くなっています。

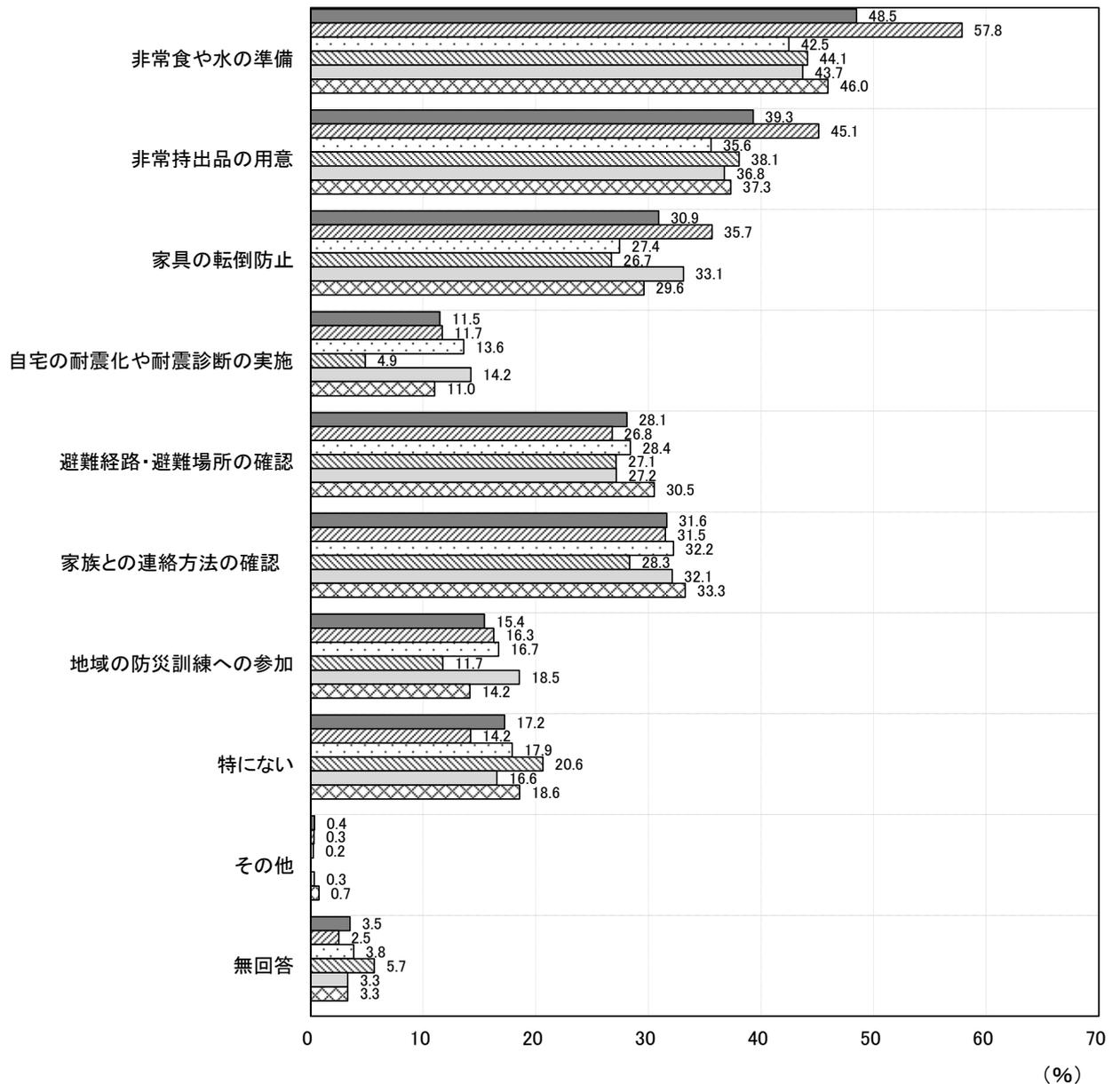
図 6-1-1 年齢別「緊急時の備え」



【小学校区別】(図 6-1-2)

- ◆「非常食や水の準備」については岩倉北小学校区が 57.8% で最も高く、岩倉南小学校区が 42.5% で最も低く、その差は 15.3 ポイントとなっています。
- ◆「非常持出品の用意」については岩倉北小学校区が 45.1% で最も高く、岩倉南小学校区が 35.6% で最も低く、その差は 9.5 ポイントとなっています。
- ◆「自宅の耐震化や耐震診断の実施」については岩倉東小学校区が低いのが特徴的ですが、全般的には小学校区間の差はあまりありません。

図 6-1-2 小学校区別「緊急時の備え」



全体(2,229)
 岩倉北小学校区(676)
 岩倉南小学校区(419)
 岩倉東小学校区(247)
 五条川小学校区(302)
 曾野小学校区(544)

7. 生涯学習・文化・スポーツ

7. 生涯学習・文化・スポーツ

7-1 生涯学習の目的

(問26) 生涯学習にはどのような目的があると思いますか。【○は1つだけ】

「自分の人生をより豊かにするため」(50.7%)が最も多くなっています。一方、「市民活動などの社会貢献をするため」や「仕事や就職・学業に必要な知識や能力を身につけるため」は少なくなっています。

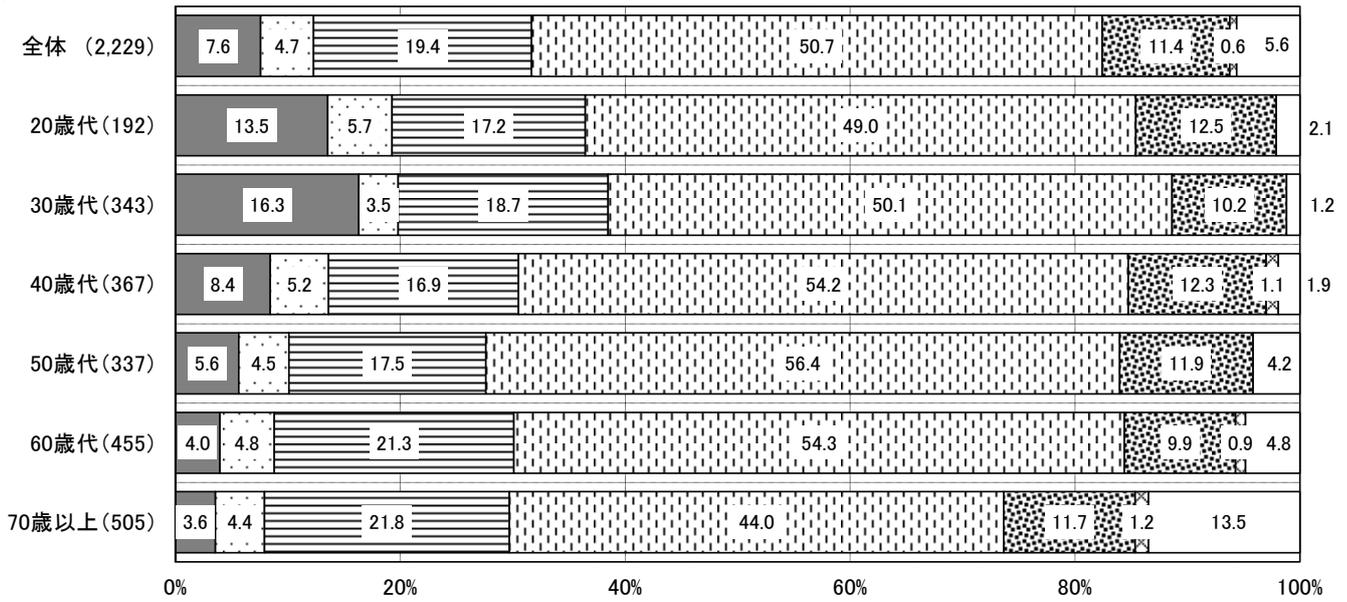
【全体】(図7-1-1)

◆「自分の人生をより豊かにするため」が50.7%を占め際立って多くなっています。次いで、「日常生活など暮らしで役立つ知識や能力を身につけるため」が19.4%となっています。一方、「市民活動などの社会貢献をするため」については4.7%となっています。

【年齢別】(図7-1-1)

- ◆「仕事や就職・学業に必要な能力を身に付けるため」については、30歳代が16.3%と最も多く、次いで20歳代が13.5%と他の世代よりも多くなっており、年齢が高くなるにしたがってその割合は少なくなる傾向がみられます。
- ◆「自分の人生をより豊かにするため」については、50歳代で56.4%、60歳代で54.3%、40歳代で54.2%と、他の年齢よりも若干多くなっています。

図 7-1-1 年齢別「生涯学習の目的」



- 仕事や就職・学業に必要な知識や能力を身に付けるため
- ▨ 市民活動などの社会貢献をするため
- ▨ 日常生活など暮らしで役立つ知識や能力を身に付けるため
- ▨ 自分の人生をより豊かにするため
- ▨ わからない
- ▨ その他
- 無回答

7-2 生涯学習の活動状況と今後の活動意向

(問27) 現在、どのような生涯学習活動や、生涯学習講座に参加していますか。また、今後どのような生涯学習活動や生涯学習講座に参加したいですか。

【あてはまるものをすべて選んで口の回答欄に番号を記入してください。】

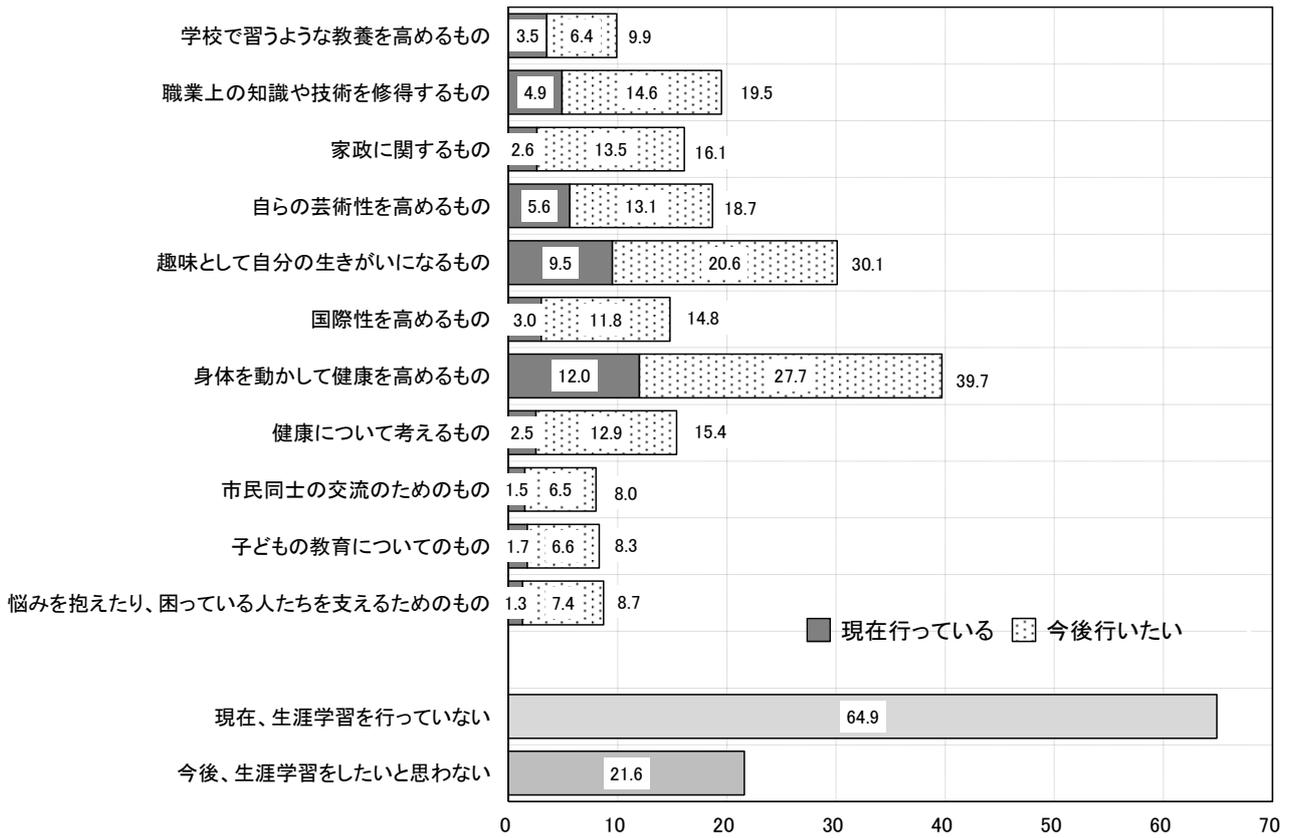
現在、何らかの生涯学習活動を行っている市民は25.1%となっています。「今後行いたい」と思っている市民は58.7%となり、現在生涯学習を行っている市民は決して多いとはいえませんが、潜在的な生涯学習活動需要はかなり高い状況にあります。

「身体を動かして健康を高めるもの」や「趣味として自分の生きがいになるもの」といった生涯学習の潜在的需要は比較的高くなっていますが、「市民同士の交流のためのもの」や「悩みを抱えたり、困っている人たちを支えるためのもの」といった社会貢献的な生涯学習活動の潜在的需要は1割未満にとどまっています。

【全体】(図7-2-1)

- ◆「現在、生涯学習活動を行っていない」は64.9%で、これと無回答の10.0%を除くと、残りの25.1%の市民が何らかの生涯学習に取り組んでいます。
- ◆「現在生涯学習活動を行っている」についてみると、「身体を動かして健康を高めるもの」が12.0%で最も多く、次いで「趣味として自分の生きがいになるもの」が9.5%、「自らの芸術性を高めるもの」が5.6%、「職業上の知識や技術を修得するもの」が4.9%となっており、残りはいずれも4%未満にとどまっています。
- ◆「今後生涯学習活動をしたくないと思わない」は21.6%で、無回答の19.7%を除くと、残りの58.7%の市民が何らかの生涯学習をしたいと考えています。
- ◆「今後行いたいもの」は、「身体を動かして健康を高めるもの」が27.7%で最も多く、次いで「趣味として自分の生きがいになるもの」が20.6%、「職業上の知識や技術を修得するもの」が14.6%、「家政に関するもの」が13.5%となっています。
- ◆このように現在生涯学習を行っている市民は決して多いとはいえませんが、潜在的な生涯学習活動需要はかなり高い状況にあります。

図 7-2-1 「生涯学習の現在の活動状況と今後の活動意向」

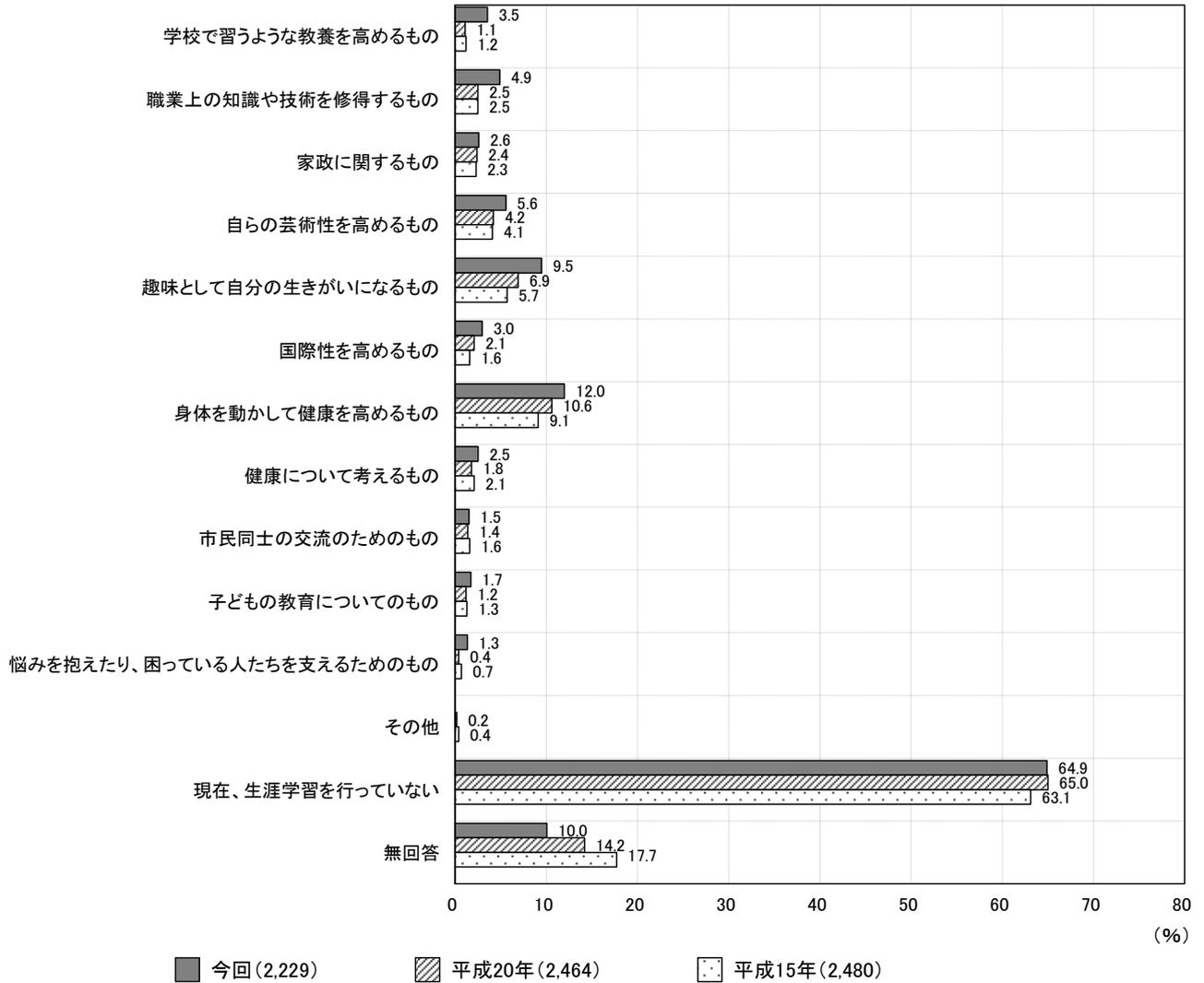


(%)

【生涯学習の現在の活動状況(過去調査との比較)】(図 7-2-2)

- ◆「現在、生涯学習を行っていない」と「無回答」を除いた残りの何らかの生涯学習に取り組んでいる市民の割合は、今回の調査では 25.1%であり、平成 15 年調査の 19.2%、平成 20 年調査の 20.8%に比べ、増加しています。
- ◆すべての項目で平成 20 年調査よりも増加していますが、その差はごくわずかにとどまっており、生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合はほとんど変化がないといえます。

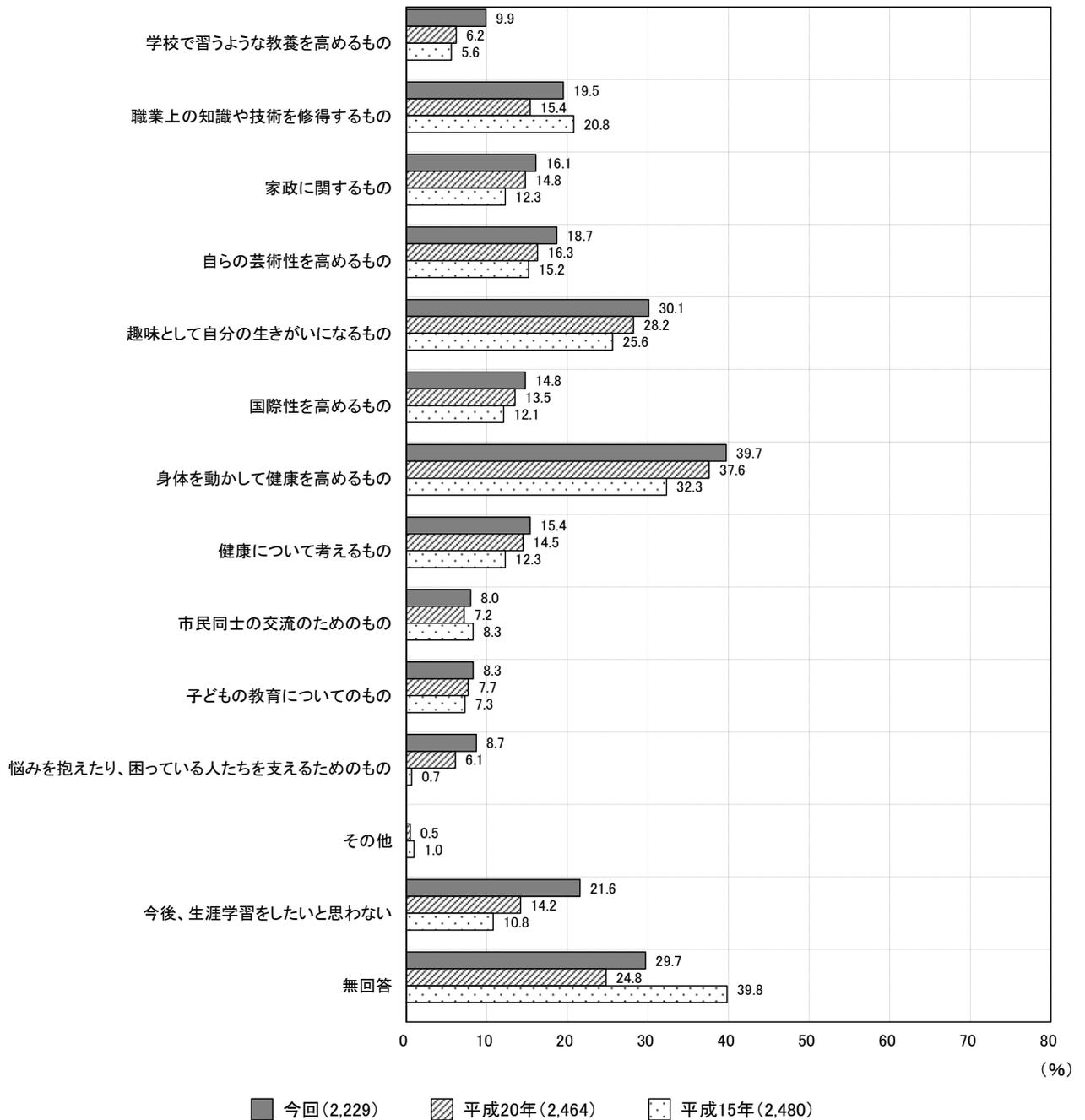
図 7-2-2 「生涯学習の現在の活動状況」(過去調査との比較)



【生涯学習の現在の活動状況と今後の活動意向(過去調査との比較)】(図 7-2-3)

◆「現在行っている」に「今後行いたい」を加えた潜在的需要について、前回調査と今回の調査を比較すると、いずれの項目も増加しています。

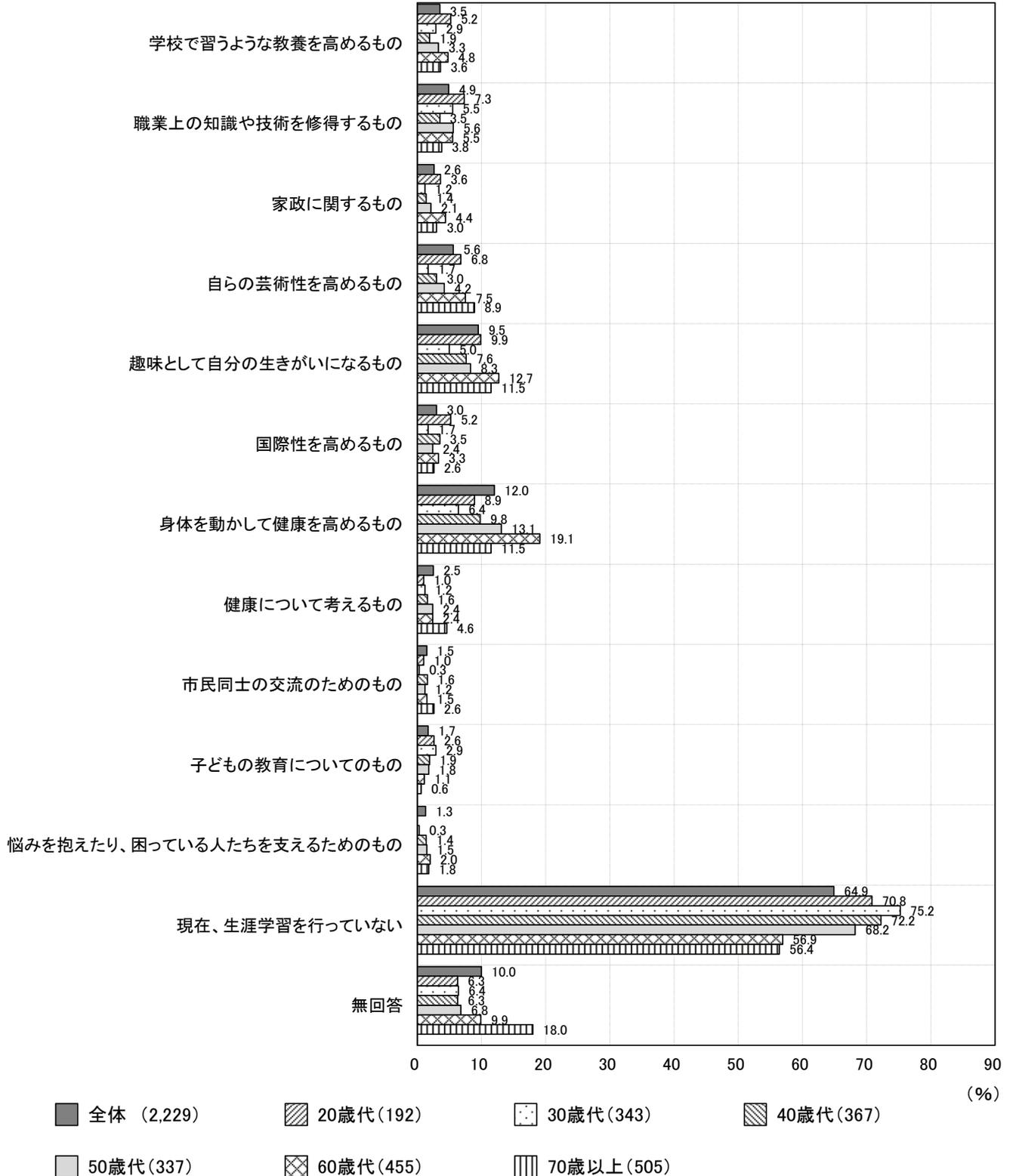
図 7-2-3 「生涯学習の現在の活動状況と今後の活動意向」(過去調査との比較)



【年齢別「生涯学習の現在の活動状況」】(図 7-2-4)

- ◆「現在、生涯学習を行っていない」という市民は、30歳代において75.2%、40歳代で72.2%と多くなっている一方で、60歳代(56.9%)や70歳以上(56.4%)は少なくなっています。
- ◆「現在、生涯学習を行っていない」と「無回答」を除いた残りの市民が、何らかの生涯学習を行っていることとなりますが、その割合は、30歳代18.4%、40歳代21.5%で、全体値(25.1%)に比べて若干少ないのに対して、60歳代では33.2%と若干多くなっています。

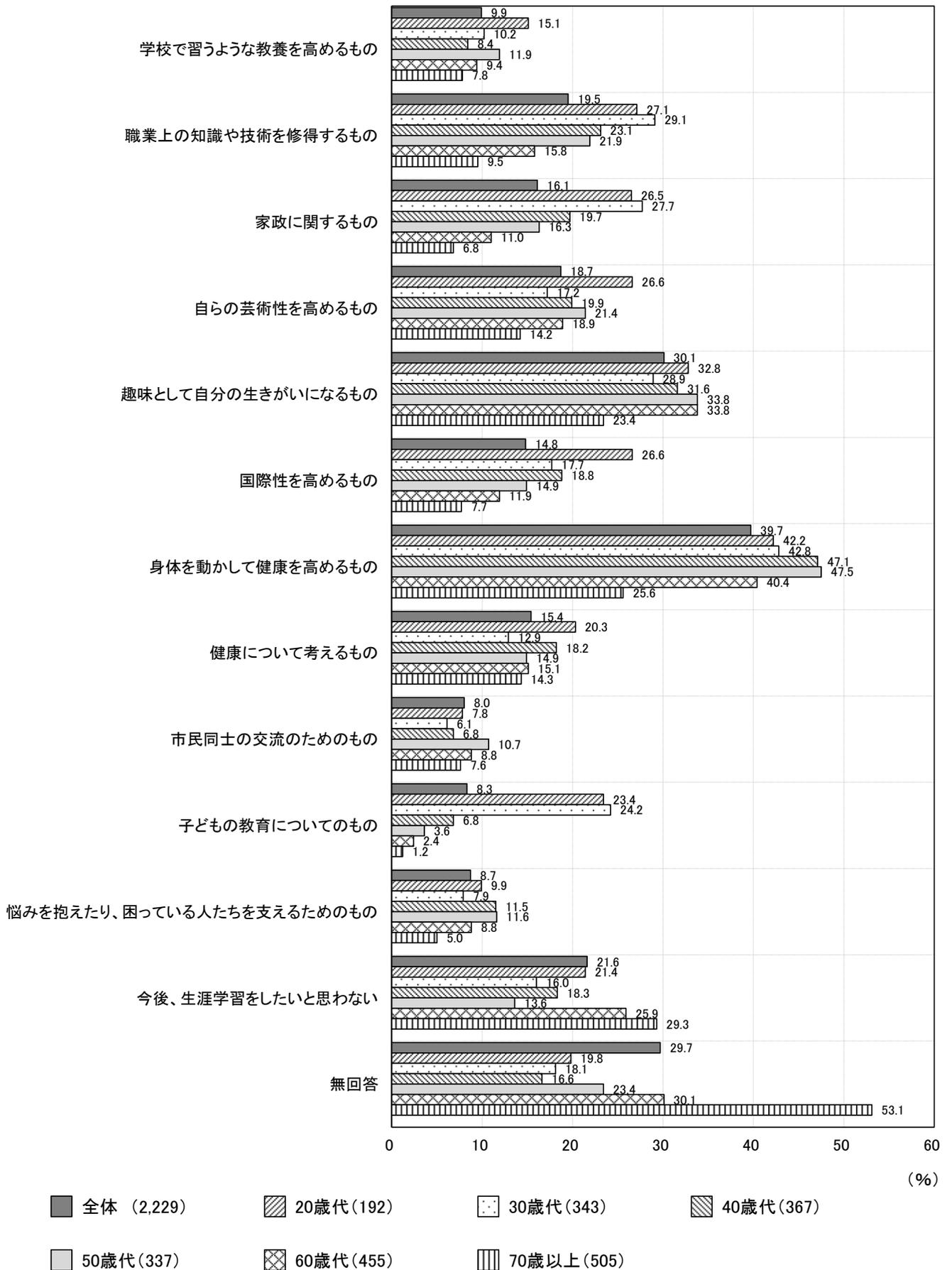
図 7-2-4 年齢別「生涯学習の現在の活動状況」



【年齢別「生涯学習の現在の活動状況と今後の活動意向」】(図 7-2-5)

- ◆「現在行っている」に「今後行いたい」を加えた生涯学習の潜在的需要について年齢別にみると、全体で最も多い「身体を動かして健康を高めるもの」(39.7%)については、50歳代において47.5%と多く、逆に、70歳以上では25.5%と少なくなっています。70歳以上を除く年齢では40%を超えています。
- ◆全体で次に多い「趣味として自分の生きがいになるもの」(30.1%)については、50歳代と60歳代において33.8%と若干多く、逆に、70歳以上では23.4%と少なくなっています。
- ◆「職業上の知識や技術を修得するもの」(19.5%)については、30歳代において29.1%と多くなっています。
- ◆「今後、生涯学習をしたいと思わない」と「無回答」を除いた何らかの生涯学習を「現在行っている」、あるいは「今後行いたい」という市民の割合は、全体では48.7%となります。年齢別では、30歳代65.9%、40歳代65.1%、50歳代63.0%と多く、逆に、70歳以上は最も少なく17.6%でした。

図 7-2-5 年齢別「生涯学習の現在の活動状況と今後の活動意向」



(%)

7-3 興味のある音楽ジャンル

(問28) 岩倉市では、これまでクラシックを中心とした音楽のあるまちづくりを進めてきましたが、あなたはどのようなジャンルの音楽に興味がありますか。【あてはまるものすべてに○】

「日本のロック・ポップス」(33.6%)が最も多く、次いで「クラシック」「歌謡曲」となっています。

「クラシック」「ジャズ」については、年齢差はあまりありませんが、他のジャンルは、年齢により大きく異なっています。

【全体】(図 7-3-1)

◆「日本のロック・ポップス」が33.6%で最も多くなっています。次いで、「クラシック」が31.6%、「歌謡曲」が31.4%となっています。

【年齢別】(図 7-3-1)

◆20歳代では、「日本のロック・ポップス」が68.8%、次いで、「外国のロック・ポップス」が42.2%となっています。

◆30歳代では、「日本のロック・ポップス」が58.6%、次いで、「クラシック」が31.8%となっています。

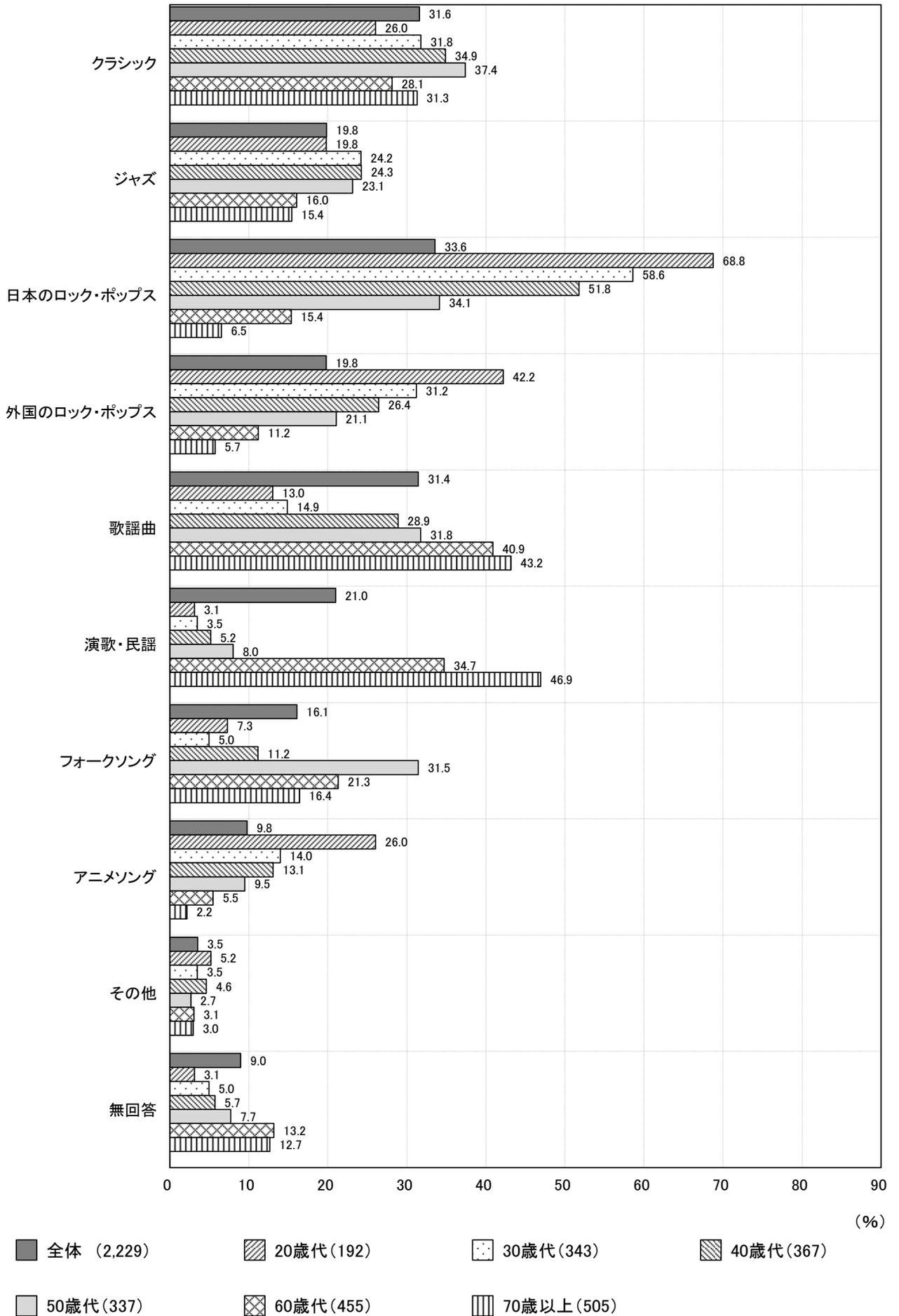
◆40歳代では、「日本のロック・ポップス」が51.8%、次いで、「クラシック」が34.9%となっています。

◆50歳代では、「クラシック」が37.4%、次いで、「日本のロック・ポップス」が34.1%となっています。

◆60歳代では、「歌謡曲」が40.9%、次いで、「演歌・民謡」が34.7%となっています。

◆70歳以上では、「演歌・民謡」が46.9%、次いで、「歌謡曲」が43.2%となっています。

図 7-3-1 年齢別「興味のある音楽ジャンル」



7-4 市主催のコンサートの鑑賞状況

(問29) 岩倉市では、ポップスコンサート、ロビーコンサート、岩倉駅コンサートなど、毎年様々なコンサートを行っています。今までに鑑賞されたことがありますか。【〇は1つだけ】

「鑑賞したことがある」は、年齢が高くなるに従い比率が高くなっています。しかし、全年齢を通じて「鑑賞したことがない」が約半数を占めています。

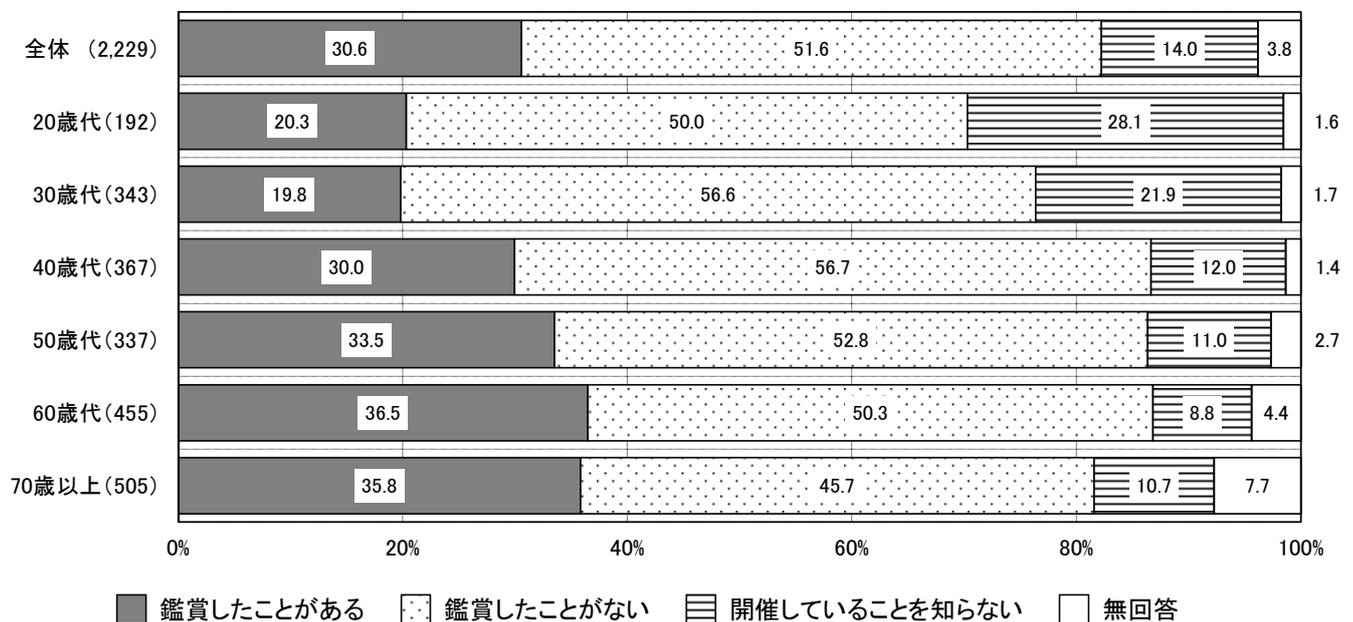
【全体】(図7-4-1)

◆「鑑賞したことがない」が51.6%で最も多くなっています。次いで、「鑑賞したことがある」が30.6%、「開催していることを知らない」が14.0%となっています。

【年齢別】(図7-4-1)

- ◆「鑑賞したことがある」は、60歳代で36.5%、70歳以上で35.8%と年齢が高くなるに従い比率が高くなっています。
- ◆「鑑賞したことがない」は、全年齢を通じて約半数を占めています。
- ◆「開催していることを知らない」は、20歳代で28.1%、30歳代で21.9%と若い年齢の割合が高くなっています。

図7-4-1 年齢別「市主催のコンサートの鑑賞状況」



7-4-1 鑑賞したことがない理由

(問29-1) 鑑賞したことがないとお答えの方におたずねします。その理由は何ですか。

【○は1つだけ】

「鑑賞したことがない理由」は、「時間がない」が55.0%を占めています。また、「企画に魅力がない」は19.5%となっています。

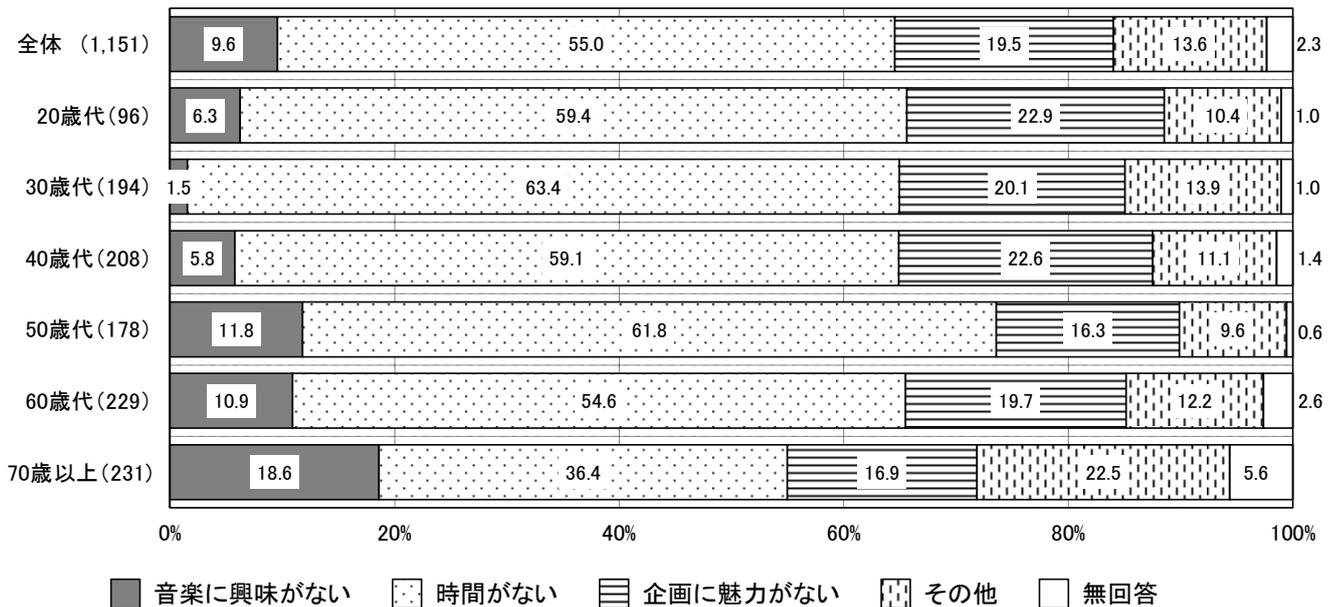
【全体】(図7-4-2)

◆鑑賞をしたことがない理由では、「時間がない」が最も多く55.0%となっています。次いで、「企画に魅力がない」が19.5%、「音楽に興味がない」が9.6%となっています。

【年齢別】(図7-4-2)

- ◆「時間がない」は、70歳以上を除き50%を超えています。30歳代と50歳代では60%を超えています。
- ◆「企画に魅力がない」は、全年齢で約20%となっています。
- ◆「音楽に興味がない」は、40歳代及び50歳代を除き、年齢が高くなるに従い比率が高くなっています。

図7-4-2 年齢別「鑑賞したことがない理由」



7-5 自身の体力の評価

(問30) あなたは、ご自分の体力についてどのように感じていますか。【○は1つだけ】

自身の体力の評価では「普通である」が過半数を占めていますが、「不安がある」という市民も比較的多くなっています。

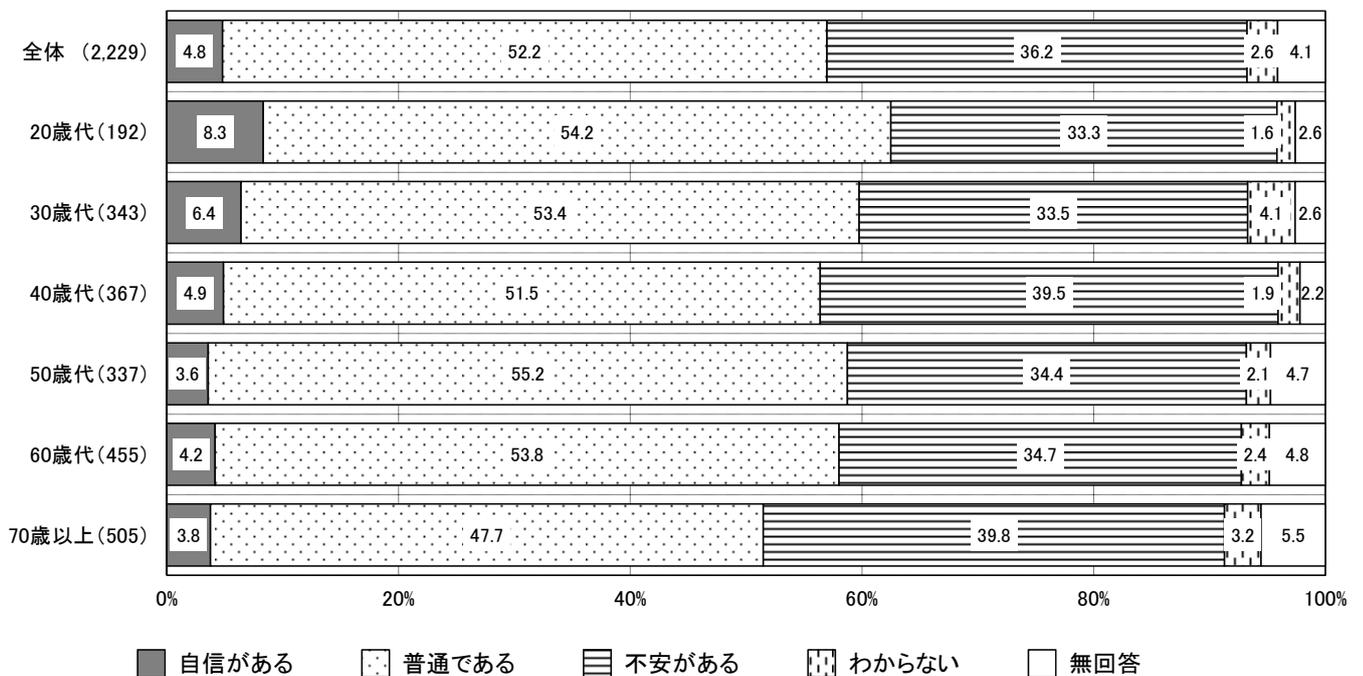
【全体】(図7-5-1)

- ◆自身の体力の評価では、「普通である」が52.2%を占めています。次いで、「不安がある」が36.2%、「自信がある」が4.8%となっています。

【年齢別】(図7-5-1)

- ◆「自信がある」は、20歳代が8.3%で最も多く、次いで30歳代が6.4%となっています。
- ◆「不安がある」は、70歳以上が39.8%、40歳代が39.5%で他の年齢よりも若干多くなっています。

図7-5-1 年齢別「自身の体力の評価」



7-6 スポーツ・運動を行う頻度

(問31) あなたは、何日くらいスポーツ・運動をしますか。【○は1つだけ】

「スポーツ・運動をした」という市民は53.3%と過半数を占めていますが、「スポーツ・運動をしなかった」という市民も43.0%とかなりの割合を占めています。「スポーツ・運動をしなかった」という人の割合は、女性の方が多く、男性を10.4ポイント上回っており、女性のスポーツへの参加が課題となっています。

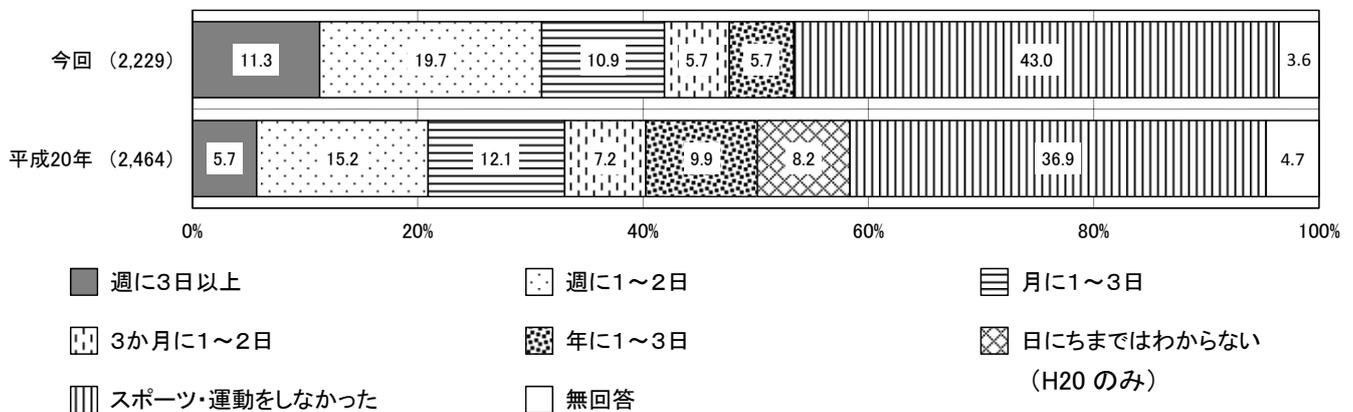
【全体】(図7-6-1)

- ◆「スポーツ・運動をした」という市民は53.3%と過半数を占めているものの、「スポーツ・運動をしなかった」という市民も43.0%とかなりの割合を占めています。
- ◆スポーツの頻度についてみると、「週に3日以上」と「週に1~2日」を合わせた“日常的にスポーツ・運動を行っている”市民の割合は、31.0%となっています。さらにこれに「月に1~3日以上」を加えた“月に1回以上スポーツを行った”市民については41.9%となっています。

【過去調査との比較】(図7-6-1)

- ◆「スポーツ・運動をしなかった」は、前回調査よりも6.1ポイント増加していますが、「週に3日以上」と「週に1~2日」を合わせた“日常的にスポーツ・運動を行っている”という市民については10.1ポイント増加しています。

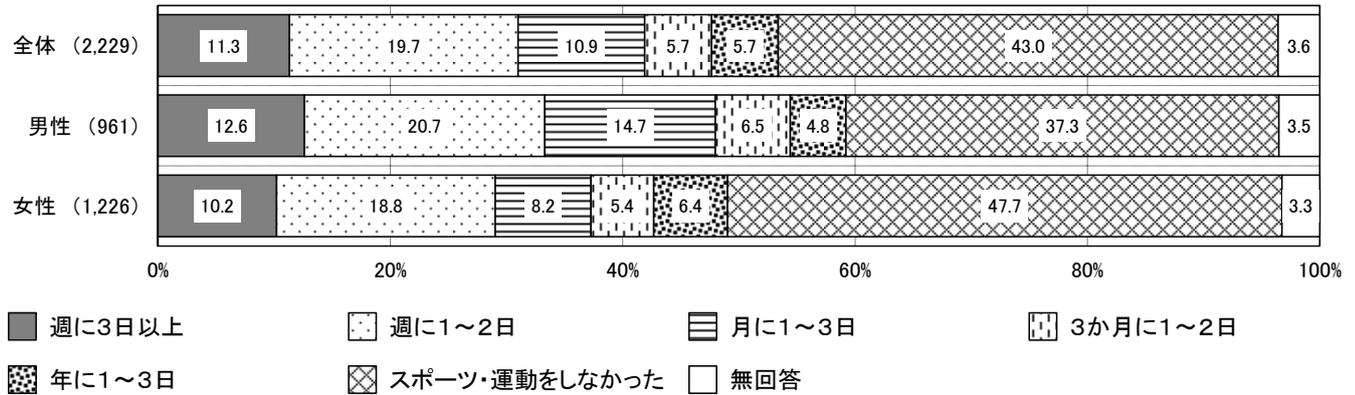
図7-6-1 「スポーツ・運動を行う頻度」(過去調査との比較)



【性別】(図7-6-2)

◆「スポーツ・運動をしなかった」という市民の割合は、男性よりも女性の方が10.4ポイント上回っています。女性のスポーツ・運動への参加が課題といえます。

図7-6-2 性別「スポーツ・運動を行う頻度」



【年齢別】(図7-6-3)

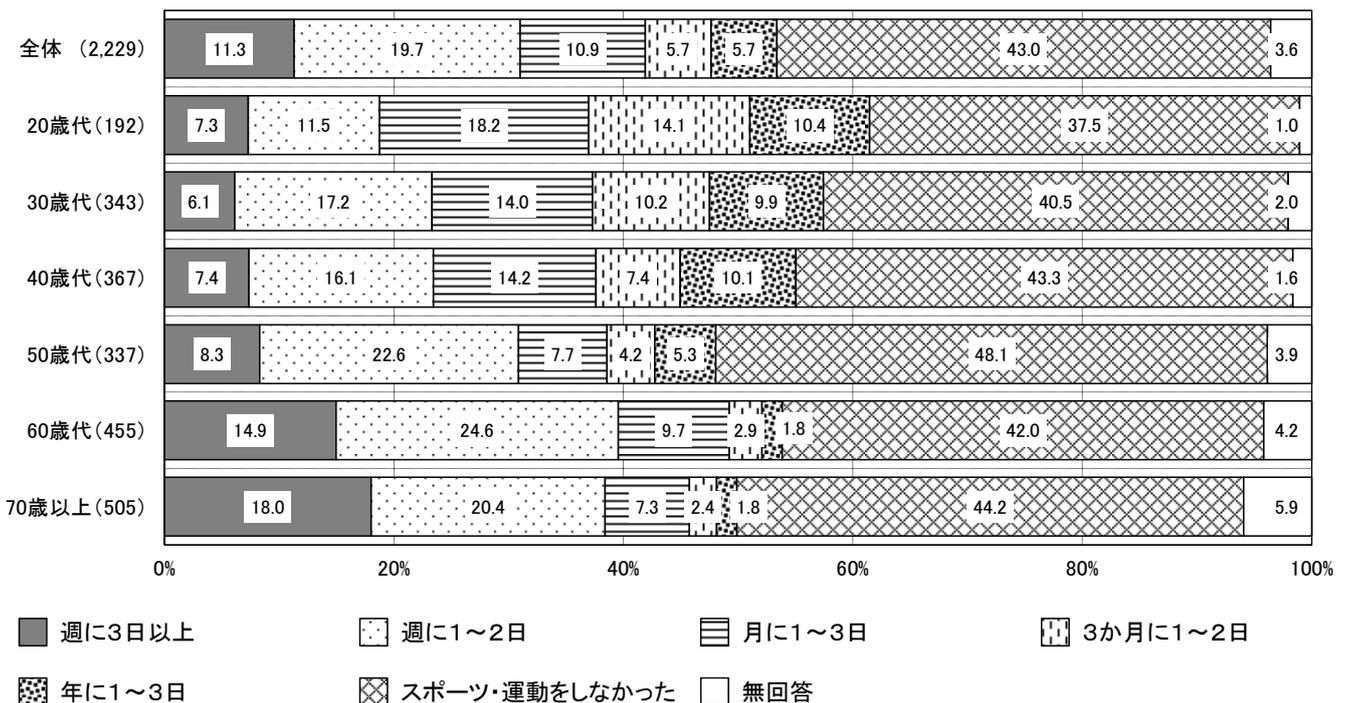
◆「スポーツ・運動をしなかった」という市民は、50歳代で48.1%を占め最も多く、次いで70歳以上で44.2%と多くなっています。逆に、20歳代では、37.5%と少なくなっています。

◆「週に3日以上」とかなりの頻度でスポーツ・運動を行っている市民は、30歳代において6.1%と最も少なく、年齢が高くなるにしたがって、その割合が多くなる傾向がみられ、70歳以上においては18.0%になっています。

◆「週に3日以上」と「週に1~2日」を合わせた“日常的にスポーツ・運動を行っている”という市民については、20歳代において18.8%と最も少なく、30歳代において23.3%と少なくなっています。

◆逆に、“日常的にスポーツ・運動を行っている”という市民は、60歳代において39.5%と最も多くなっています。また、「週に3日以上」とかなりの頻度でスポーツ・運動を行っているという市民の割合が最も多かった70歳以上においても“日常的にスポーツ・運動を行っている”という市民が38.4%を占めています。

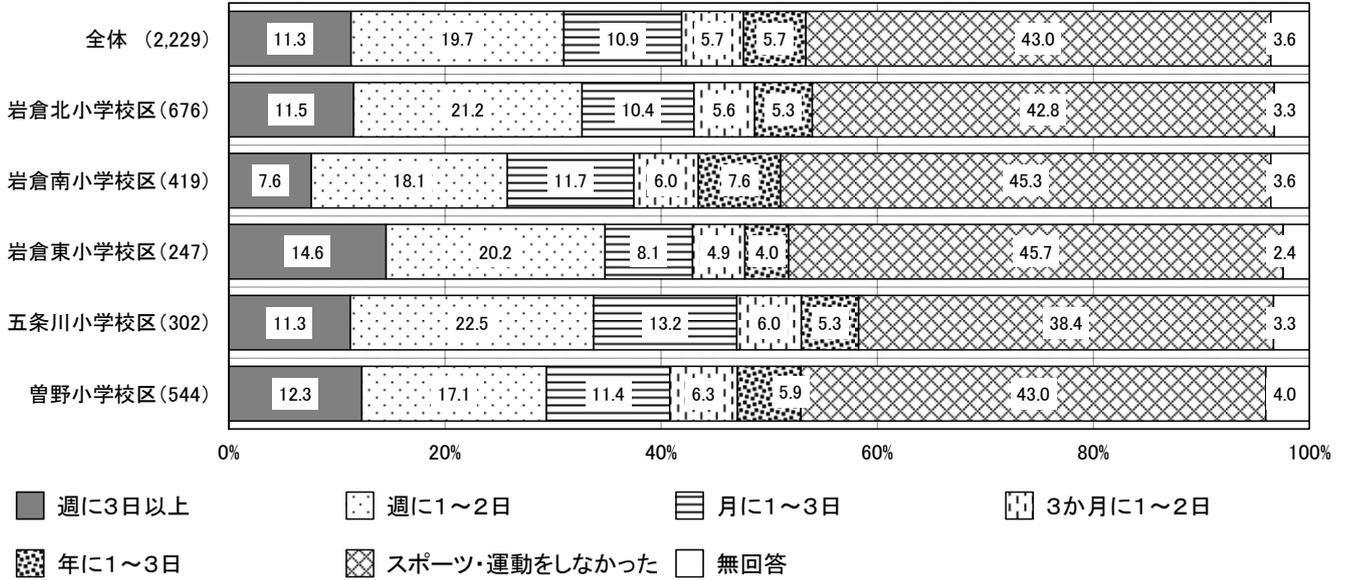
図7-6-3 年齢別「スポーツ・運動を行う頻度」



【小学校区別】(図 7-6-4)

- ◆「スポーツ・運動をしなかった」は、岩倉東小学校区が 45.7%で最も多く、五条川小学校区が 38.4%と最も少なくなっています。
- ◆全般的に小学校区による大きな差は見られません。

図 7-6-4 小学校区別「スポーツ・運動を行う頻度」



7-6-1 スポーツ・運動の阻害要因

(問3 1-1) スポーツ・運動をしなかった方におたずねします。あなたがスポーツ・運動をしないのはどのような理由からですか。【〇は1つだけ】

「忙しくて時間がないから」(32.8%)と「機会がないから」(18.1%)がスポーツの主な阻害要因となっています。

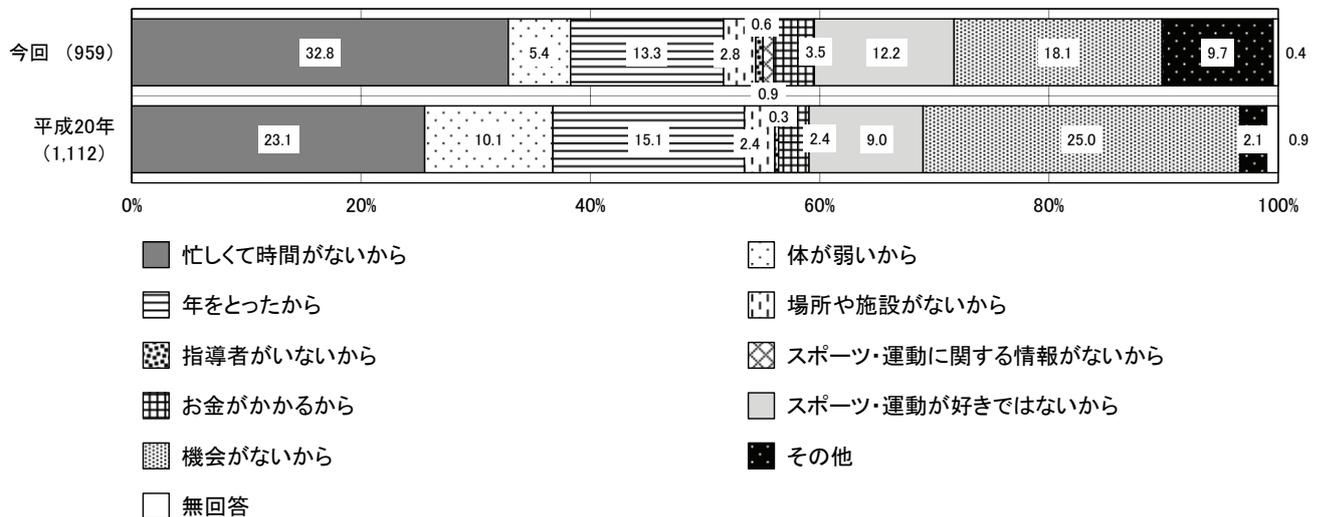
【全体】(図 7-6-5)

◆「スポーツ・運動をしなかった」という市民に対して、主な阻害要因について尋ねたところ、「忙しくて時間がないから」が32.8%で最も多く、次いで「機会がないから」が18.1%、「年をとったから」が13.3%となっています。「スポーツ・運動が好きではないから」も12.2%で少なくありません。

【過去調査との比較】(図 7-6-5)

- ◆「忙しくて時間がないから」という回答は、前回調査と比較すると9.7ポイント増加しています。
- ◆「機会がないから」という回答は、前回調査と比較すると6.9ポイント減少しています。
- ◆「年をとったから」や「体が弱いから」といった加齢に伴う身体的な衰えを主な理由としてあげる回答は、前回調査と比較すると6.5ポイント減少しています。
- ◆「スポーツ・運動が好きではないから」という回答は、前回調査と比較すると3.2ポイント増加しています。

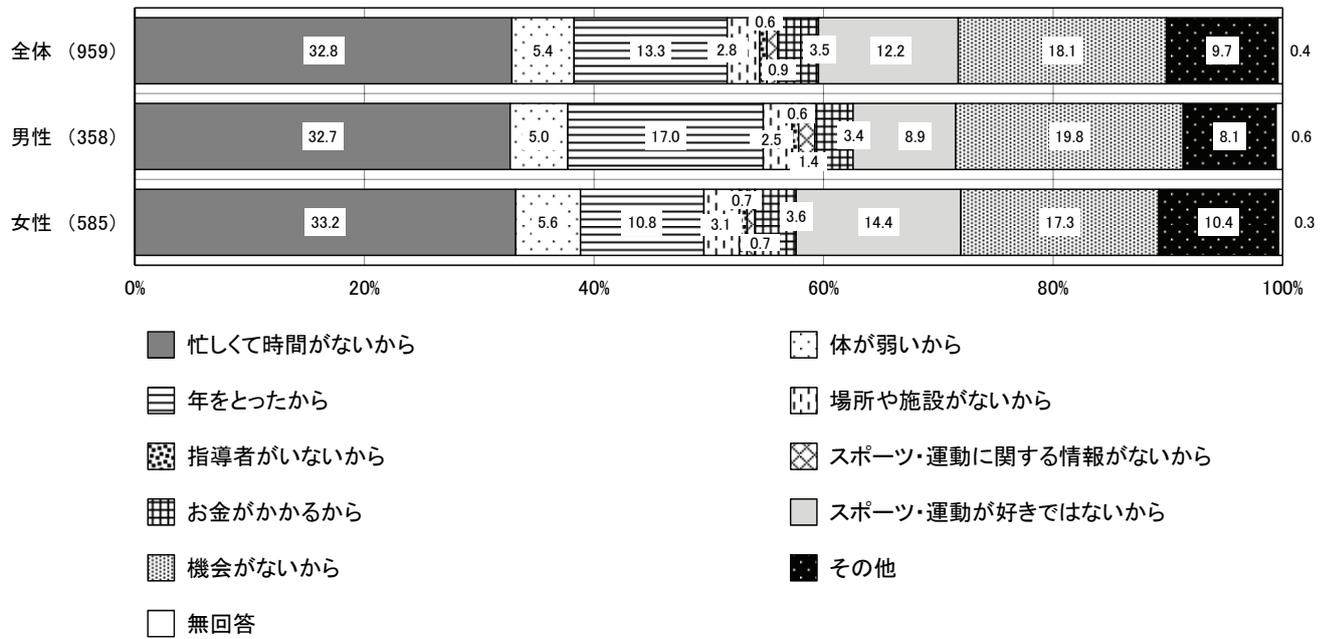
図 7-6-5 「スポーツ・運動の阻害要因」(過去調査との比較)



【性別】(図 7-6-6)

- ◆「忙しくて時間がないから」と「機会がないから」については、男女に共通して多くの割合を占めています。
- ◆「年をとったから」については、男性で17.0%、女性で10.8%となっており、男性の方が6.2ポイント多くなっていますが、逆に、「スポーツ・運動が好きではないから」については、男性（8.9%）よりも女性（14.4%）の方が5.5ポイント多くなっていることが特徴としてみられます。

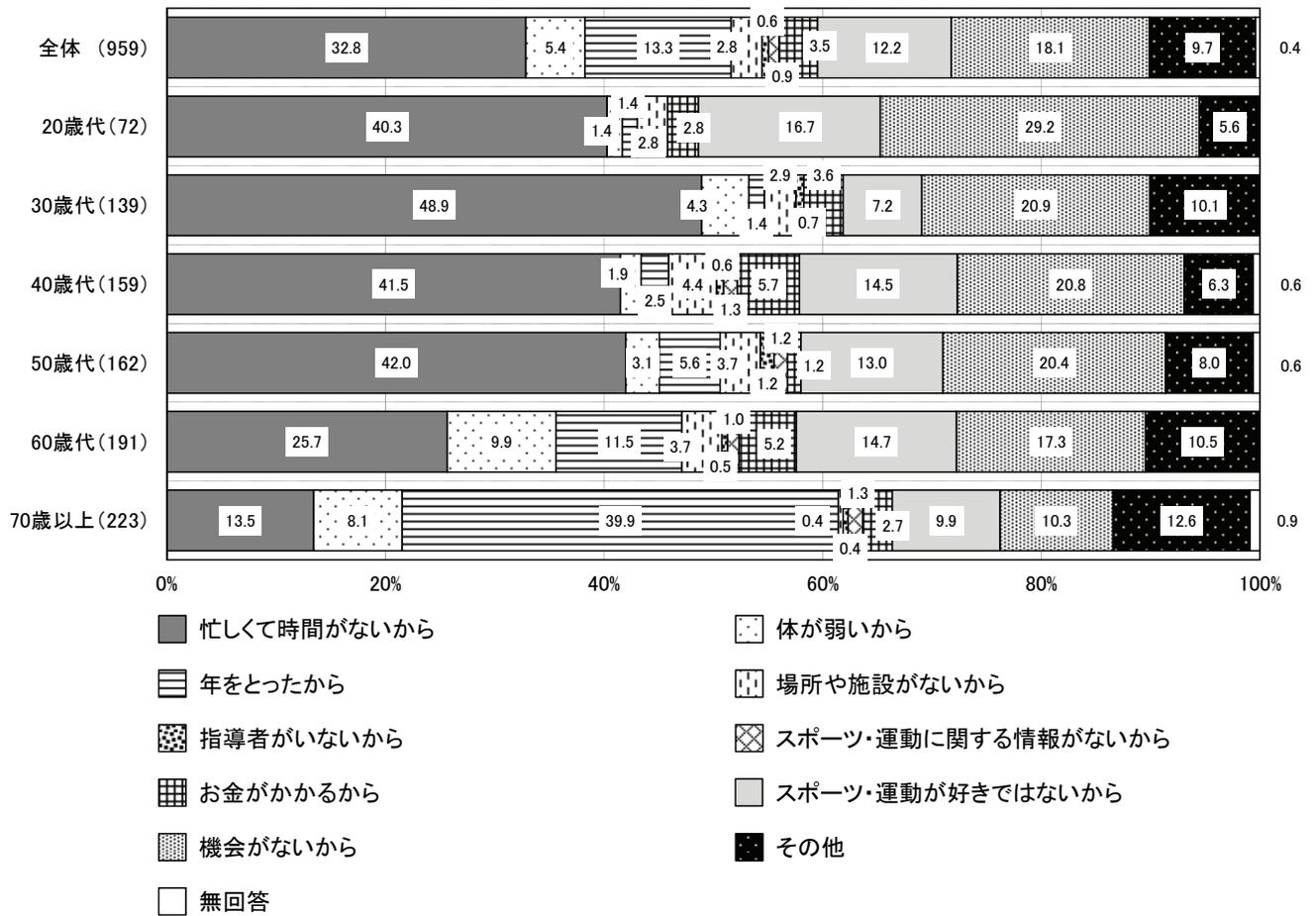
図 7-6-6 性別「スポーツ・運動の阻害要因」



【年齢別】(図 7-6-7)

- ◆「忙しくて時間がないから」という回答は、30歳代において48.9%と多く、40歳代や50歳代においてもそれぞれ、41.5%、42.0%とかなりの割合を占めています。また、30歳代以降、年齢が高くなるにしたがって、その割合は少なくなる傾向がみられます。
- ◆70歳以上においては、「年をとったから」(39.9%)や「体が弱いから」(8.1%)といった加齢に伴う身体的な衰えを主な理由としてあげる市民が48.0%を占め多くなっています。
- ◆20歳代では「スポーツ・運動が好きではないから」が16.7%と他の年齢に比べて若干その割合が多く占めていることが特徴としてみられます。

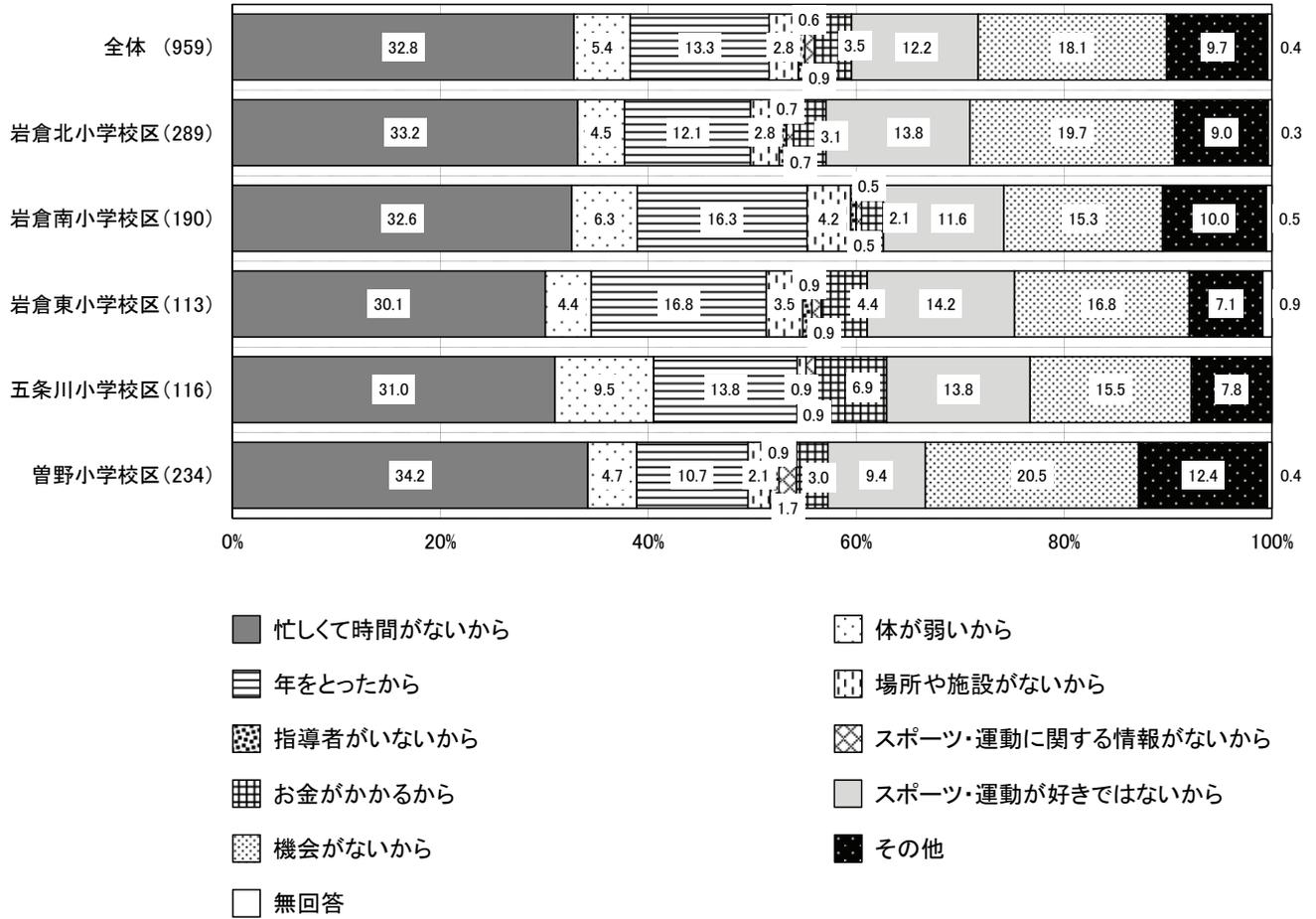
図 7-6-7 年齢別「スポーツ・運動の阻害要因」



【小学校区別】(図 7-6-8)

◆曾野小学校区においては、「機会がないから」が20.5%で、他の小学校区に比べて若干その割合が多くなっていますが、全般的に小学校区の違いによって大きな差は見られません。

図 7-6-8 小学校区別「スポーツ・運動の阻害要因」



7-7 スポーツ・運動の将来展望

(問32) 岩倉市では、「市民^{いち}スポーツ」を合言葉に、生涯スポーツの普及・啓発に努めています。今後、岩倉市がどのようなスポーツ・運動が盛んなまちになれば良いと思いますか。

【〇は1つだけ】

「健康づくりのための軽い運動」(37.6%)が最も多く、特に60歳代と70歳以上で多くなっています。次いで多いのが「いろいろなスポーツが楽しめる地域スポーツクラブ」(23.6%)で、特に30歳代で多くなっています。

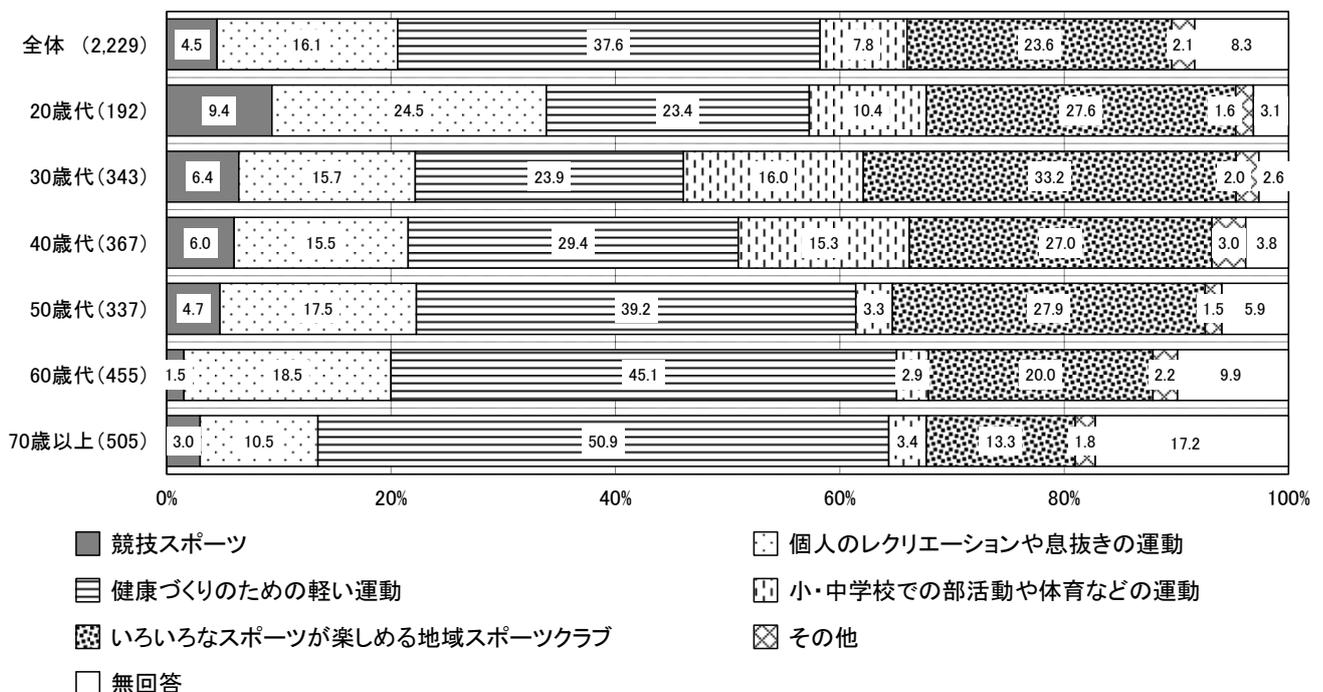
【全体】(図7-7-1)

- ◆「健康づくりのための軽い運動」が37.6%を占め最も多くなっています。次いで、「いろいろなスポーツが楽しめる地域スポーツクラブ」が23.6%となっています。
- ◆「個人のレクリエーションや息抜きの運動」が16.1%となっています。

【年齢別】(図7-7-1)

- ◆最も多い「健康づくりのための軽い運動」は、60歳代(45.1%)と70歳以上(50.9%)が多くなっています。
- ◆次いで多い「いろいろなスポーツが楽しめる地域スポーツクラブ」は、30歳代において33.2%と多くなっています
- ◆「個人のレクリエーションや息抜きの運動」については、特に20歳代において24.5%と多くなっています。

図7-7-1 年齢別「スポーツ・運動の将来展望」



8. 男女共同参画

8. 男女共同参画

8-1 男女共同参画に関する施策への要望

(問33) 岩倉市では、男女共同参画型社会の実現をめざしています。女性の地位向上や社会参加を進めるために、どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。【〇は3つまで】

「保育所など女性が安心して働くための施設の充実」(41.6%)が最も多く、次いで「介護の負担軽減のための公的サービスの充実」(37.6%)となっています。男性は組織における女性の登用の割合が高いのに比べ、女性は学習の機会や相談の支援を望む割合が高くなっています。

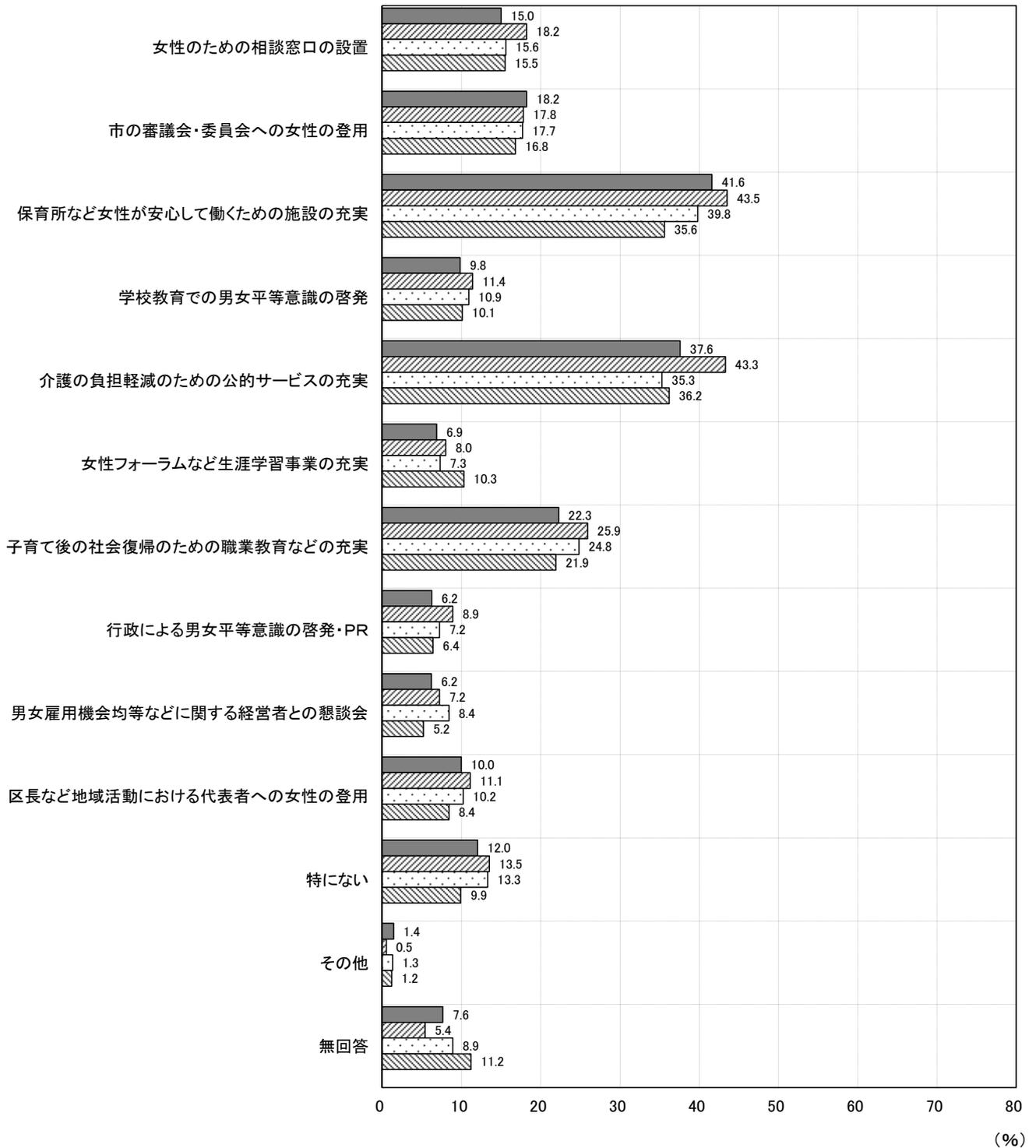
【全体】(図 8-1-1)

- ◆「保育所など女性が安心して働くための施設の充実」が41.6%と最も多くなっています。次いで、「介護の負担軽減のための公的サービスの充実」(37.6%)となっています。
- ◆これら2つの項目に次いで多いのが「子育て後の社会復帰のための職業教育などの充実」で、22.3%となっています。

【過去調査との比較】(図 8-1-1)

- ◆「保育所など女性が安心して働くための施設の充実」は過去調査では毎回増加していましたが、今回調査では若干減少しました。
- ◆「介護の負担軽減のための公的サービスの充実」も同様に過去調査では毎回増加していましたが、今回調査では減少しました。前回調査と比較すると5.7ポイント減少しています。
- ◆前回調査に比べて、「市の審議会・委員会への女性の登用」と「その他」を除くすべての項目(10項目)のポイントが減少しています。

図 8-1-1 「男女共同参画に関する施策への要望」(過去調査との比較)

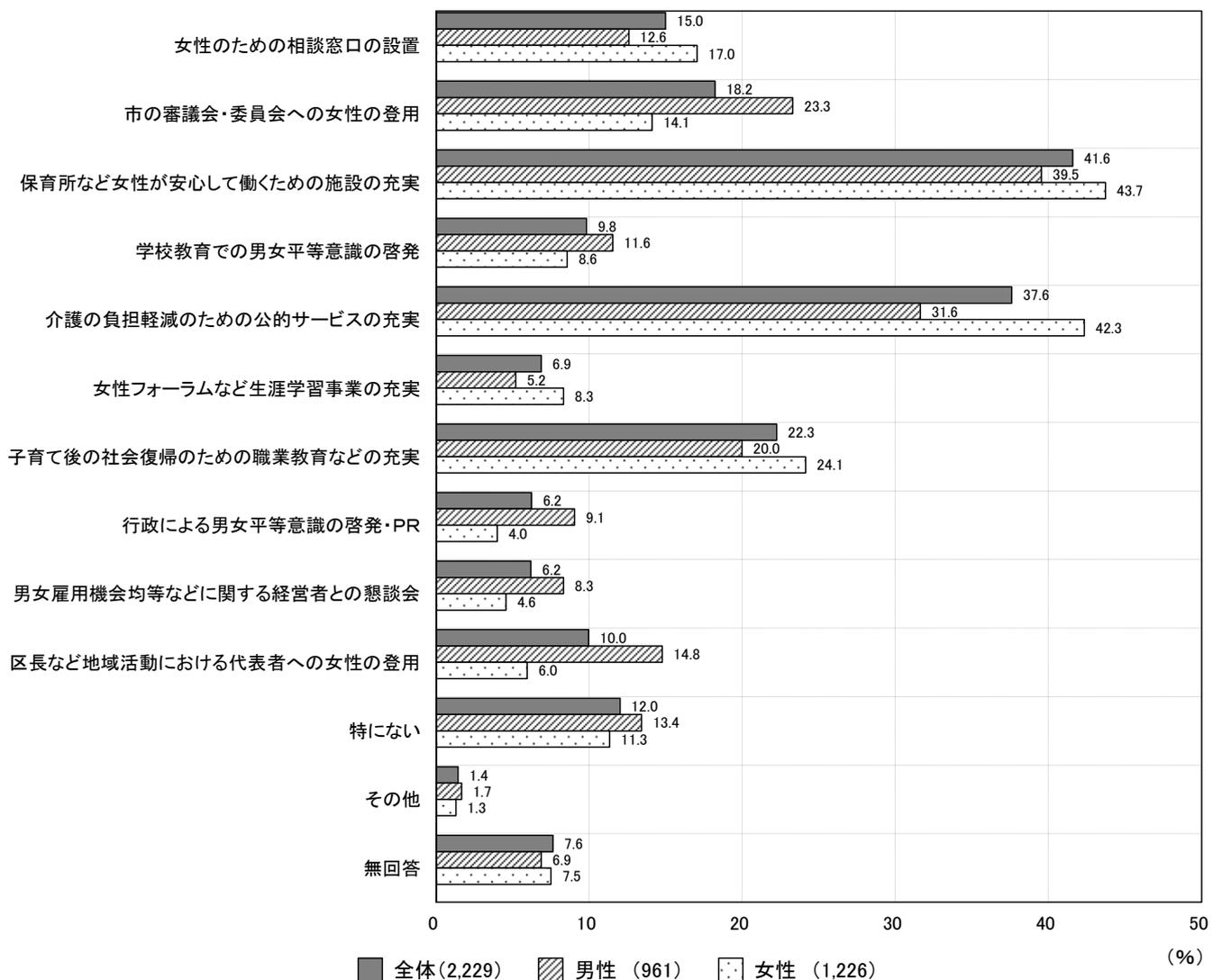


■ 今回(2,229) ▨ 平成20年(2,464) ▩ 平成15年(2,480) ▤ 平成10年(1,915)

【性別】(図 8-1-2)

- ◆「女性のための相談窓口の設置」「保育所など女性が安心して働くための施設の充実」「介護の負担軽減のための公的サービスの充実」「女性フォーラムなど生涯学習事業の充実」「子育て後の社会復帰のための職業教育などの充実」の5項目に対する要望については、男性よりも女性の方が多くなっています。
- ◆逆に、「市の審議会・委員会への女性の登用」「学校教育での男女平等意識の啓発」「行政による男女平等意識の啓発・PR」「男女雇用機会均等などに関する経営者との懇談会」「区長など地域活動における代表者への女性の登用」の5項目に対する要望については、女性よりも男性の方が多くなっています。
- ◆以上のように、女性の場合は、介護や保育、子育て後の社会復帰といった、かなり現実的に直面する課題解決に向けた要望が多いのに対して、男性の場合は、地域活動の代表者や行政機関への女性登用や意識啓発といった要望が多いことが特徴としてみられます。

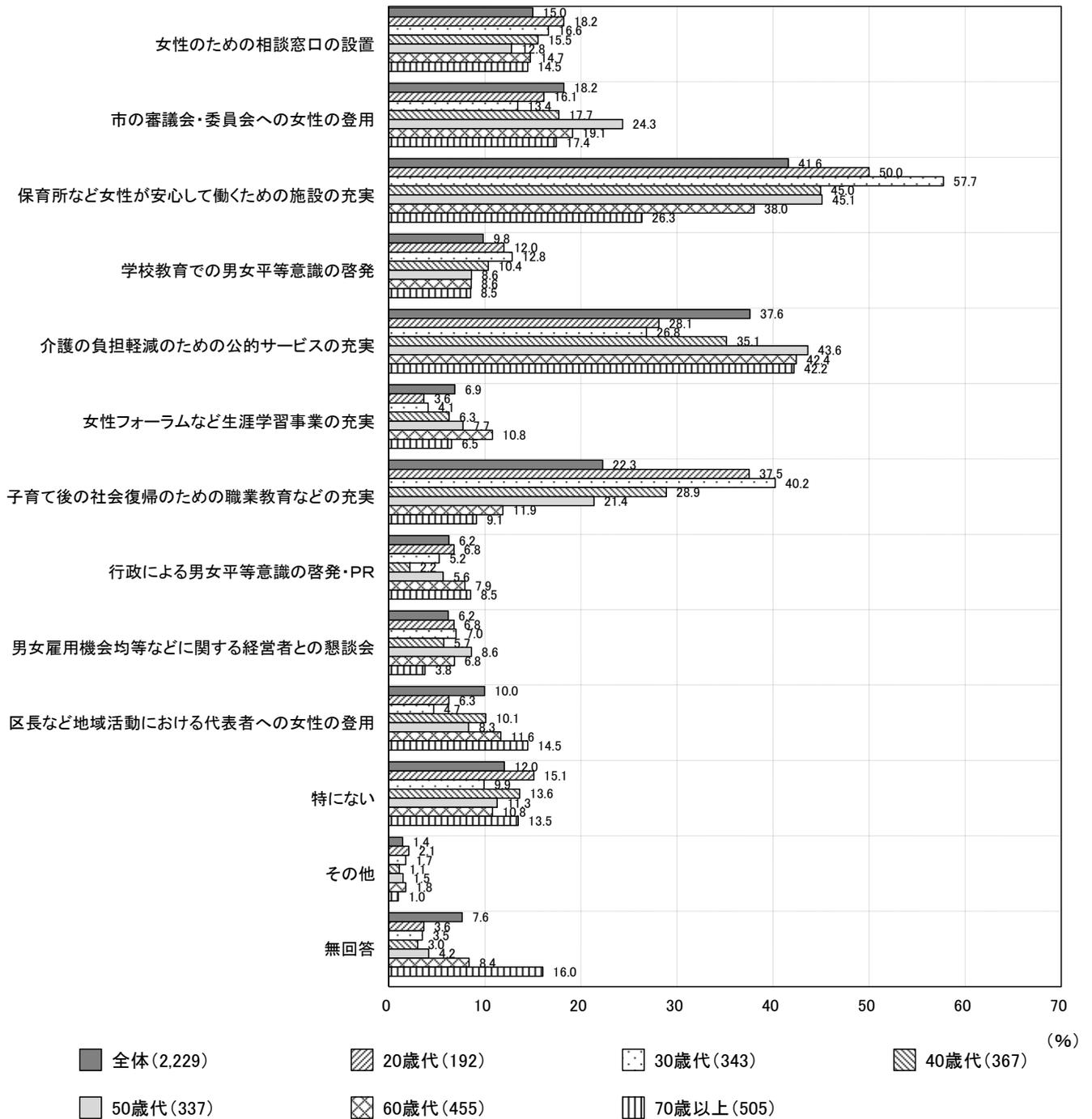
図 8-1-2 性別「男女共同参画に関する施策への要望」



【年齢別】(図 8-1-3)

- ◆「保育所など女性が安心して働くための施設の充実」については、年齢間の差が最も大きく、30歳代で57.7%、70歳以上で26.3%と、その差は31.4ポイントとなっています。
- ◆次いで「子育て後の社会復帰のための職業教育などの充実」が30歳代で40.2%、70歳以上で9.1%と、その差は31.1ポイントとなっています。20歳代(37.5%)や30歳代において際立って多くなっています。
- ◆「市の審議会・委員会への女性の登用」については、50歳以上(24.3%)が多くなっています。

図 8-1-3 年齢別「男女共同参画に関する施策への要望」



9. 市民参画や協働によるまちづくり

9. 市民参画や協働によるまちづくり

9-1 市民意見を反映した市政に重要なこと

(問34) 市民の意見を十分に反映した市政を行っていくために、何が重要だと思いますか。

【〇は2つまで】

「アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実」(37.6%)が最も多く、次いで、「政策づくりの過程からの情報発信や意見募集」「市政情報の公開」となっています。

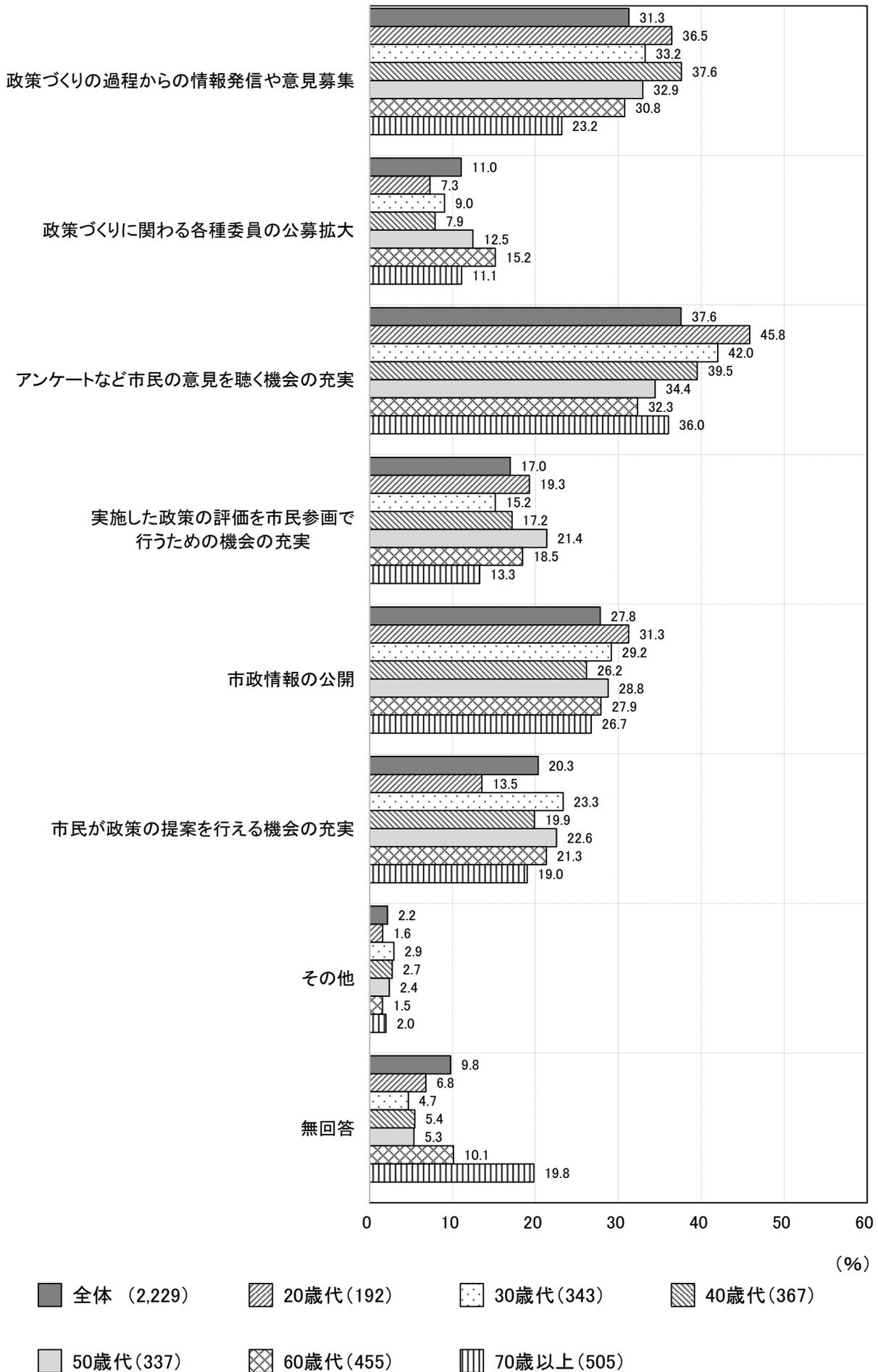
【全体】(図9-1-1)

- ◆「アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実」が37.6%と最も多くなっています。次いで、「政策づくりの過程からの情報発信や意見募集」(31.3%)、「市政情報の公開」(27.8%)となっています。
- ◆市政についての情報提供とともに、意見を聴く機会の充実が求められているといえます。

【年齢別】(図9-1-1)

- ◆いずれの年齢でも「アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実」「政策づくりの過程からの情報発信や意見募集」「市政情報の公開」が重要だという意見が多くありました。
- ◆全般的に年齢による有意な差は認められません。

図 9-1-1 年齢別「市民意見を反映した市政に重要なこと」



(%)

全体 (2,229)
 20歳代 (192)
 30歳代 (343)
 40歳代 (367)

50歳代 (337)
 60歳代 (455)
 70歳以上 (505)

9-2 市民活動や地域活動への参加状況

(問35) 現在のあなたの市民活動や地域活動の参加状況についておたずねします。

【〇は1つだけ】

「既に参加している」が16.3%、「参加しようと思っている」が11.3%となっており、これらを合わせた市民の割合（以下“参加意向”）は、27.6%を占めています。これに対し、「あまり参加しようとは思わない」が36.8%、「参加しようとは思わない」が17.3%となっており、これらを合わせた市民の割合（以下“不参加意向”）は、54.1%を占めており、“参加意向”の約2倍となっています。

【全体】(図9-2-1)

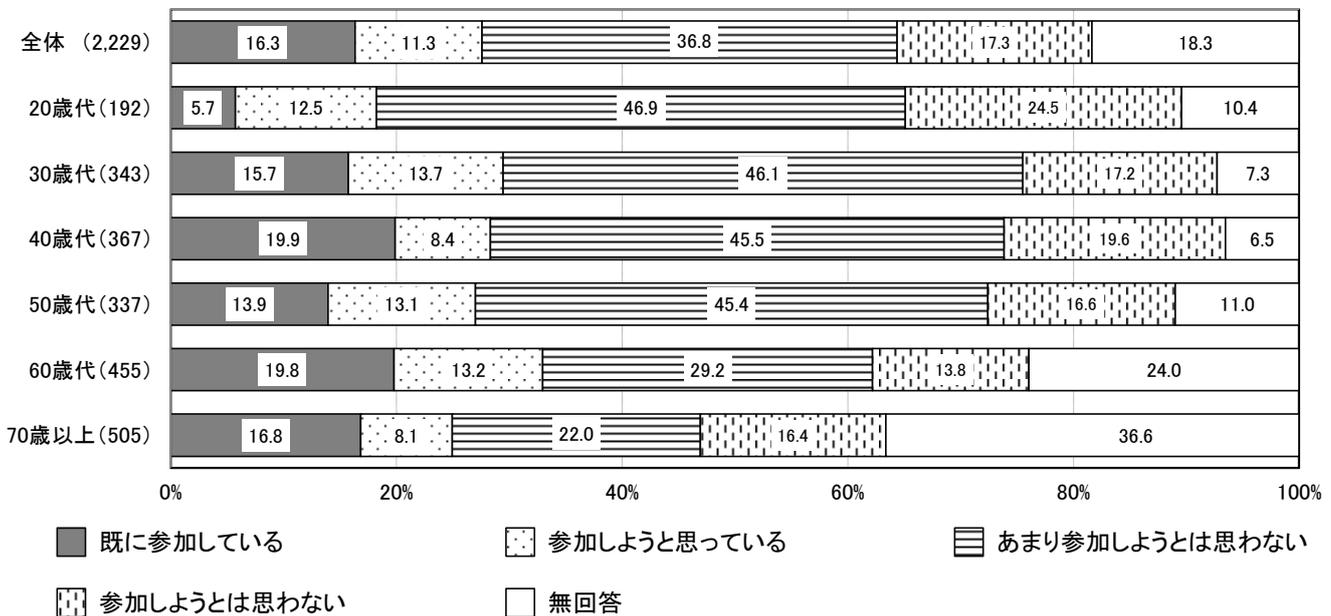
◆「あまり参加しようとは思わない」が36.8%と最も多くなっています。次いで、「参加しようとは思わない」(17.3%)となっています。

【年齢別】(図9-2-1)

◆“参加意向”が最も高いのは60歳代で33.0%、次いで30歳代が29.4%となっています。

◆逆に“不参加意向”が最も高いのは20歳代で71.4%、次いで40歳代が65.1%となっています。

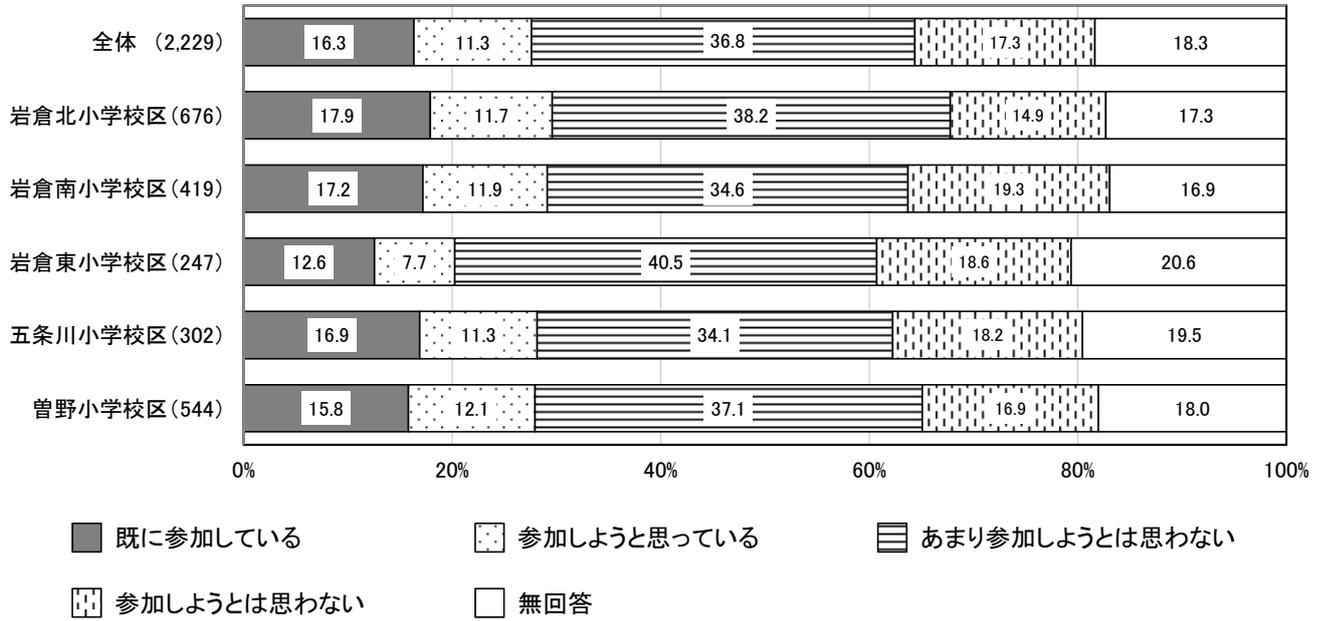
図9-2-1 年齢別「市民活動や地域活動への参加状況」



【小学校区別】(図 9-2-2)

◆岩倉東小学校区では他の小学校区に比べて“参加意向”が低く、“不参加意向”が高くなっていますが、小学校区間に大きな差はありません。

図 9-2-2 小学校区別「市民活動や地域活動への参加状況」



9-2-1 市民活動や地域活動への参加状況

(問35-1) 参加している、参加しようと思っている活動は何ですか。

【あてはまるものすべてに○】

参加したい活動は「祭りなどの伝統的な行事」(29.6%)が最も多く、次いで「地域のスポーツクラブ・サークル活動」、「地域の趣味・教養のクラブ・サークル活動」、「行政区や自治会の活動」となっています。

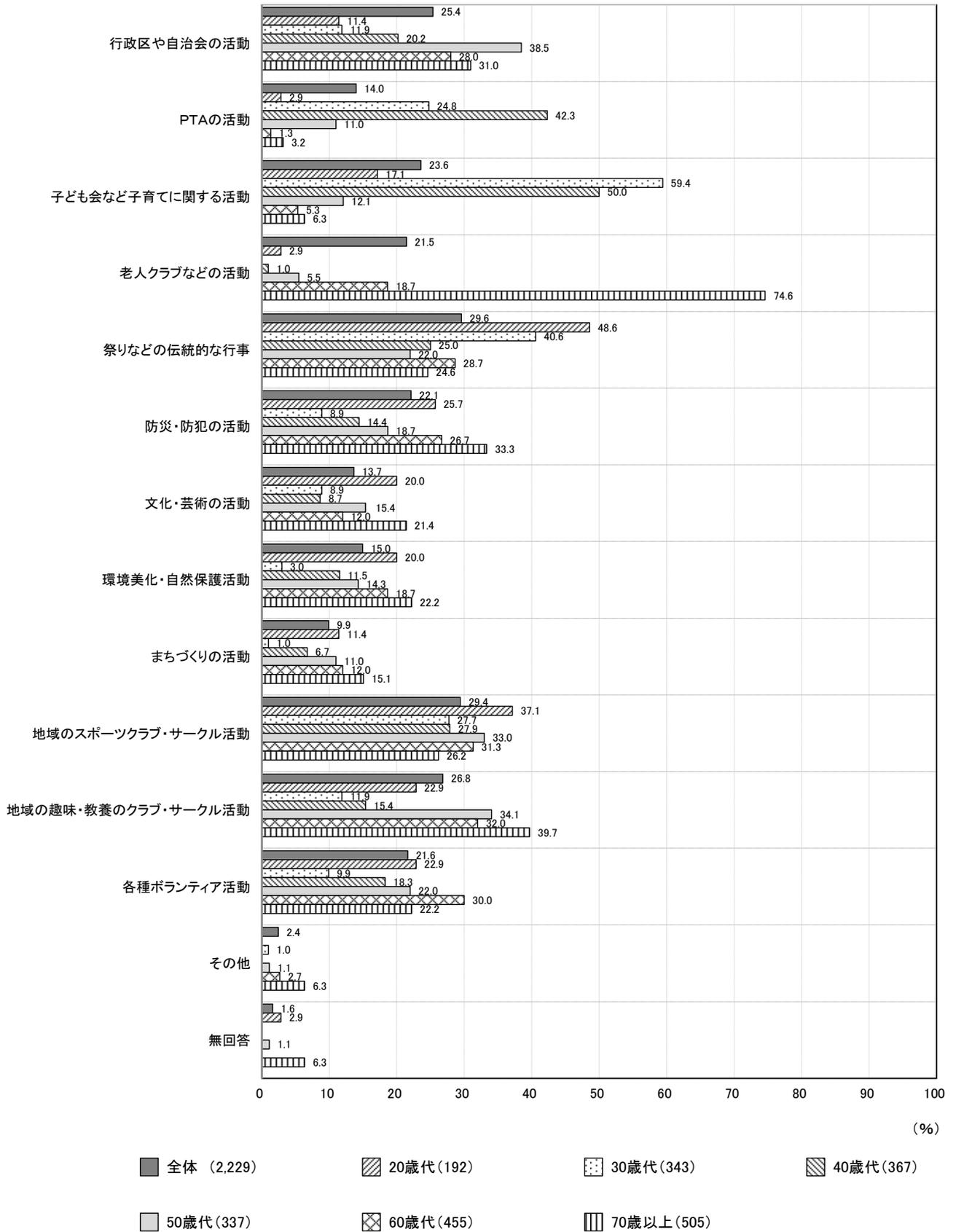
【全体】(図9-2-3)

◆「祭りなどの伝統的な行事」が29.6%と最も多くなっています。次いで、「地域のスポーツクラブ・サークル活動」(29.4%)、「地域の趣味・教養のクラブ・サークル活動」(26.8%)となっています。

【年齢別】(図9-2-3)

◆参加したい活動は、年齢により大きく異なっています。20歳代は「祭りなどの伝統的な行事」、30歳代、40歳代は「子ども会など子育てに関する活動」、50歳代は「行政区や自治会の活動」、60歳代は「地域の趣味・教養のクラブ・サークル活動」、70歳以上は「老人クラブなどの活動」が最も多くなっており、各年齢で特徴が表れています。

図 9-2-3 年齢別「参加している、参加したい活動」



(%)

9-2-2 市民活動や地域活動への参加阻害要因

(問35-2) 参加しようと思わない理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

参加しようと思わない理由は「時間に余裕がない」(65.2%)が最も多く、次いで「気軽に参加できる機会がない」「関心がない」となっています。

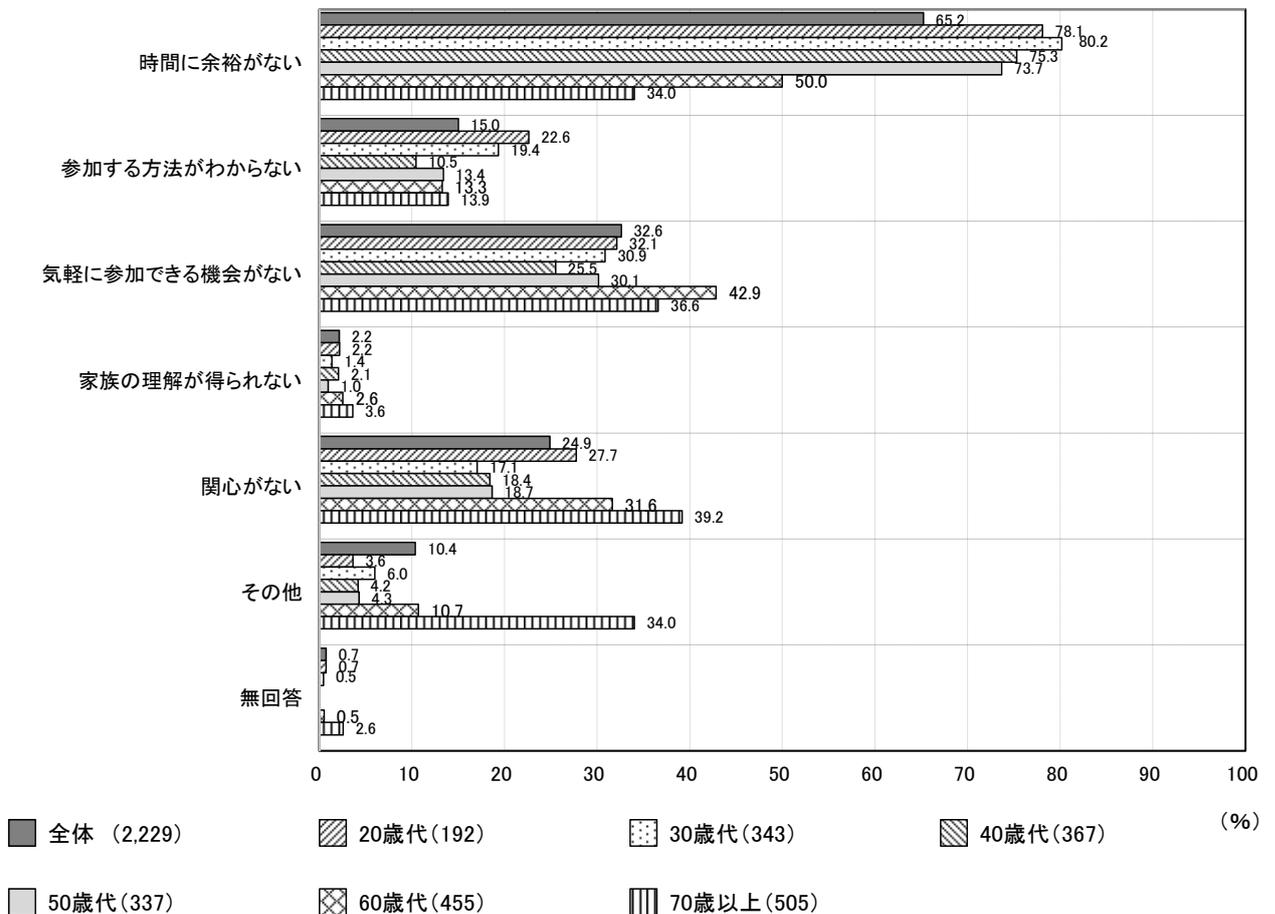
【全体】(図9-2-4)

- ◆「時間に余裕がない」が65.2%と最も多くなっています。次いで、「気軽に参加できる機会がない」(32.6%)、「関心がない」(24.9%)となっています。

【年齢別】(図9-2-4)

- ◆70歳以上を除き、「時間に余裕がない」「気軽に参加できる機会がない」が多くなっています。
- ◆70歳以上では「関心がない」(39.2%)、「その他」(34.0%)が他の年齢に比べ多くなっています。70歳以上の「その他」の回答では、体調や年齢による理由が多くなっています。
- ◆60歳代については、他の年齢に比べて「時間に余裕がない」の割合が少なく、「気軽に参加できる機会がない」の割合が高くなっています。他の年齢に比べ“参加意向”も高いことから、気軽に参加できる機会の充実と周知を図ることが、市民活動・地域活動を活発にするためには有効であるといえます。

図9-2-4 年齢別「参加しようと思わない理由」



9-3 基本的な地域活動の単位

(問36) 岩倉市では、防災・防犯など日常生活に密着した地域活動について、小学校区単位での活動を進めていきたいと考えています。基本的な地域活動の単位について、どのように思いますか。
【〇は1つだけ】

「小学校区単位が好ましい」(54.6%)が最も多いのですが、年齢が高くなるに従い減少しています。次いで、「現在の行政区単位でよい」が24.4%となっていますが、年齢が高くなるに従い増加傾向がみられます。

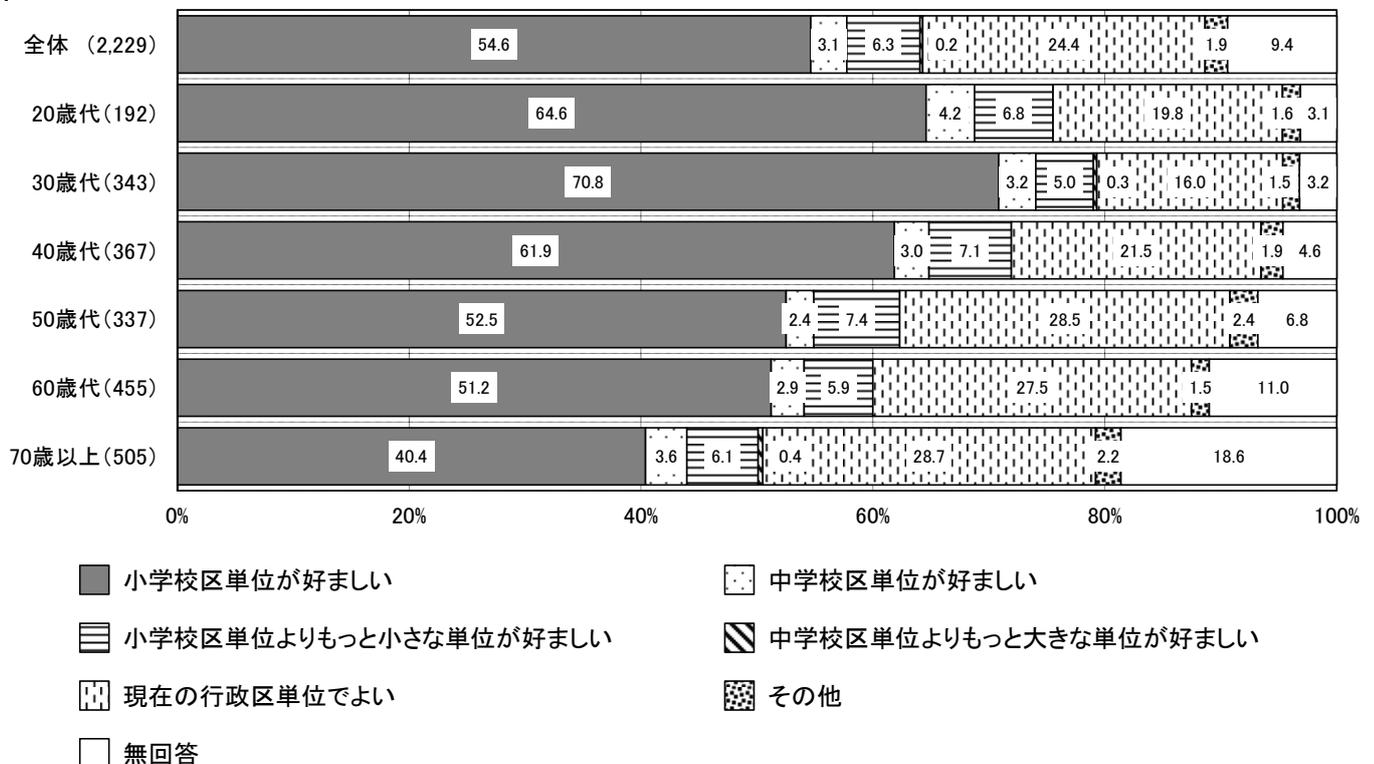
【全体】(図9-3-1)

- ◆「小学校区単位が好ましい」が54.6%と最も多くなっています。次いで、「現在の行政区単位でよい」(24.4%)となっています。
- ◆「中学校区単位よりもっと大きな単位が好ましい」(0.2%)という回答が最も低い回答となっています。

【年齢別】(図9-3-1)

- ◆「小学校区単位が好ましい」が全年齢で最も多くなっていますが、年齢が高くなるに従い減少傾向がみられます。
- ◆次に多い「現在の行政区単位でよい」は、年齢が高くなるに従い増加傾向がみられます。

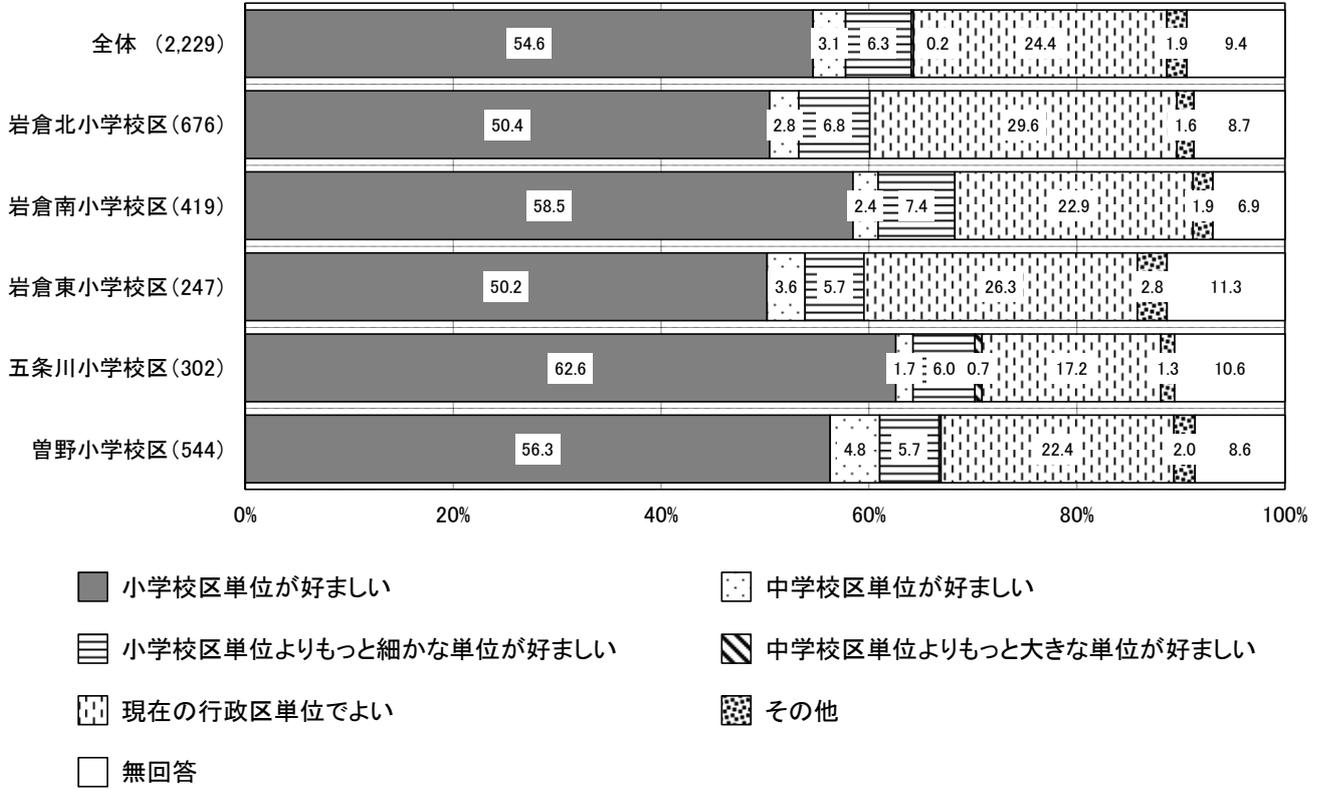
図9-3-1 年齢別「基本的な地域活動の単位」



【小学校区別】(図 9-3-2)

- ◆「小学校区単位が好ましい」は五条川小学校区（62.6%）で他の小学校区より多くなっています。
- ◆「現在の行政区単位でよい」は岩倉北小学校区（29.6%）で他の小学校区より多くなっています。

図 9-3-2 小学校区別「基本的な地域活動の単位」



10. 多文化共生・平和

10. 多文化共生・平和

10-1 多文化共生に関する施策への要望

(問37) 岩倉市では、異なる文化の人々が一緒に生活できるまちをめざしています。そのためどのような施策に力を入れていくべきと思いますか。【〇は3つまで】

* 多文化共生：国籍や民族などの異なる人たちが、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生活すること。

「保育園や学校などで子どもや青少年の交流の機会を増やす」(31.1%)が最も多く、次いで、「学校教育における国際理解や言語教育を充実させる」(25.5%)や「地域の行事・自治会で交流の機会を増やす」(25.2%)が多くなっています。

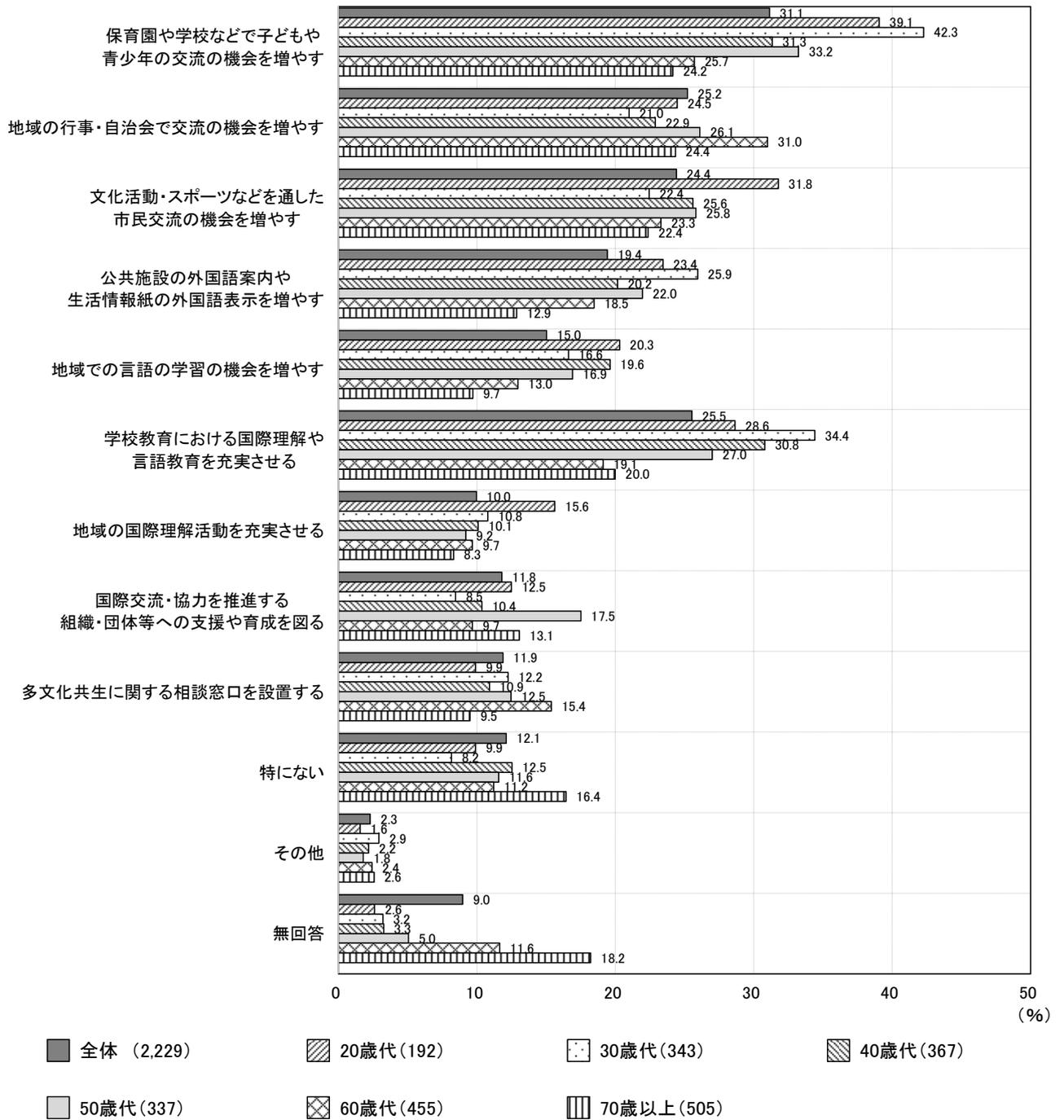
【全体】(図 10-1-1)

- ◆「保育園や学校などで子どもや青少年の交流の機会を増やす」が31.1%と最も多くなっています。
- ◆次いで「学校教育における国際理解や言語教育を充実させる」が25.5%、「地域の行事・自治会で交流の機会を増やす」が25.2%と多くなっています。
- ◆「文化活動・スポーツなどを通じた市民交流の機会を増やす」(24.4%)や「公共施設の外国語案内や生活情報紙の外国語表示を増やす」(19.4%)についても少なくはありません。

【年齢別】(図 10-1-1)

- ◆30歳代において、「保育園や学校などで子どもや青少年の交流の機会を増やす」が42.3%となっています。また、「学校教育における国際理解や言語教育を充実させる」が34.4%と、他の年齢よりも多くなっていることが特徴としてみられます。
- ◆「地域の行事・自治会での交流の機会を増やす」は、60歳代において31.0%と他の年齢よりも若干多くなっていますが、30歳代においては21.0%と少なくなっています。
- ◆なお、70歳以上における多文化共生に関する施策要望は全般的に低くなっており、なかでも、「公共施設の外国語案内や生活情報紙の外国語表示を増やす」(12.9%)や「地域での言語の学習の機会を増やす」(9.7%)、「地域の国際理解活動を充実させる」(8.3%)の割合が他の年齢よりも少なくなっています。

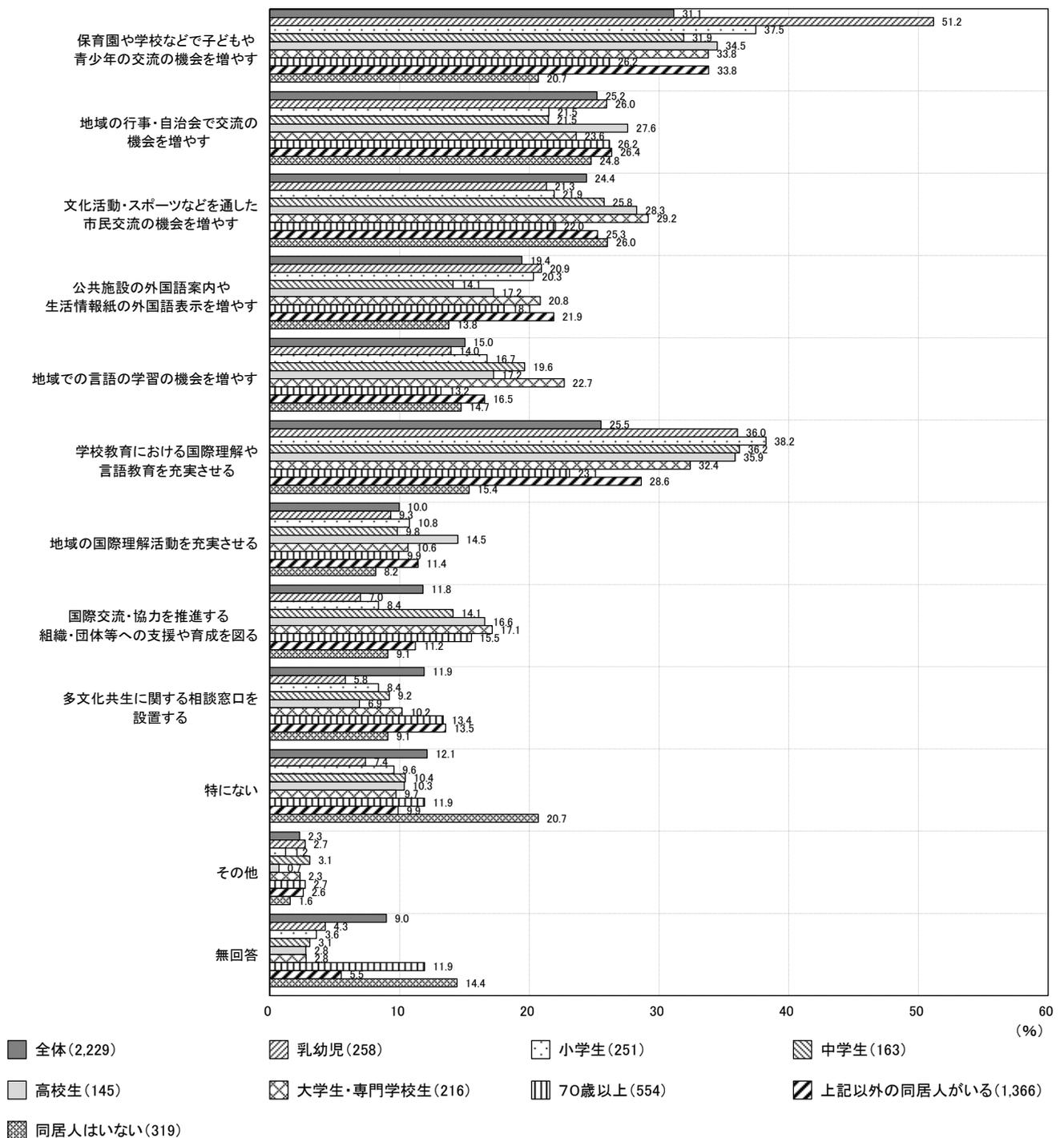
図 10-1-1 年齢別「多文化共生に関する施策への要望」



【世帯の構成者別】(図 10-1-2)

- ◆「保育園や学校などで子どもや青少年の交流の機会を増やす」は、乳幼児がいる市民において51.2%と特に多くなっています。また、小学生・中学生・高校生・大学生・専門学校生がいる市民においても比較的多くなっています。
- ◆「学校教育における国際理解や言語教育を充実させる」は、小学生がいる市民で38.2%と若干多くなっています。また、乳幼児・中学生・高校生・大学生・専門学校生がいる市民においても比較的多くなっています。
- ◆「地域の行事・自治会で交流の機会を増やす」は、高校生がいる市民で27.6%と若干多くなっています。

図 10-1-2 世帯の構成者別「多文化共生に関する施策への要望」



10-2 平和事業に関する周知の状況

(問38) 岩倉市では、次のような平和事業を行っています。あなたは、これらの事業についてご存知ですか。【あてはまるものすべてに○】

平和事業を全く知らないが38.8%と最も多くなっています。最も知られている平和事業は「戦没者追悼式」(27.0%)であり、次いで「小中学生を広島・長崎へ派遣する平和祈念事業」「核兵器廃絶都市宣言」と続いています。

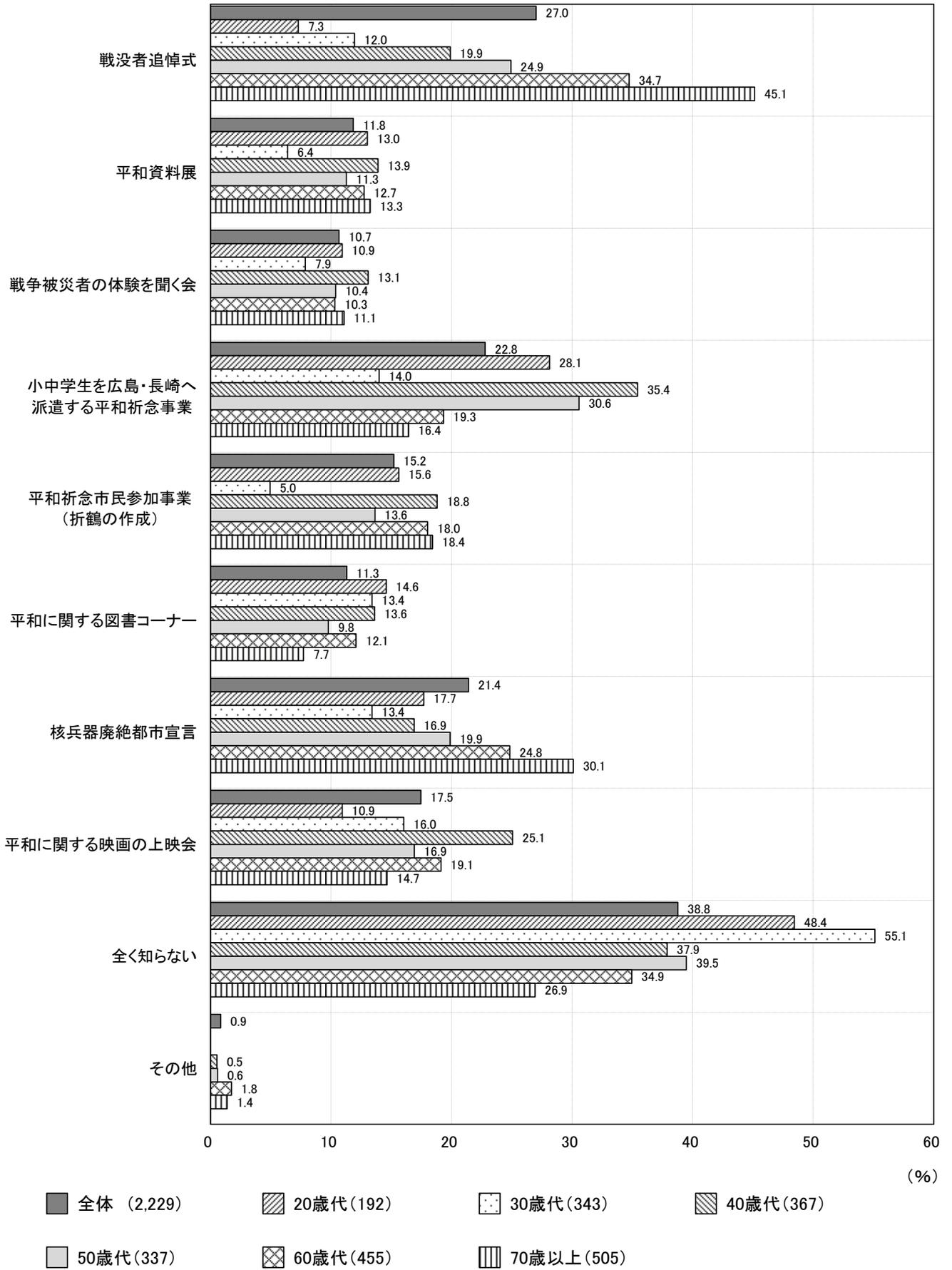
【全体】(図10-2-1)

- ◆「全く知らない」が38.8%を占めており、最も多くなっています。
- ◆最も知られている平和事業は、「戦没者追悼式」で27.0%になっています。次いで、「小中学生を広島・長崎へ派遣する平和祈念事業」が22.8%、「核兵器廃絶都市宣言」が21.4%、「平和に関する映画の上映会」が17.5%となっています。

【年齢別】(図10-2-1)

- ◆「全く知らない」については、特に30歳代において55.1%を占め最も多くなっています。30歳代以降は年齢が高くなるにしたがって順次その割合は少なくなる傾向がみられ、第二次世界大戦や戦後の厳しい時代を体験している70歳以上では、「全く知らない」の占める割合が26.9%と少なくなっています。
- ◆「戦没者追悼式」については、70歳以上において45.1%と際立って多くなっています。60歳代でも34.7%と他の年齢よりも多くなっています。一方で、20歳代(7.3%)や30歳代(12.0%)では少なくなっています。
- ◆「小中学生を広島・長崎へ派遣する平和祈念事業」については、小学生や中学生との同居割合が多い世代である40歳代において35.4%と多くなっていることが特徴となっています。
- ◆「核兵器廃絶都市宣言」についても、年齢が高くなるに従いその割合が高くなる傾向がみられ、60歳代では24.8%、70歳以上では30.1%の市民に知られています。
- ◆比較的若い世代では、平和事業に関する認知割合が少なくないことから、特にこうした若い世代に対して、平和の重要性を啓発していく必要があると考えられます。

図 10-2-1 年齢別「平和事業に関する周知の状況」



11. 行政經營

1 1. 行政経営

1 1-1 岩倉市に求める行政経営

(問39) 岩倉市に対してどのような行政経営を求めますか。【〇は3つまで】

「職員の意識改革・資質向上」(45.3%)が最も多くなっており、年齢が高くなるに従い増加傾向がみられます。次いで「公共事業や行政サービスの見直し」が32.6%ですが、年齢が高くなると減少傾向がみられます。

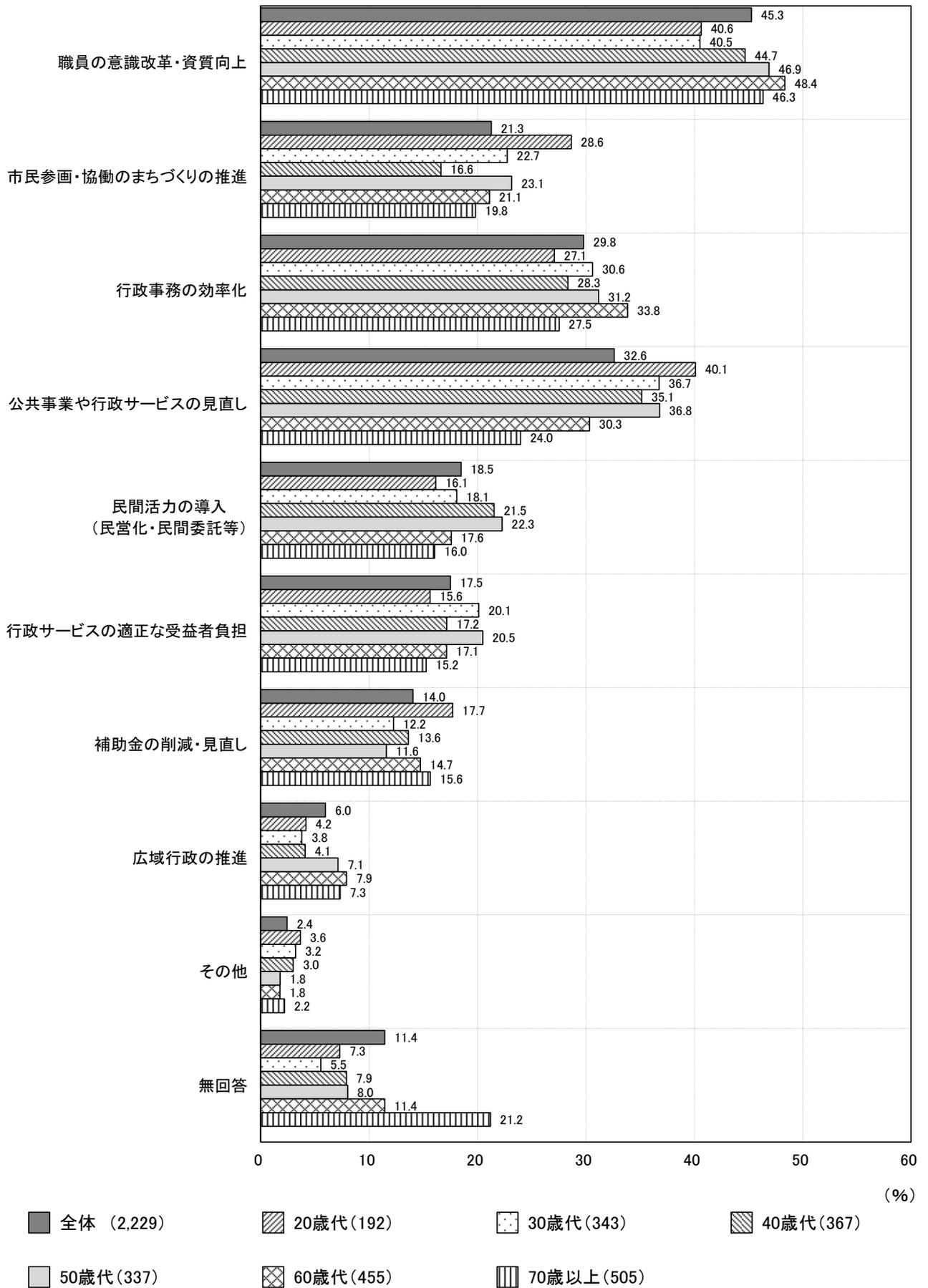
【全体】(図 11-1-1)

- ◆「職員の意識改革・資質向上」が45.3%で最も多くなっています。
- ◆次いで、「公共事業や行政サービスの見直し」が32.6%、「行政事務の効率化」が29.8%、「市民参画・協働のまちづくりの推進」が21.3%となっています。

【年齢別】(図 11-1-1)

- ◆「職員の意識改革・資質向上」については、60歳代において48.4%を占め最も多くなっています。すべての年齢で40%以上であり、年齢が高くなるに従い増加傾向がみられます。
- ◆「公共事業や行政サービスの見直し」については、20歳代において40.1%と若干多くなっています。年齢が高くなるに従い減少傾向がみられます。
- ◆「行政事務の効率化」については、60歳代において33.8%と他の年齢より若干多くなっています。
- ◆「市民参画・協働のまちづくりの推進」については、20歳代において28.6%と他の年齢より若干多くなっています。
- ◆全般的に年齢による有意な差は認められません。

図 11-1-1 年齢別「岩倉市に求める行政経営」



11-2 行政サービスと市民負担のバランス

(問40) 行政サービスと市民負担のバランスをどのように考えますか。【〇は1つだけ】

「行政サービスの充実のために、徹底した行政改革により、財源を生みだすべき」(34.2%)が最も多く、次いで「受益者負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきではない」となっています。

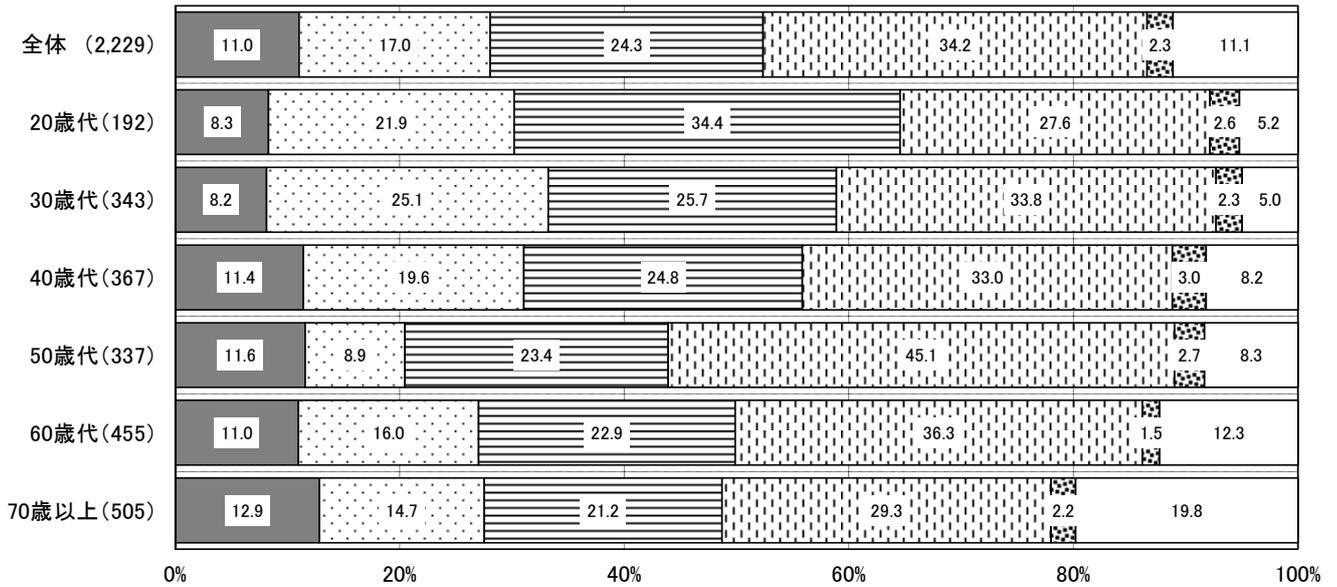
【全体】(図11-2-1)

- ◆「行政サービスの充実のために、徹底した行政改革により、財源を生みだすべき」が34.2%で最も多くなっています。
- ◆次いで、「受益者負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきではない」が24.3%、「市民全体の負担が増えるのであれば、行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」が17.0%、となっています。

【年齢別】(図11-2-1)

- ◆「行政サービスの充実のために、徹底した行政改革により、財源を生みだすべき」については、50歳代において45.1%を占め最も多くなっています。最も少ない20歳代(27.6%)との差は17.5ポイントとなっています。
- ◆「受益者負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきではない」については、20歳代において34.4%と最も多くなっています。最も少ない70歳以上(21.2%)との差は13.2ポイントとなっています。
- ◆「市民全体の負担が増えるのであれば、行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」については、30歳代において25.1%と最も多くなっています。最も少ない50歳代(8.9%)との差は16.2ポイントとなっています。

図 11-2-1 年齢別「行政サービスと市民負担のバランス」



- 行政サービスの充実のために、市民全体の負担が増えるのは仕方がない
- ▨ 市民全体の負担が増えるのであれば、行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない
- ▨ 受益者負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきではない
- ▨ 行政サービスの充実のために、徹底した行政改革により、財源を生みだすべき
- ▨ その他
- 無回答

12. 市政の情報提供

1 2. 市政の情報提供

1 2-1 市政情報提供方法ごとの利用状況

(問 4 1) 岩倉市では、次のような方法により市民の皆さまに情報提供をしています。あなたは日ごとの程度利用されていますか。 【1つずつ選んで○をつけてください。】

「よく利用している」と「ときどき利用している」を合わせた利用している市民の割合(以下“利用率”)は、「広報いわくら」が74.3%、「岩倉市のホームページ」が17.4%、「情報サロン(市役所1階)」が4.8%となっています。

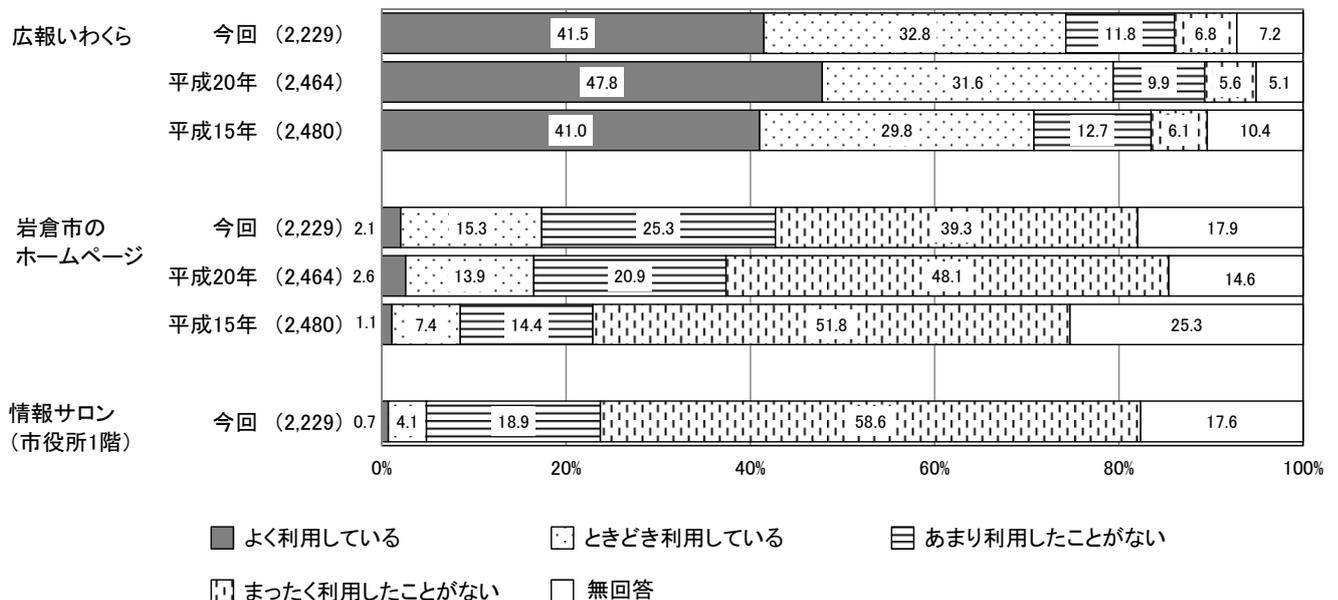
【全体】(図 12-1-1)

- ◆「広報いわくら」では、「よく利用している」が41.5%、「ときどき利用している」が32.8%で、“利用率”は74.3%と高い割合を占めています。
- ◆「岩倉市のホームページ」では、「よく利用している」が2.1%、「ときどき利用している」が15.3%で、“利用率”は17.4%となっています。
- ◆「情報サロン(市役所1階)」では、「よく利用している」が0.7%、「ときどき利用している」が4.1%で、“利用率”は4.8%となっています。

【過去調査との比較】(図 12-1-1)

- ◆「広報いわくら」の“利用率”については、平成15年調査が70.8%、平成20年調査が79.4%、今回調査が74.3%となっています。平成20年と比較すると5.1ポイント減少しましたが、高い割合を占めています。
- ◆「岩倉市のホームページ」の“利用率”については、平成15年調査が8.5%、平成20年調査が16.5%、今回調査が17.4%となっています。“利用率”はわずかですが増加しています。

図 12-1-1 「市政情報提供方法ごとの利用状況」(過去調査との比較)

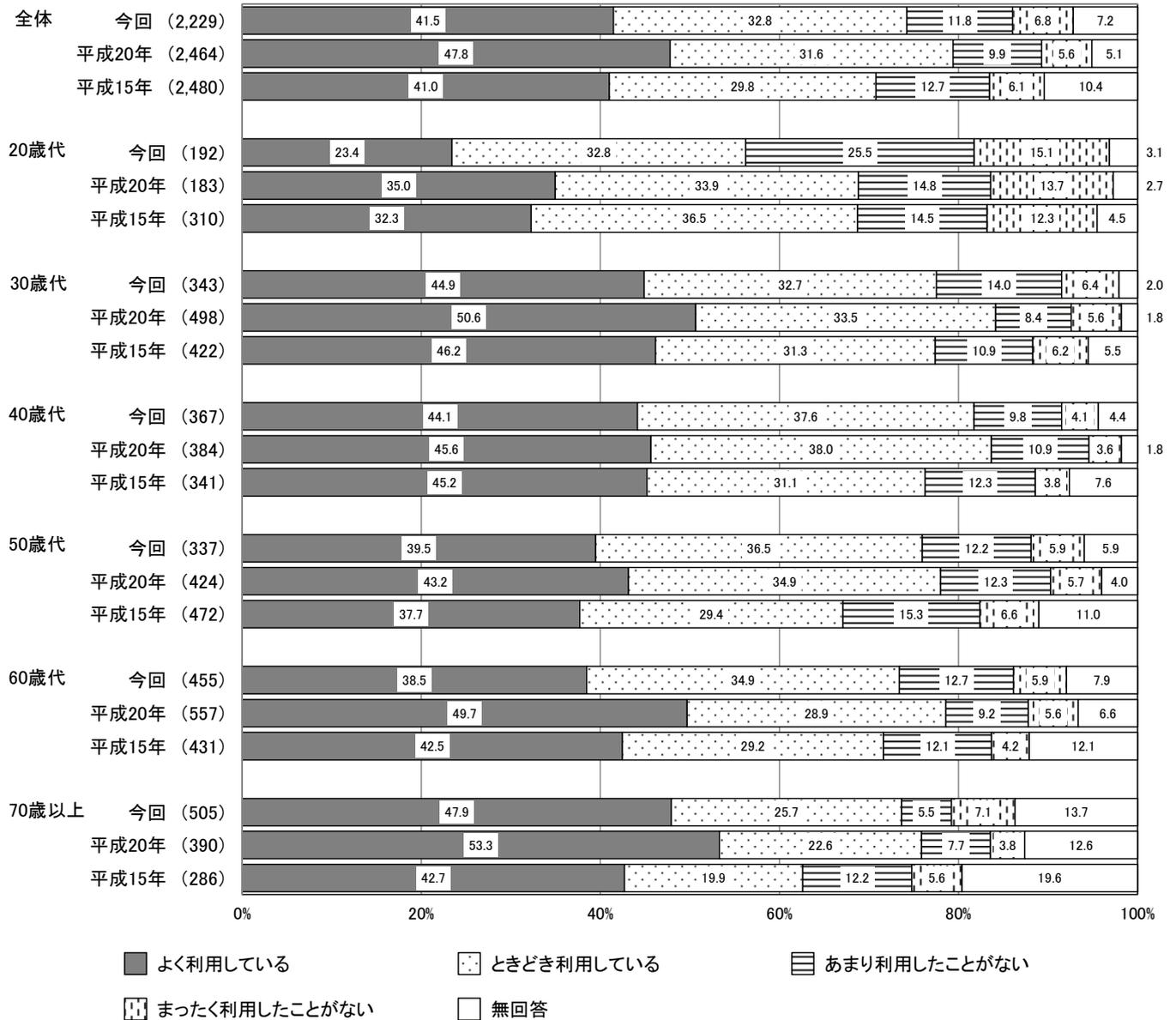


『広報いわくら』

【年齢別】(図 12-1-2)

◆20 歳代では“利用率”が 56.2%で他の年齢よりも少なくなっており、「まったく利用したことがない」が 15.1%で他の年齢よりも多くなっています。

図 12-1-2 年齢別「広報いわくらの利用状況」(過去調査との比較)



『岩倉市のホームページ』

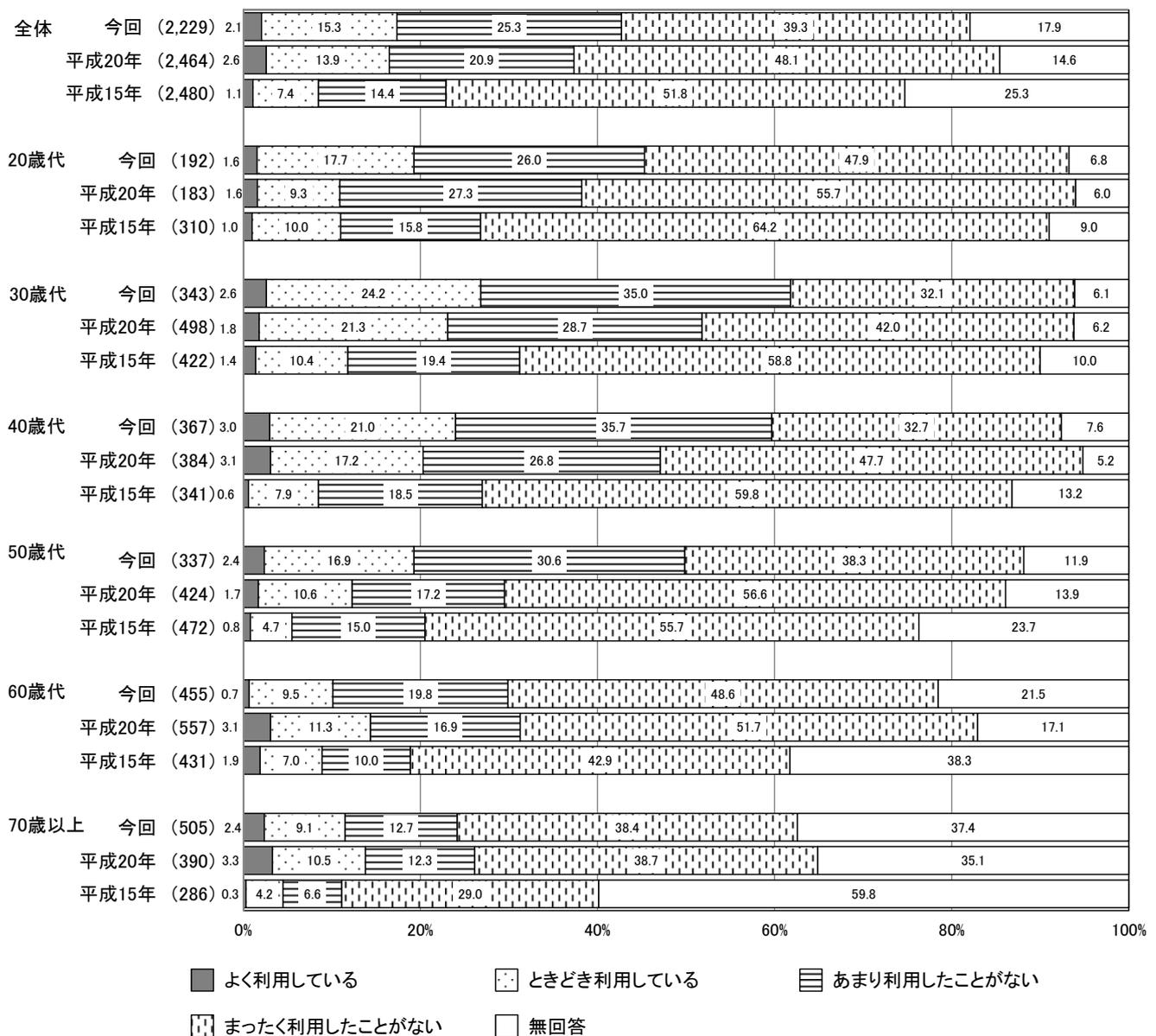
【過去調査との比較】(図 12-1-3)

◆平成 20 年調査と比較すると、60 歳代以上を除き、すべての世代にわたって“利用率”は増加しています。特に、20 歳代は 8.4 ポイント増加しています。

【年齢別】(図 12-1-3)

- ◆ “利用率”が最も高いのは 30 歳代の 26.8%で、最も低いのは 60 歳代の 10.2%となっています。60 歳以上の“利用率”は、他の年齢に比べて低いのが特徴といえます。
- ◆ 「あまり利用したことがない」と「まったく利用したことがない」を合わせた割合は、全年齢において高い割合を占めています。

図 12-1-3 年齢別「岩倉市のホームページの利用状況」(過去調査との比較)



『情報サロン(市役所1階)』

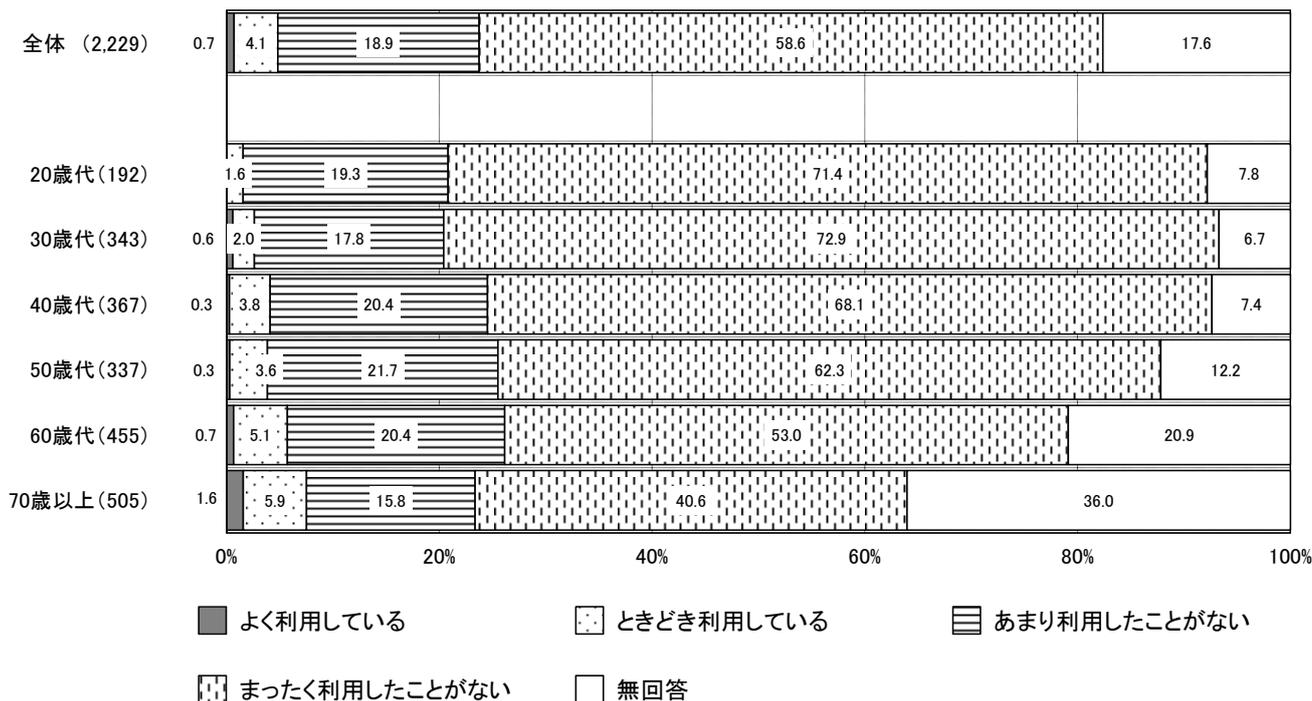
【全体】(図 12-1-4)

◆「あまり利用したことがない」と「まったく利用したことがない」を合わせた割合は、77.5%と高い割合を占めています

【年齢別】(図 12-1-4)

◆いずれの年齢も“利用率”は10%未満と少なくなっていますが、年齢が高くなると若干増加しています。

図 12-1-4 年齢別「情報サロン（市役所1階）の利用状況」



12-2 岩倉市の情報提供への要望

(問42) 岩倉市に対して、今後どのような情報提供を充実してほしいと思いますか。

【〇は3つまで】

「救急医療などの医療機関に関する情報」(31.0%)が最も多く、次いで「いろいろな災害に備えるために必要な情報」となっています。

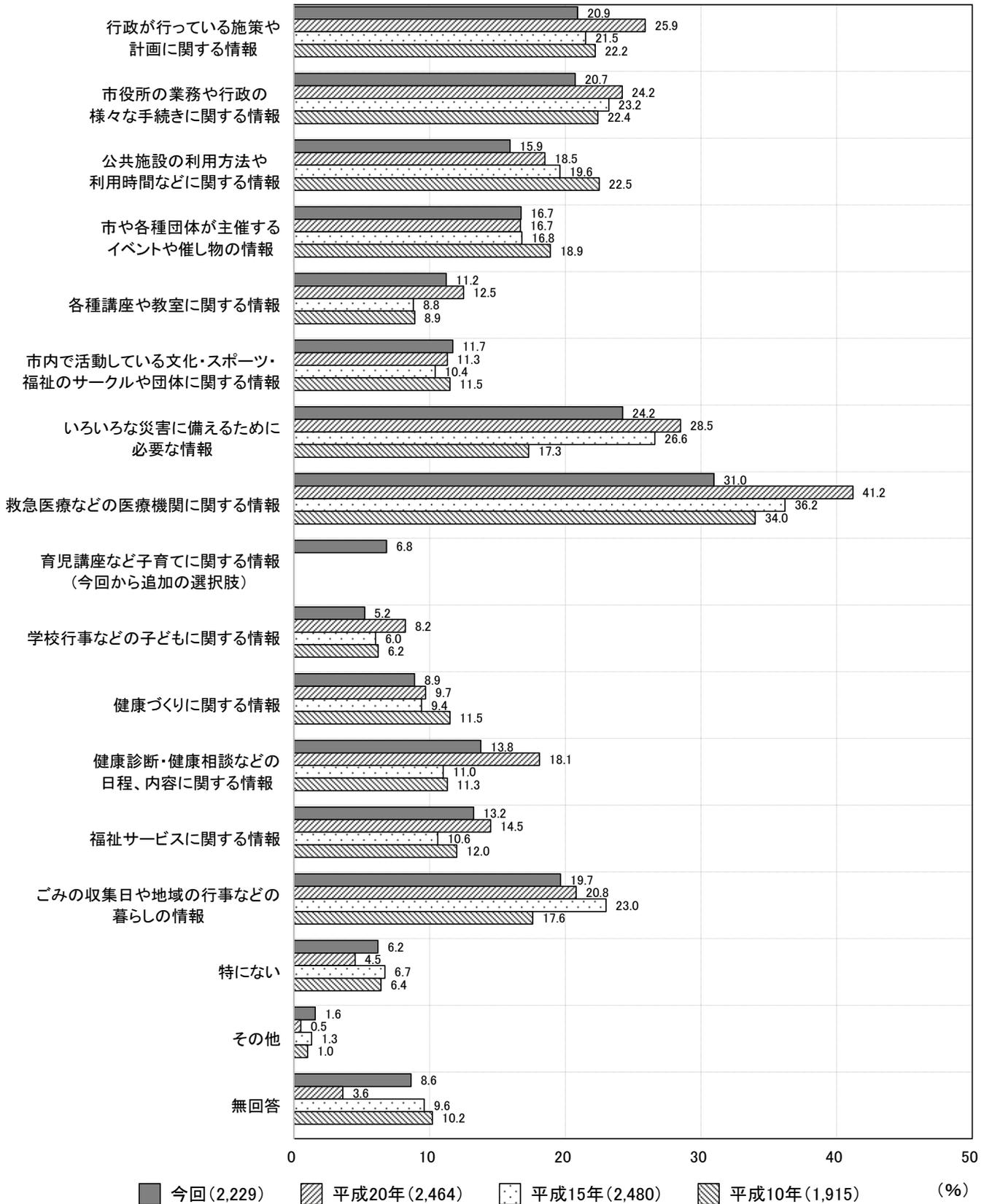
【全体】(図12-2-1)

- ◆「特にない」(6.2%)と「無回答」(8.6%)を合わせた14.8%を除く85.2%の市民が、何らかの情報提供を求めています。
- ◆「救急医療などの医療機関に関する情報」が31.0%と最も多くなっており、次いで、「いろいろな災害に備えるために必要な情報」が24.2%となっています。このように、生活における安全や安心に関する情報の提供を求める割合が多くなっています。
- ◆次いで、「行政が行っている施策や計画に関する情報」(20.9%)や「市役所の業務や行政の様々な手続きに関する情報」(20.7%)といった市政情報や行政サービスの手続き等に関する情報提供となっています。
- ◆また、「ごみの収集日や地域の行事などの暮らしの情報」(19.7%)や「公共施設の利用方法や利用時間などに関する情報」(15.9%)といった、日々の暮らしに関わる行政サービス情報の提供に対する要望も比較的多くなっています。

【過去調査との比較】(図12-2-1)

- ◆前回調査と比較すると、ほとんどの項目において、わずかながら減少しており、「救急医療などの医療機関に関する情報」の減少が最も大きく10.2ポイントとなっています。

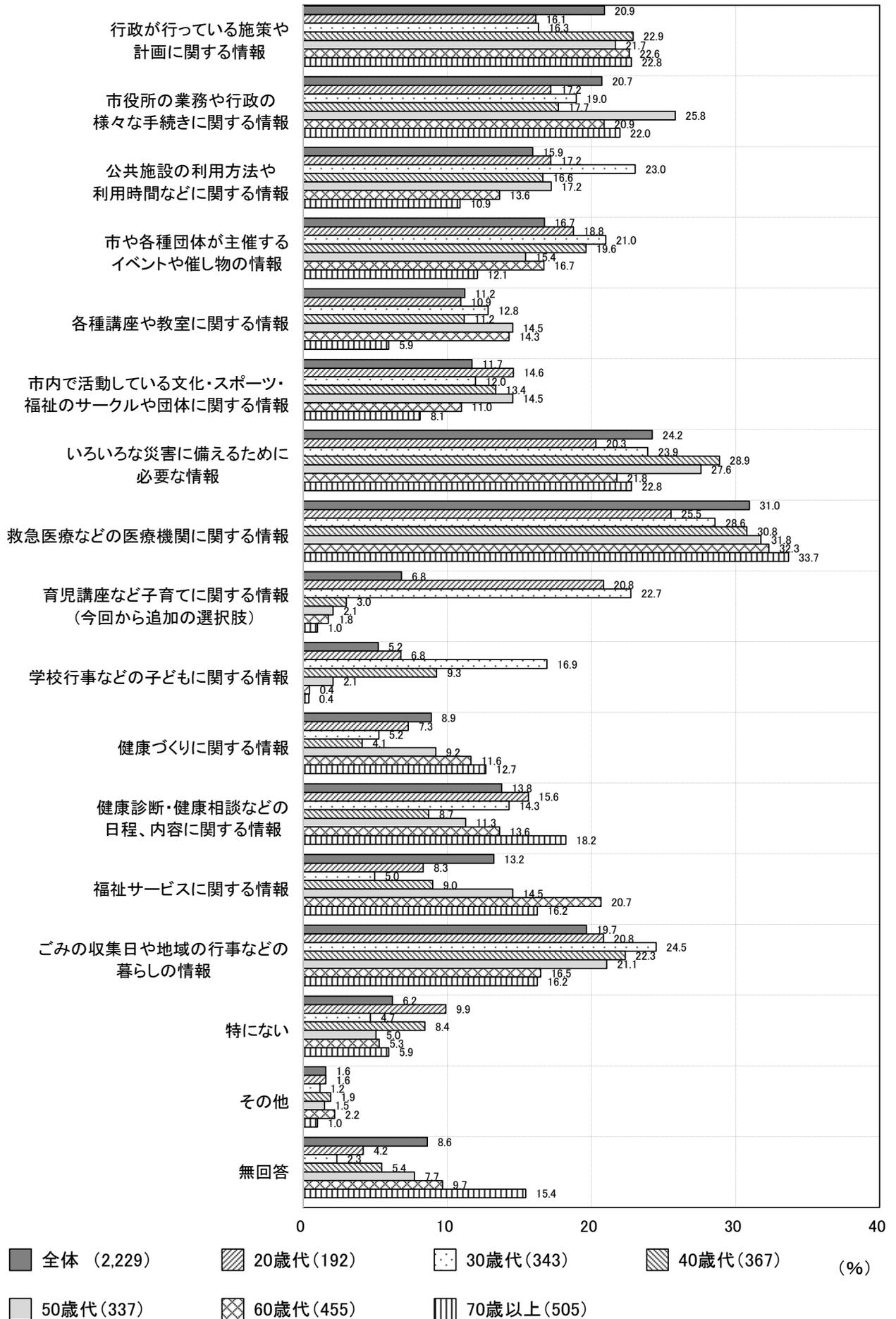
図 12-2-1 「岩倉市の情報提供への要望」(過去調査との比較)



【年齢別】(図 12-2-2)

- ◆最も多くの市民から望まれている「救急医療などの医療機関に関する情報」については、20歳代において25.5%と少なくなっていますが、年齢が高くなるに従い多くなっています。
- ◆「いろいろな災害に備えるために必要な情報」については、40歳代で28.9%と最も多く、20歳代で20.3%と最も少なくなっています。
- ◆「行政が行っている施策や計画に関する情報」についても、40歳代で22.9%と最も多く、20歳代で16.1%と最も少なくなっています。
- ◆「市役所の業務や行政の様々な手続きに関する情報」については、50歳代で25.8%と最も多く、20歳代で17.2%と最も少なくなっています。
- ◆「ごみの収集日や地域の行事などの暮らしの情報」については、30歳代で24.5%と最も多く、70歳以上で16.2%と最も少なくなっています。
- ◆「育児講座など子育てに関する情報」については、子育て中が多い20歳代(20.8%)、30歳代(22.7%)において他の年齢よりも際立って多くなっています。
- ◆「学校行事などの子どもに関する情報」については、30歳代において16.9%と他の年齢よりも際立って多くなっています。

図 12-2-2 年齢別「岩倉市の情報提供への要望」



【小学校区別】(図 12-2-3)

◆一般的に小学校区別による有意な差はみられません。

図 12-2-3 小学校区別「岩倉市の情報提供への要望」

